

# データヘルス計画（第2期） 年次報告書

---

[ 令和元年度 ]

最終更新日：令和2年07月31日

アルバック健康保険組合

## STEP 1-1 基本情報

組合コード	46619
組合名称	アルバック健康保険組合
形態	単一
業種	機械器具製造業

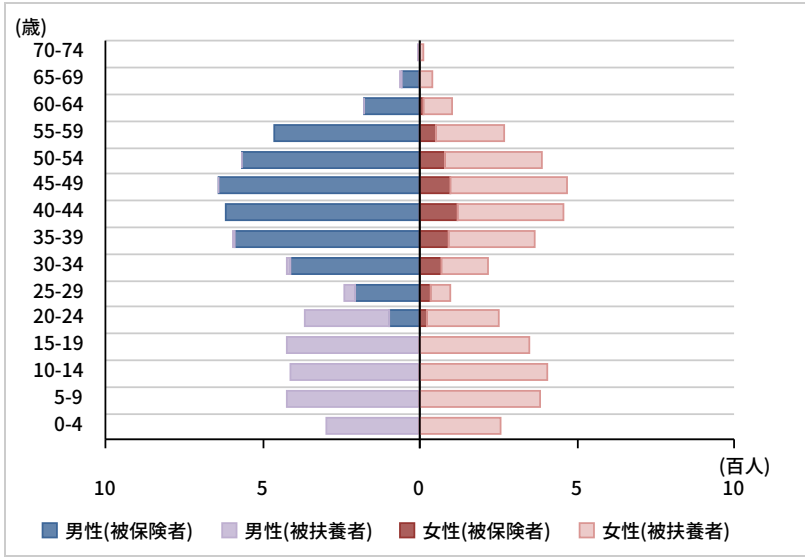
	平成30年度	令和元年度	令和2年度
被保険者数 * 平均年齢は 特例退職被保険者を除く	4,503名 男性86.5% (平均年齢43.1歳) * 女性13.5% (平均年齢42.2歳) *	4,534名 男性86.4% (平均年齢43.1歳) * 女性13.6% (平均年齢42.2歳) *	4,408名 男性85.9% (平均年齢44.4歳) * 女性14.1% (平均年齢43.5歳) *
特例退職被保険者数	0名	0名	0名
加入者数	9,533名	9,630名	9,487名
適用事業所数	19カ所	18カ所	18カ所
対象となる拠点数	100カ所	46カ所	46カ所
保険料率 *調整を含む	85% <sub>00</sub>	85% <sub>00</sub>	80% <sub>00</sub>

		健康保険組合と事業主側の医療専門職					
		平成30年度		令和元年度		令和2年度	
		常勤(人)	非常勤(人)	常勤(人)	非常勤(人)	常勤(人)	非常勤(人)
健保組合	顧問医	0	0	0	0	0	0
	保健師等	1	0	1	0	1	0
事業主	産業医	1	16	1	14	1	14
	保健師等	4	0	4	0	3	0

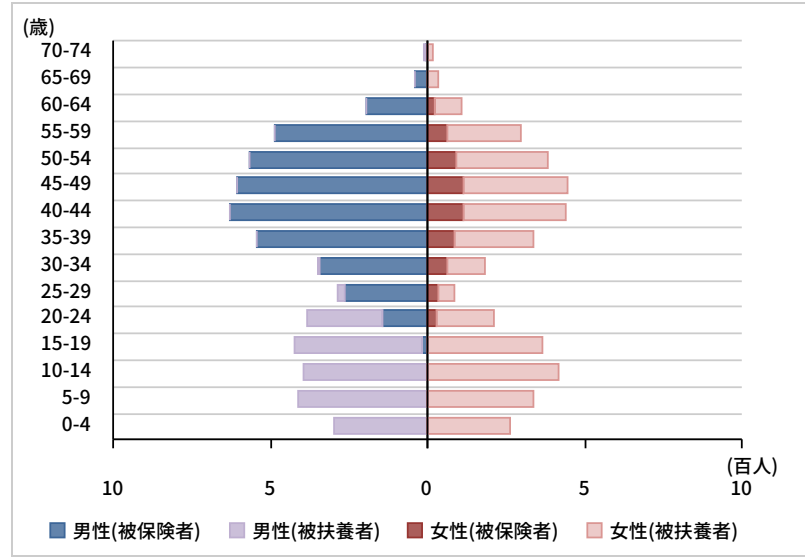
		第2期における基礎数値	
特定健康診査実施率 (特定健康診査実施者数： 特定健康診査対象者数)	全体	2,967 / 3,990 = 74.4 %	
	被保険者	2,421 / 2,690 = 90.0 %	
	被扶養者	546 / 1,300 = 42.0 %	
特定保健指導実施率 (特定保健指導実施者数： 特定保健指導対象者数)	全体	305 / 410 = 74.4 %	
	被保険者	300 / 400 = 75.0 %	
	被扶養者	5 / 10 = 50.0 %	

		平成30年度		令和元年度		令和2年度	
		予算額(千円)	被保険者一人 当たり金額 (円)	予算額(千円)	被保険者一人 当たり金額 (円)	予算額(千円)	被保険者一人 当たり金額 (円)
保健事業費	特定健康診査事業費	13,159	2,922	16,665	3,676	27,500	6,239
	特定保健指導事業費	19,800	4,397	19,960	4,402	21,000	4,764
	保健指導宣伝費	7,476	1,660	7,568	1,669	7,440	1,688
	疾病予防費	54,730	12,154	67,625	14,915	66,750	15,143
	体育奨励費	21,000	4,664	11,000	2,426	5,400	1,225
	直営保養所費	0	0	0	0	0	0
	その他	4,200	933	4,200	926	5,200	1,180
	小計 …a	120,365	26,730	127,018	28,015	133,290	30,238
	経常支出合計 …b	3,077,155	683,357	2,873,764	633,825	3,036,971	688,968
	a/b×100 (%)	3.91		4.42		4.39	

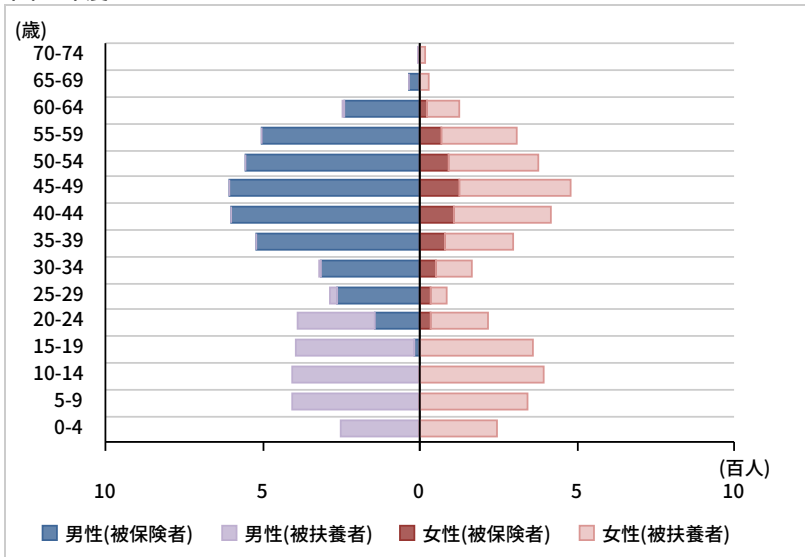
平成30年度



令和元年度



令和2年度



## 男性（被保険者）

平成30年度				令和元年度				令和2年度			
0～4	0人	5～9	0人	0～4	0人	5～9	0人	0～4	0人	5～9	0人
10～14	0人	15～19	0人	10～14	0人	15～19	20人	10～14	0人	15～19	15人
20～24	97人	25～29	205人	20～24	144人	25～29	261人	20～24	145人	25～29	263人
30～34	409人	35～39	587人	30～34	342人	35～39	541人	30～34	312人	35～39	520人
40～44	620人	45～49	639人	40～44	626人	45～49	608人	40～44	601人	45～49	603人
50～54	567人	55～59	464人	50～54	568人	55～59	483人	50～54	556人	55～59	501人
60～64	175人	65～69	59人	60～64	192人	65～69	40人	60～64	238人	65～69	37人
70～74	2人			70～74	7人			70～74	1人		

## 女性（被保険者）

平成30年度				令和元年度				令和2年度			
0～4	0人	5～9	0人	0～4	0人	5～9	0人	0～4	0人	5～9	0人
10～14	0人	15～19	0人	10～14	0人	15～19	1人	10～14	0人	15～19	1人
20～24	23人	25～29	34人	20～24	31人	25～29	34人	20～24	36人	25～29	32人
30～34	66人	35～39	94人	30～34	63人	35～39	88人	30～34	50人	35～39	80人
40～44	120人	45～49	99人	40～44	112人	45～49	114人	40～44	109人	45～49	123人
50～54	80人	55～59	54人	50～54	89人	55～59	60人	50～54	91人	55～59	67人
60～64	14人	65～69	0人	60～64	20人	65～69	0人	60～64	25人	65～69	1人
70～74	0人			70～74	0人			70～74	0人		

## 男性（被扶養者）

平成30年度				令和元年度				令和2年度			
0～4	295人	5～9	422人	0～4	295人	5～9	411人	0～4	254人	5～9	406人
10～14	410人	15～19	424人	10～14	394人	15～19	405人	10～14	404人	15～19	379人
20～24	269人	25～29	36人	20～24	238人	25～29	23人	20～24	243人	25～29	24人
30～34	9人	35～39	4人	30～34	5人	35～39	1人	30～34	4人	35～39	1人
40～44	0人	45～49	1人	40～44	1人	45～49	1人	40～44	1人	45～49	1人
50～54	1人	55～59	0人	50～54	1人	55～59	1人	50～54	1人	55～59	1人
60～64	1人	65～69	3人	60～64	2人	65～69	2人	60～64	3人	65～69	2人
70～74	3人			70～74	4人			70～74	4人		

## 女性（被扶養者）

平成30年度				令和元年度				令和2年度			
0～4	257人	5～9	383人	0～4	261人	5～9	335人	0～4	245人	5～9	340人
10～14	405人	15～19	350人	10～14	417人	15～19	366人	10～14	395人	15～19	362人
20～24	231人	25～29	64人	20～24	182人	25～29	49人	20～24	184人	25～29	49人
30～34	147人	35～39	277人	30～34	119人	35～39	250人	30～34	116人	35～39	216人
40～44	338人	45～49	371人	40～44	324人	45～49	334人	40～44	308人	45～49	352人
50～54	306人	55～59	218人	50～54	290人	55～59	236人	50～54	285人	55～59	241人
60～64	94人	65～69	40人	60～64	88人	65～69	33人	60～64	100人	65～69	28人
70～74	14人			70～74	16人			70～74	19人		

### 基本情報から見える特徴

1. 事業所の拠点が全国にあり、全国的に点在している。事業所数は18で、その本社は7都道府県にあり、そのうちの10事業所は神奈川県にある。この他、サービスセンターが各地に28か所ある。
2. 組合の規模としては、中程度（加入者1万人弱）である。ここ数年は、年1%程度増加の傾向がある。
3. 年齢構成は、男性は40～49歳、女性は40～44歳にピークがある。
4. 3つの事業所には医療専門職が常駐し、他の事業所には常駐していない。

## STEP 1-2 保健事業の実施状況

### 保健事業の整理から見える特徴

1. 被扶養者の特定健診受診率が低迷している。
2. 特定保健指導対象者の割合は徐々に減少してきており、他健保平均より下回20.2%とった。
3. 特定保健指導の実施率はH30年度に改善し、81.8%に達した。
4. 健康情報Webへのアクセス数が一定数維持できている。
5. ウォーキング・イベントの参加者が一定数維持できている。(26.2%)

### 事業の一覧

#### 職場環境の整備

保健指導宣伝	健康管理事業推進合同委員会
保健指導宣伝	保健事業推進のための各事業所との個別会議
保健指導宣伝	健康白書（事業所レポート）

#### 加入者への意識づけ

保健指導宣伝	機関誌発行
保健指導宣伝	健康保険パンフレットの配布
保健指導宣伝	健康情報Webでの情報発信

#### 個別の事業

特定健康診査事業	特定健診（被保険者）
特定健康診査事業	特定健診（被扶養者）
特定健康診査事業	生活習慣病オプション健診（35歳以上の被保険者）
特定保健指導事業	特定保健指導
保健指導宣伝	ジェネリック利用促進の通知
保健指導宣伝	医療費通知
保健指導宣伝	情報提供用紙（ポピュレーション・アプローチ）
保健指導宣伝	ウォーキングイベント（ポピュレーション・アプローチ）
疾病予防	受診勧奨通知（高リスク者の重症化予防）
疾病予防	人間ドック
疾病予防	PET/CT（被保険者）
疾病予防	インフルエンザ予防接種
疾病予防	救急医薬品の送付
疾病予防	電話健康相談
疾病予防	禁煙推進
体育奨励	体育奨励（事業所主催スポーツイベント）
直営保養所	保養所利用補助

#### 事業主の取組

1	定期健康診断
2	健康リスク者の重症化予防
3	ストレスチェック
4	メンタルヘルス研修
5	健康経営の推進

※事業は予算科目順に並び替えて表示されています。

予算科目	注1) 事業分類	事業名	事業の目的および概要	対象者					事業費(千円)	振り返り			注2) 評価
				資格	対象事業所	性別	年齢	対象者		実施状況・時期	成功・推進要因	課題及び阻害要因	
職場環境の整備													
保健指導宣伝	1	健康管理事業推進合同委員会	【目的】保健事業を推進しやすい環境基盤の構築 【概要】健診結果、レセプト等に基づき各事業所の健康状態を分析した結果について健康保険組合と事業所とが共通認識を持ち、両者が協力して改善のための施策を検討し、保健事業を推進しやすい環境基盤を構築する。	被保険者被扶養者	全て	男女	0～74	全員	0	毎年7月に開催。全事業所の委員が集まり、保健事業推進に関する前年度評価、次年度計画を報告し、意見交換を図った。	会議に先立ち、評価、計画の必須事項を決め、統一様式での提出を要請した。	特になし。	5
	1	保健事業推進のための各事業所との個別会議	【目的】保健事業を推進しやすい環境基盤の構築 【概要】健診結果、レセプト等に基づき各事業所の健康状態を分析した結果について健康保険組合と事業所とが共通認識を持ち、両者が協力して改善のための施策を検討し、保健事業を推進しやすい環境基盤を構築する。特に、事業所の個性に応じた議論の場とする。	被保険者被扶養者	一部の事業所	男女	0～74	全員	1,000	医療スタッフがいる3事業所と会議を開催。その後、年間を通じて15事業所とは電話にて開催。特に、被扶養者健診、特定保健指導、がん検診の推進について議論した。	当健保所属の保健師による積極的なアプローチによるところが大きい。事業所の医療スタッフと連携することは、その後の推進に非常に有効。	特になし。	5
	1	健康白書(事業所レポート)	【目的】保健事業を推進しやすい環境基盤を構築 【概要】健診結果、レセプト等に基づき各事業所の健康状態を分析した結果について、事業所ごとのレポート、及び当組合全体のレポートにまとめ、全事業所に配付し、保健事業推進のための各事業所との個別会議等を通じて、健康状態について共通認識を持ち、両者が協力して改善するためのツールとして活用する。	被保険者被扶養者	全て	男女	0～74	全員	324	全事業所向け、及び全体のレポートを作成し、R1年7月の健康管理事業推進合同委員会で配付した。	当健保所属の保健師によるデータ分析が非常に有効。事業所の医療スタッフと連携することは、その後の推進にも非常に有効。	健診データが5月末でないとい十分集まらず、分析する時期が遅くなる。	5
加入者への意識づけ													
保健指導宣伝	2	機関誌発行	【目的】冊子を通じての健康意識の向上 【概要】機関誌の発行し、健康意識の向上を図る。内容は、健保の運営、収支、保健事業の案内、健康情報の提供等。読んでもらう工夫として、事業所持ち回りの健康に関する記事、加入者のウォーキングラリー等のインタビューに多くの紙面を割く。	被保険者被扶養者	全て	男女	18～74	全員	2,470	機関誌発行 年3回(春、秋、冬各1回) 全社員に会社経由で発行	当健保所属の保健師を中心に、記事作成については事業所担当者の協力を得ながら実施し、当組合主催のウォーキングの参加者インタビューや、持ち回りでの事業所紹介等、できるだけ加入者に関連した記事を載せた。	・自宅へ持ち帰らない社員があり、被扶養者の元へ渡らない。 ・広報誌が加入者にどのように受け止められているのかわからない。アンケートを実施しても回答が少ない。 ・有用性を評価する指標が設定しづらい。	5
	2	健康保険パンフレットの配布	【目的】パンフレットによる新規加入者の健康保険に関する理解を促進 【概要】新規に当健保の資格を取得した被保険者に、健康保険制度や給付内容を記載したパンフレットを配付し、健康保険に関する理解を促進する。	被保険者	全て	男女	18～74	全員	12	新入社員への発行を4月に行い、中途採用者に対しては随時実施。	パンフレットの内容を最近の健保状況に合わせて見直した。パンフレットを確実に配布した。健保HPは誰もが閲覧しているとは限らないので、パンフレットは紙媒体で確実に送付することを継続する。	特になし	5
	2	健康情報Webでの情報発信	【目的】健康意識の醸成、ヘルスリテラシーの向上 【概要】Webを用いて各自の健康診断結果、医療費通知、ジェネリック差額通知、ウォーキング・ラリーの歩数、ランニング、また健康に関するいろいろな記事を掲載し、Webを開くたびに自然に健康についての意識が高まることを期待する。	被保険者	全て	男女	0～74	全員	1,132	健保HPはインターネットにて継続公開中。これに加えて、H28年より健康Web/PepUp(ペップアップ)を公開し、登録率は70%超を維持。H30年度月平均のアクセス数が92,959回/月となり、目標の10,000回/月(全加入者数相当)を大きく超えた。	各自の健康診断結果、医療費通知、ジェネリック差額通知、ウォーキング・ラリーの歩数、ランニング、また健康に関するいろいろな記事を掲載した。	アクセス数は一過性では意味がなく、継続的に一定回数を確保できることが重要。	5
個別の事業													
特定健康診査事業	3	特定健診(被保険者)	【目的】生活習慣病の早期発見と健康維持 【概要】事業主が行う定期健診(事業所が主体で実施)と併せて特定健診を実施。健診費用は、任意継続被保険者についてのみ健保負担とし、他の被保険者については事業所負担とする。	被保険者	全て	男女	40～74	全員	280	H30年度実績 対象者 2,793名 受診者 2,662名 受診率 95.3%	事業所の一般健康診断と同時開催。	現在の状況を維持。	5

予算科目	注1)事業分類	事業名	事業の目的および概要	対象者					事業費(千円)	振り返り			注2)評価
				資格	対象事業所	性別	年齢	対象者		実施状況・時期	成功・推進要因	課題及び阻害要因	
	3	特定健診(被扶養者)	【目的】生活習慣病の予防と医療費適正化 【概要】被扶養者の特定健診費用を全額健保で補助し、健診機関連口での支払いは不要とする。また、受診促進のため、健保より対象者全員に特定健診案内を郵送し、案内に従って特定健診を受診してもらう。受診者にはインセンティブを付与する。	被扶養者	全て	男女	40～74	全員	6,195	H30年度実績 対象者 1,321名 受診者 544名 受診率 41.2%	・受診券送付後、一定期間受診のなかった人に対して受診勧奨のハガキを送付。 ・パート先等で健診を受診した場合、健診結果を送ってくれた人に対して商品券を贈呈。 ・事業主にも広報資料を配布して協力の呼びかけ。 ・健診施設を増やした。	特定健診受診の必要性を地道に訴えていく必要がある。これには、インセンティブの活用を検討する。また、がん検診も無料で同時受診できるようにすることも検討する。	2
	3	生活習慣病オプション健診(35歳以上の被保険者)	【目的】生活習慣病の予防と医療費適正化のため 【概要】35歳以上の被保険者に対し、特定健診法定健診項目の他に、生活習慣病リスクをより低減するために、HbA1c、クレアチニン、尿酸値、眼底検査(医師の指示があった場合)を、事業主が行う定期健診と併せて実施。	被保険者	全て	男女	35～39	全員	4,500	【生活習慣病健診】(35～39歳) 対象者 637名 受診者 623名 受診率 97.8%	一般健康診断と一緒に受診できる。	現在の状況を維持。	5
特定保健指導事業	4	特定保健指導	【目的】疾病予防及び健康改善のため 【概要】法定基準に従って対象者を抽出し、事業所と連携を取りながら、被保険者については集団で、被扶養者については個別に保健指導を実施。とりまめは健保が行い、相談員による保健指導自体は外部委託する。	被保険者 被扶養者	全て	男女	40～74	基準該当者	9,087	H30年度 【動機付け支援】 対象者 248名 実施者数 201名 実施率 81.0% 【積極的支援】 対象者数 405名 実施者数 333名 実施率 82.2% 【全体】 対象者数 653名 実施者数 534名 実施率 81.8%	健保専属の保健師を1名配属し、特定保健指導の推進に注力した。また、各事業所の経営トップ層、推進担当者を通じて対象者への働きかけを強化した。特に、各事業所の経営会議で人事部門責任者から特定保健指導の重要性を説明し、実施率の向上を働きかけたことが奏功した。	実施率をさらに向上を継続的に図ると共に、特定保健指導対象者を減少させることにも注力する。	5
保健指導宣伝	8	ジェネリック利用促進の通知	【目的】ジェネリック医薬品の使用促進による医療費適正化 【概要】薬の削減効果が一定額以上見込まれる対象者に、ジェネリック医薬品差額通知を送付し、ジェネリック医薬品の使用を促す。	被保険者 被扶養者	全て	男女	0～74	基準該当者	735	H30年11月ジェネリック通知送付通知対象者人数 2,453名 (2017年7月～2018年6月の薬品購入者で差額効果が300円以上の者) ①使用者/服薬者 2019年3月末:194人/474人(利用率40.9%) ②ジェネリック使用割合(数量) 2019年3月末:80.1% ③通知者の削減額(2018年11月～2019年3月) 1,240千円(GE使用者当たり4,788円)	・通知対象者の抽出期間を1年間とし、対象者数を約2倍に増やした。 ・対象者の自宅宛に直接送付。 ・封筒に健保のメッセージを表示。 ・通知文書に「ジェネリックお願いシール」を同封し、診察券や保険証に貼ってもらうよう促した。 ・保険証発行の都度、お願いシールを同封。	使用割合は順調に増加。	5
	2	医療費通知	【目的】健康意識の向上と医療費適正化 【概要】健康情報Webを通じて、世帯ごとの医療費を被保険者宛に毎月通知し、認識してもらうことで、医療費負担の観点から、健康意識と、医療費適正化意識の向上を目指す。費用は健康情報Web運営費に含む。	被保険者 被扶養者	全て	男女	0～74	全員	200	H30年度は、上期の2回のみ紙で発行し、下期はWebのみでの通知とした。配信頻度は毎月1回。 年間概算発行数 被保険者向け約3,500通×年2回発行=7,000通	メールとWebによる配信で事業所担当者の手間を大幅に削減した。	継続実施。	5
2,4		情報提供用紙(ポピュレーション・アプローチ)	【目的】健康意識をの向上 【概要】健診の検査項目が一定基準(低リスク)の該当者に対し、情報提供用紙を送付。H28年度より、紙媒体を止めて、ICTを活用しWebによる情報発信に切り替えた。	被保険者	一部の事業所	男女	18～74	基準該当者	437	健康Webを運営し、Web上で各自の健康状態を始め、種々の健康情報を発信した。H30年度における健康Webへの全アクセス数は、月平均96,699回/月で、目標の10,000回/月(全加入者数相当)を大きく上回った。	健診結果を経年でグラフ化。健康リスク度をポイント化して掲載するなど、わかりやすい内容にして送付。それに加え、医療費通知、ジェネリック差額通知、健康クイズも掲載している。	健康Webへのアクセス数を維持するために、如何に内容を充実させ、飽きさせないかを常に考える必要がある。	5
	8	ウォーキングイベント(ポピュレーション・アプローチ)	【目的】運動習慣による健康増進 【概要】運動習慣の定着は一時的なスポーツイベントでは難しいため、日常生活上で運動を行うよう被保険者を対象にウォーキングイベントを開催する。これにより、被保険者の運動習慣を身に着けるきっかけとし、最終的には、健康リスクが減少することを期待する。	被保険者	全て	男女	18～65	全員	4,678	H30年度は年2回実施。当年度の累積参加率は29.4%。インセンティブポイント獲得率も、1回目63.5%、2回目92.8%となり多くの人が実際ウォーキングしていることが確認された。	インセンティブとして、日々歩いた人にはポイントを付与したこと、Webを活用して記録に手間をかけさせずにできたこと、各事業所の部署チーム対抗形式が成功要因と思われる。	今後さらに参加者を増やしていく。	5

予算科目	注1) 事業分類	事業名	事業の目的および概要	対象者					事業費(千円)	振り返り			注2) 評価
				資格	対象事業所	性別	年齢	対象者		実施状況・時期	成功・推進要因	課題及び阻害要因	
疾病予防	4	受診勧奨通知(高リスク者の重症化予防)	【目的】生活習慣病の重症化予防と早期治療 【概要】検査項目が一定の健康リスク基準に該当した未治療者に対し、健保と事業所が連名で受診勧奨の文書を送付(事業所経由または直接自宅に送付)し、医師の受診を促す。受診の確認も行う。目標：受診率70%以上	被保険者	一部の事業所	男女	18～74	基準該当者	40	対象者数 215名 受診者数 127名 受診率 59.1% 未受診者についても、健保所属保健師より電話で連絡を取り、次回健診後に受診することを約束する等した。	健保と事業所の連名で送付したため、強制力が強く働いた。また、健保所属保健師より電話でも受診勧奨した。	保健師からの電話で受診しなければならないことを理解してもらえが、すぐに受診してもらうまでには至っていない。事業所による強制的措置が必要。	4
	3	人間ドック	【目的】病気の早期発見及び予防 【概要】35歳以上を対象に、人間ドック費用の一部を補助する。人間ドックは高額であり、また費用に対する疾病予防効果も不明瞭であるため、受診率の数値目標はあえて高い数値は設定しない。(費用補助) 上限：被保険者25,000円、被扶養配偶者20,000円	被保険者 被扶養者	全て	男女	35～74	全員	3,568	対象者数 5,184名 受診者数 152名 受診率 2.9%	特になし。	・受診率が低く、新規受診者も少ない。	5
	3	PET/CT(被保険者)	【目的】病気の早期発見と予防 【概要】35歳以上の被保険者を対象に、PET/CT費用の一部を補助する。PET/CTは高額であり、また費用に対する疾病予防効果も不明瞭であるため、受診率の数値目標はあえて高い数値は設定しない。(費用補助) 上限：40,000円	被保険者	全て	男女	35～74	全員	240	対象者数 3,557名 受診者数 6名 利用率 0.2%	特になし。	・受診率が低い。 ・費用が高額であり、また費用に対する疾病予防効果も不明瞭である。現状維持で十分。	5
	-	インフルエンザ予防接種	【目的】インフルエンザの予防 【概要】インフルエンザ感染予防のため予防接種を推奨し、インフルエンザ予防接種を受けた被保険者に対し、上限2,000円まで補助金を支給する。	被保険者	全て	男女	18～74	全員	8,530	10月～12月に実施。 被保険者数 4,543名 接種者数 2,863名 利用率 63.0%	人数の多い事業所では勤務時間内に集団接種を実施しており、利用しやすい状況であった。	インフルエンザ予防接種による費用対効果ははっきりとわからない。他の予防措置として、罹患時の就業制限徹底、うがいの励行、マスク着用励行等があり、これらは事業所が既に実施している。	5
	8	救急医薬品の送付	【目的】病気、ケガの応急処置、健康意識の向上、健康保険組合に対する認知 【概要】健康保険の資格取得者に医薬品の入った救急箱を無償で提供し、健保の存在を認識してもらう。	被保険者	全て	男女	18～74	全員	1,060	配布者 372名	特になし。	特になし。	5
	6	電話健康相談	【目的】こころと体の健康維持 【概要】こころと体の健康維持のため、健康・介護・育児など心身に関わる悩みを電話やメール等で相談できる窓口を設置し、無料で相談を受けられる。相談窓口は外部委託とする。	被保険者 被扶養者	全て	男女	0～74	全員	1,123	からだの相談件数 108件 こころの相談件数 78件	健保日よりホームページ等で相談窓口の広報をした。	健保日より保険事業一覧表を掲載し、他の保険事業と合わせて周知を図った。	5
	5	禁煙推進	【目的】禁煙推進による健康増進 【概要】禁煙推進のため、特定保健指導対象者のうち、喫煙習慣のある者に対して、特定保健指導初回面談時に禁煙に関するパンフレットを渡し、禁煙を指導する。	被保険者 被扶養者	全て	男女	18～74	基準該当者	3人	H30年度特定保健指導において、初回面談時に禁煙に関するパンフレットを渡し、禁煙を指導した。 特定保健指導対象のうち喫煙者：245人 上記のうち面談実施者：189人(77.1%) 禁煙を達成したかどうかは次回健診時の問診票により評価する。	健康リスクの高い特定保健指導対象者のうち喫煙者に的を絞って実施。	評価待ち。	4
体育奨励	8	体育奨励(事業所主催スポーツイベント)	【目的】心のリフレッシュと運動習慣のきっかけづくり 【概要】こころのリフレッシュと運動習慣のきっかけづくりとして、各事業所での運動会等のスポーツイベントの開催を奨励し、費用(年1回/一人当たり2,000円)を補助する。	被保険者	全て	男女	18～74	全員	333	対象者 4,543名 実施者 333名 利用率 7.3% 事業所主催運動会、グループ会社全体での駅伝大会、体力測定イベントなどが開催された。	従業員の体力づくりだけでなく、従業員同士の交流の場にもなっている。こころの健康づくりに貢献している。	運動会自体の開催が少ないため、例年利用率が低い。	5
直営保養所	8	保養所利用補助	【目的】心身のリフレッシュ 【概要】心身のリフレッシュのため、年1回国内を旅行することを推奨し、国内のすべての宿泊所を対象に、宿泊費を年度内1回に限り補助する。(年1回、被保険者上限4,000円、被扶養者上限3,000円)	被保険者 被扶養者	全て	男女	6～74	全員	4,905	対象者 8,997名 利用者 1,415名 利用率 15.7%	全国すべての宿泊施設が対象となる。リピーターが多い。補助金の制度について周知が不足していると考え、H29年1月発行の健保日よりから保険事業一覧表(補助金額も記載)を大きく掲載することにした。これにより、利用率が若干増加した。	補助金が支給されることを知らない人がいるため、周知のために、継続的に健保日よりから保険事業一覧表を掲載する必要がある。	5



予算科目	注1) 事業分類	事業名	事業の目的および概要	対象者					事業費(千円)	振り返り			注2) 評価
				資格	対象事業所	性別	年齢	対象者		実施状況・時期	成功・推進要因	課題及び阻害要因	
注1)	1.	職場環境の整備	2. 加入者への意識づけ	3. 健康診査	4. 保健指導	5. 健康教育	6. 健康相談	7. 訪問指導	8. その他				
注2)	1.	39%以下	2. 40%以上	3. 60%以上	4. 80%以上	5. 100%							

事業名	事業の目的および概要	対象者			振り返り			共同実施
		資格	性別	年齢	実施状況・時期	成功・推進要因	課題及び阻害要因	
事業主の取組								
定期健康診断	安衛法に基づく健診と特定健診の同時実施	被保険者	男女	18 ～ 74	H29年度定期健診のうち特定健診実施率94.8%	各事業所による受診促進活動の徹底。事業所の安全表彰制度の評価項目に健診実施率が盛り込まれ、実施率が低いと減点となる。	特になし	有
健康リスク者の重症化予防	高リスク者に対して受診勧奨を行い、早期治療を促す。	被保険者	男女	18 ～ 74	健康診断の結果から治療が必要な従業員に対して、生活習慣の指導および治療状況を確認。産業医、または保健師がいない事業所に対しては健保が実施している。	健診受診後、産業医または保健師（看護師）から直接または通知等により受診勧奨を行っている。重症化予防の観点から、就業制限を考慮して行っている。	高リスク者でも治療を放置する人がいるため、左記のような対応が不可欠。	有
ストレスチェック	労働者自身のストレスの状況についての気づきを促し、ストレスの状況を早期に把握して必要な措置を講じることにより、労働者がメンタルヘルス不調となることを未然防止する。	被保険者	男女	18 ～ 74	健康診断申請時に同時に実施。回答率95.9%。	健康診断とセットで受診するため、回答率が高い。回答者の記憶が確かな内に、回答後2日以内に対応した。	特になし	無
メンタルヘルス研修	「組織活性化」を図る一環として、一般職と管理職向けにメンタルヘルス研修（組織活性化研修）を実施。	被保険者	男女	18 ～ 74	全社員（一般職と管理職）を対象にメンタルヘルス研修を実施。役員・部署長を対象とした研修、社員の運動習慣定着を目的としたセルフケア研修（246人）を実施。	安全衛生委員会で周知。社内安全表彰の加点对象項目とした。	希望者を対象に行っているが、今のところ満足のいく実施状況。モチベーション向上の評価はアンケートでしか測れていない。	無
健康経営の推進	従業員の健康づくりを推進することで組織活性化、業績向上を目指す	被保険者	男女	18 ～ 74	経産省主催ホワイト500の認定受領（㈱アルバック）、健保連神奈川健康優良企業認定受領（アルバック販売㈱）。広報誌ULVACで社長×産業医対談を掲載。	健保、事業所医療専門職とが連携して経営層に働きかけ、徐々に浸透してきつつある。	経営層の健康経営に対するさらなる意識向上が必要。	有

# STEP 1-3 基本分析

## 登録済みファイル一覧

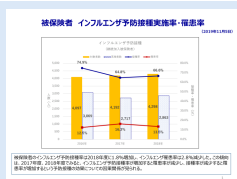
記号	ファイル画像	タイトル	カテゴリ	コメント
ア		加入者の年齢分布	加入者構成の分析	<p>当健保の加入者全体の年齢分布のピークは、2016、2017年度では40-44歳にあったが、2018年度では45-49歳と高齢側にシフトしてきた。また、55-59歳（定年退職間際の人）の人数が年々増加してきた。全体として高齢化の傾向が見られる。経年の高齢化傾向は、被保険者、被扶養者のそれぞれの年齢分布にも見られる。当健保の加入者の男女別年齢分布のピークは、男性については、40-44歳から45-49歳と高齢側にシフトし、女性についても同様の傾向が見られる。</p>
イ		医療費	医療費・患者数分析	<p>当健保の2018年度の総医療費は昨年度から33百万円（2.4%）増加した。これは、被保険者数が106人増加（2.5%増加）したことに伴い、医療費が32百万円（5.0%）増加したことが一因と考えられる。一方、被扶養者数は微減し医療費は横ばいであった。</p> <p>当健保の2018年度の加入者全体1人当たり医療費は2,032円増加（1.5%）した。増加傾向は被保険者、被扶養者共同様である。増加傾向は被保険者、被扶養者共に変わらない。また、他健保平均と比較して、9,199円少ない（6.8%）。被保険者の一人当たり医療費が他健保平均より2,277円少なく（1.6%）、被扶養者が12,992円少ない（10.0%）。</p> <p>当健保の2018年度の加入者全体患者1人当たり医療費は1,249円増加（0.8%）した。また、他健保平均と比較して、11,250円少ない（7.4%）。増加傾向は被保険者、被扶養者共に同様である。被保険者の患者一人当たり医療費は他健保平均より1,289円少なく（0.8%）、被扶養者は18,260円少ない（12.8%）。</p> <p>加入者全体の患者数は加入者数の増加（1.0%）に伴い増加（1.2%）した。また、被保険者の患者数は被保険者数の増加（2.5%）に伴い増加（4.1%）し、被扶養者の患者数は被扶養者数の減少（0.3%）に伴い減少（1.0%）した。</p> <p>当健保の2018年度の加入者全体レセプト1件当たり医療費は73円減少（0.6%）した。また、他健保平均と比較して、645円少ない（5.2%）。被保険者レセプト1件当たり医療費は421円減少（2.8%）し、被扶養者は46円増加（0.4%）した。被保険者のレセプト当たり医療費は他健保平均より137円多く（1.0%）、被扶養者は951円少ない（8.0%）。</p> <p>加入者全体のレセプト件数は加入者数の増加（1.0%）に伴い増加（2.5%）した。また、被保険者の患者数は被保険者数の増加（2.5%）に伴い増加（7.1%）し、被扶養者の患者数は被扶養者数の減少（0.3%）に伴い減少（0.4%）した。</p> <p>当健保の疾病別医療費割合は、他健保と比較してほぼ同様の傾向である。生活習慣病起因の疾病は全体の約1/4を占めている。また、がん関連疾病は8.6%であった。生活習慣の改善により、これらを減少させることが重要</p>

				<p>である。その他疾患については、35.6%を占めているが、この中には生活習慣と関係しているものも多く、生活習慣の改善により減少が期待できる。</p> <p>アルバックの生活習慣病別医療費は、ほとんどの疾病が前年度よりやや減少傾向にある。また、ワースト3である高血圧性疾患、脂質異常症、糖尿病はいずれも健保平均よりは少ない。</p> <p>加入者全体の年齢別総医療費のピークは50～59歳で、次いで40～49歳である。これらの年齢層の医療費は年々増加傾向にある。特に、50～59歳の医療費は、2016年度から2018年度にかけて14.2%増加している。この傾向は、被保険者も同様である。</p> <p>当健保における加入者全体の1人当たり医療費は、9歳以下を除き、年代と共に増加傾向にある。この年齢層の医療費は年々増加傾向にある。また、40歳以上については、他健保平均よりいずれの年代も多い。被保険者は50～59歳において、被扶養者は、70歳以上において他健保平均より特に多い傾向がある。</p> <p>ICD10大分類別にアルバックの一人当たり医療費を見ると、ほとんどの疾患が健保平均より少ない。疾患別医療費の全体的な傾向は、健保平均とほぼ同様で、ワーストスリーは、呼吸器系の疾患、消化器系の疾患、内分泌、栄養及び代謝疾患である。</p>
ウ		健康リスク者の分布	健康リスク分析	<p>当健保の健康リスク者分布を見ると、他健保平均と比較して、正常群の割合が多く、一方、生活習慣病及び重症化患者が少ない。他健保平均と比較して、全体的に健康側に分布している。この傾向は、被保険者についても同様である。今後、さらに正常群の割合を増加させていきたい。</p> <p>当健保の血圧リスク者分布を見ると、分布全体は大きな経年変化はなく、正常群は約70%で、他健保平均とほぼ同じある。被保険者の正常群は68.3%で他健保平均より小さいが、被扶養者の正常群は増加傾向にあり83.4%で、他健保平均より4.8%小さい。</p> <p>今後は、被保険者の正常群割合を増加させていきたい。</p> <p>当健保の血糖リスク者分布を見ると、加入者全体では正常群は67.2%で、減少傾向にあり、逆に、不健康な生活群は増加傾向にある。この傾向は、被保険者も同様である。一方、被扶養者は正常群が増加傾向にある。</p> <p>今後は、いかに被保険者の血糖値の正常群を増加させるかが課題である。</p> <p>当健保の脂質リスク者分布を見ると、加入者全体では正常群は40%程度で、血圧リスク者、血糖リスク者の割合と比べて約30%少なく。逆に、不健康な生活群は50%台でやや増加傾向にある。被保険者の経年変化は各群共ほぼ横ばいであるのに対し、被扶養者は正常群が減少傾向にある。今後は、いかに脂質値の正常群を増加させるかが課題である。</p>

工		生活習慣の状況	その他	<p>当健保の運動習慣として「1回30分以上の軽く汗をかく運動を週2日以上かつ1年以上実施」している割合を見ると、2018年度は0.5%減少しており、健保平均より0.5%大きく23.6%である。また、被保険者、被扶養者単独でも同様の傾向がみられる。今後、全体の運動習慣を如何に向上させるかが課題である。</p> <p>当健保の運動習慣として「日常生活において歩行又は同等の身体活動を1日1時間以上実施」している割合を見ると、2016年度～2018年度において徐々に増加しており、2018年度で加入者全体では健保平均より1.5%多く38.2%である。また、被保険者、被扶養者単独でも同様の傾向が見られる。今後、全体の運動習慣を如何に向上させるかが課題である。</p> <p>当健保の生活習慣として「現在、たばこを習慣的に吸っている」者の割合は、2018年度で加入者全体では健保平均より5.1%多く30.2%である。被保険者単独でも健保平均より4.9%高い。今後、被保険者の喫煙習慣を如何に減らすことができるかが課題である。</p>
才		特定健診実施率	特定健診分析	<p>2018年度の当健保の特定健診受診率を見ると、加入者全体では、昨年度より0.3%増加し、単一健保平均より4.9%大きい。また、被保険者の受診率は健保平均より11.2%高いが、一方、被扶養者の受診率は単一健保平均より6.9%低い。</p> <p>今後、被扶養者の健診受診率を如何に上げるかが課題である。</p>

<p>力</p>	<p>特定保健指導 対象者</p> 	<p>特定保健指導対象者・実施率</p>	<p>特定保健指導分析</p>	<p>当健保の特定保健指導対象者割合を見ると、加入者全体ではここ数年は減少傾向にあり、2018年度は健保平均を1.2%下回った。また、被保険者の対象者割合は減少傾向にあるが、被扶養者の対象者割合も前年度より0.9%減少した。今後も引き続き、特定保健指導対象者を如何に減少させるかが課題である。</p> <p>当健保の特定保健指導対象者を積極的支援者と動機づけ支援者の内訳でみると、約60%が積極的支援者である。推移をみると、加入者全体では、積極的支援者の割合が増加し、動機づけ支援者の割合が減少している。また、被保険者の積極的支援者の割合は健保平均よりやや高く、被扶養者の積極的支援者の割合は逆に健保平均より低い。</p> <p>当健保の特定保健指導実施率は、年々増加し、2018年度で81.8%となった。この結果は、全事業所と連携して実施率向上を推進した成果が表れたといえる。被扶養者については、3名が終了に至った。今後は、被扶養者健診直後に初回面談を受けられる等の環境を検討していく。</p> <p>当健保の特定保健指導終了者割合を支援別にみると、動機付け支援者と積極的支援者のいずれも80%以上となり、大きな差異はなかった。動機付け支援は2018年度から3か月のプログラムとしている。</p> <p>当健保の特定保健指導対象者のうち、加入者全体において、血圧値が特定保健指導の基準値に該当した者の割合は減少した(0.4%)。また、被保険者単独では該当者が0.6%増加し、被扶養者単独では1.2%減少している。</p> <p>当健保の特定保健指導対象者のうち、加入者全体において、血糖値が特定保健指導の基準値に該当した者の割合は増加傾向にある。また、被保険者単独では該当者が2.8%増加し、被扶養者単独では1.2%減少している。</p> <p>当健保の特定保健指導対象者のうち、加入者全体において、脂質値が特定保健指導の基準値に該当した者の割合はやや減少した(0.2%)。また、被保険者単独では該当者が0.2%減少し、被扶養者単独では0.8%増加している。</p> <p>当健保の特定保健指導対象者のうち、加入者全体において、喫煙習慣が特定保健指導の基準値に該当した者の割合は減少した(0.9%)。また、被保険者単独では該当者が1.5%減少し、被扶養者単独では1.9%増加している。</p> <p>今後、さらに禁煙対策が必要と考える。</p>
<p>キ</p>	<p>生活習慣病健診実施率</p> 	<p>若年層(35~39歳)向け生活習慣病健診実施率</p>	<p>特定健診分析</p>	<p>当健保の35~39歳の被保険者を対象とした生活習慣病健診は、平成28年度以降で90%以上を維持している。これは、全被保険者を対象として、健康Webに経年の健診結果を掲載するために結果を積極的に回収したことによるものと推測される。他健保平均と比較しても十分な実施率と評価できる。これにより、40歳以上になった後の健康増進によい影響を及ぼすと考える。</p>

ク



## インフルエンザ予防接種

## その他

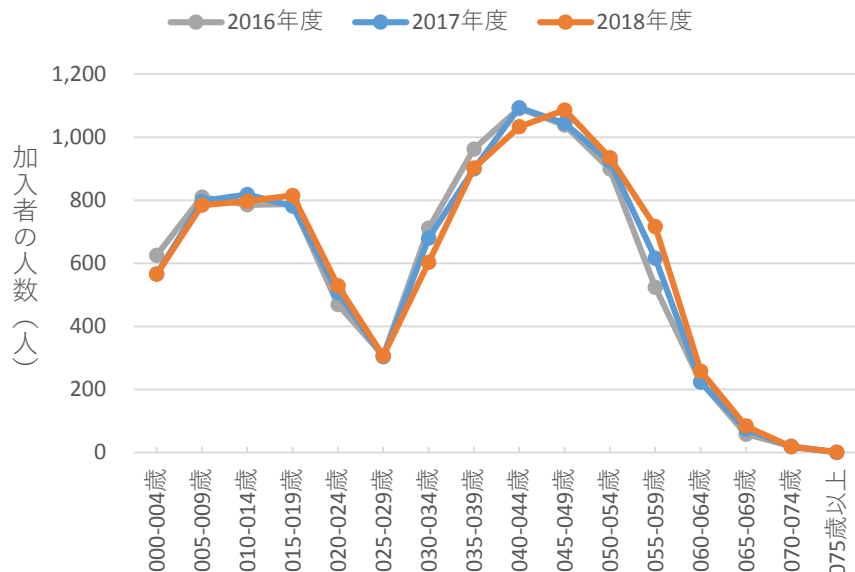
被保険者のインフルエンザ予防接種率は2018年度に1.8%増加し、インフルエンザ罹患率は2.8%減少した。この傾向は、2017年度、2018年度でみると、インフルエンザ予防接種率が増加すると罹患率が減少し、接種率が減少すると罹患率が増加するという予防接種の効果についての因果関係が見られる。

2018年度のインフルエンザ罹患率は、加入者全体では前年度に対し2.8%減少し13.5%となったが、他健保平均と比べて3%程度高い傾向がある。被保険者の罹患率は増加傾向があるが、他健保平均よりやや低い。一方、被扶養者の罹患率は被保険者の約2倍で、他健保平均よりたかい。すなわち、被扶養者の罹患率が高いことが加入者全体の罹患率を高くしている。今後、被扶養者の罹患率を如何に減少させるかが課題であるが、現在、被保険者のみを対象としているインフルエンザ予防接種の補助を被扶養者へも展開すべきかの検討も進めていく。

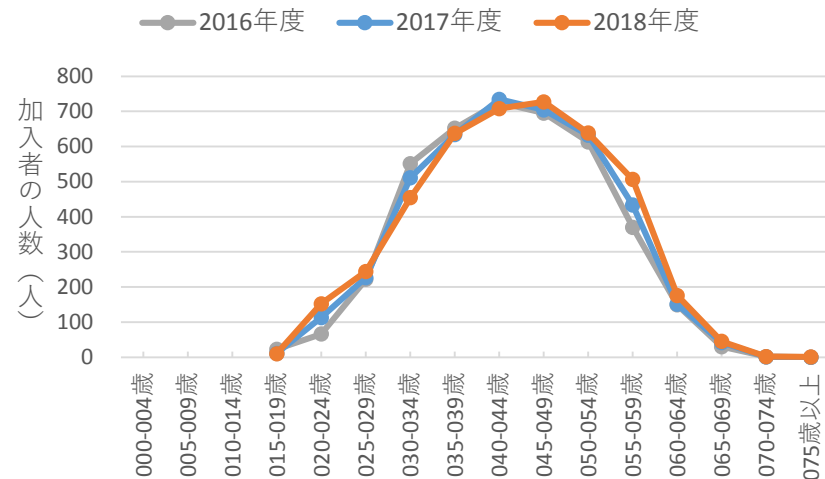
# 加入者の年齢分布（加入者区分別）

（2019年8月26日）

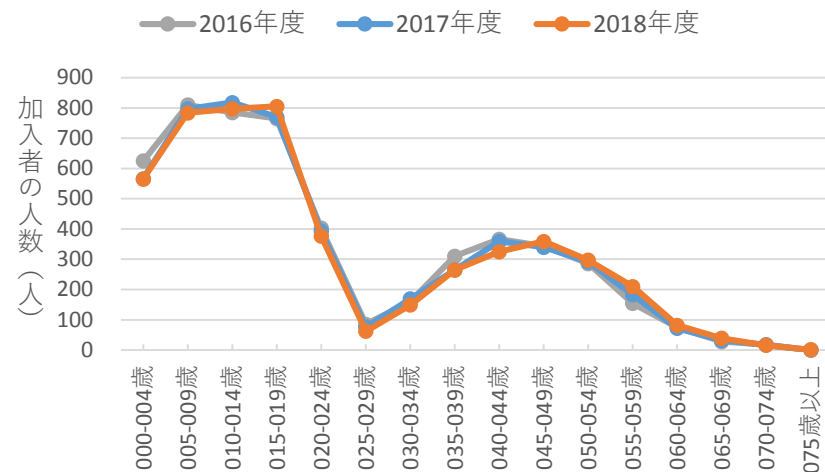
年齢分布（加入者全体）



年齢分布（被保険者）



年齢分布（被扶養者）



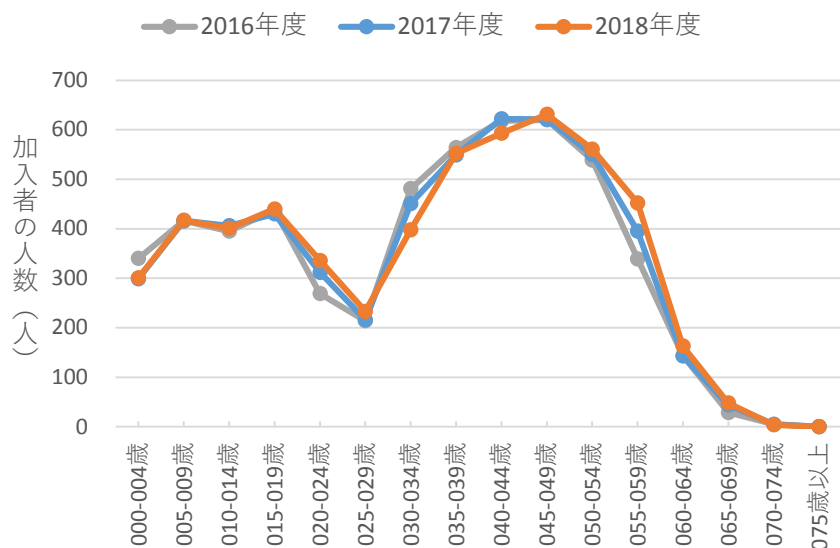
当健保の加入者全体の年齢分布のピークは、2016、2017年度では40-44歳にあったが、2018年度では45-49歳と高齢側にシフトしてきた。また、55-59歳（定年退職間際の人）の人数が年々増加してきた。全体として高齢化の傾向が見られる。経年の高齢化傾向は、被保険者、被扶養者のそれぞれの年齢分布にも見られる。



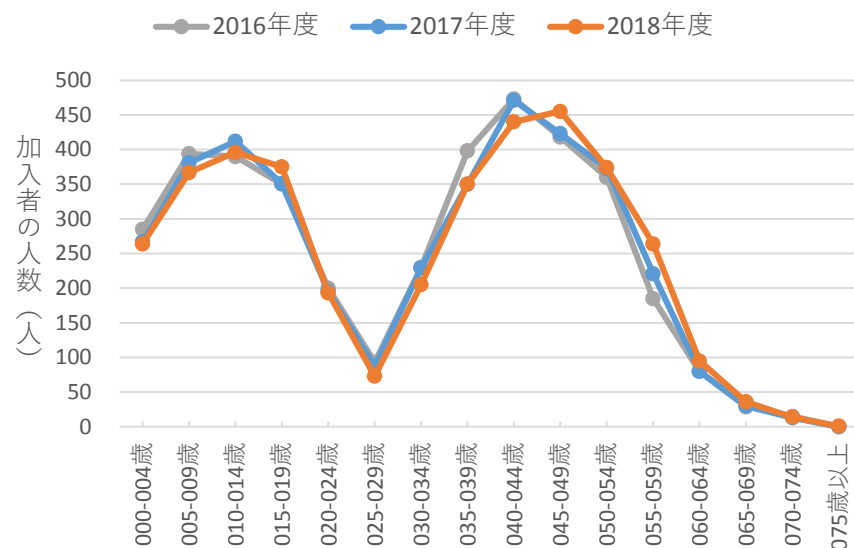
# 加入者の年齢分布（男女別）

（2019年8月26日）

## 年齢分布（男性）



## 年齢分布（女性）

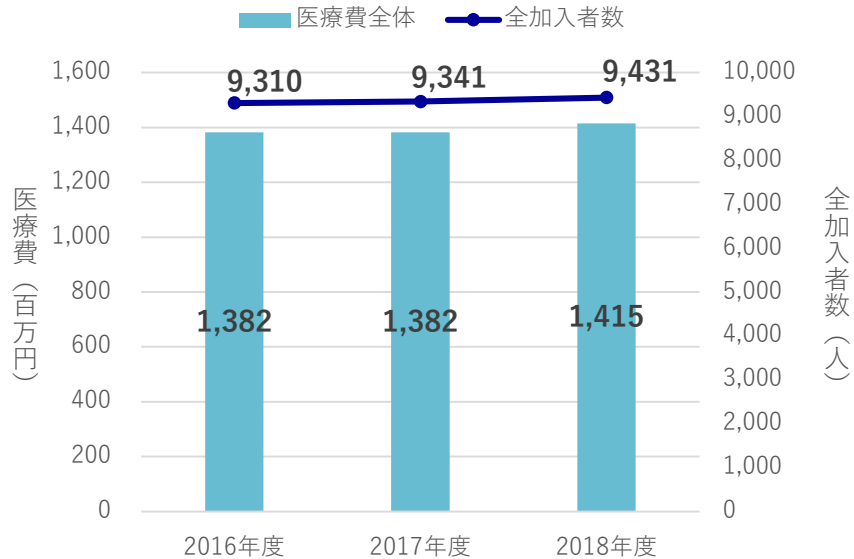


当健保の加入者の男女別年齢分布のピークは、男性については、40-44歳から45-49歳と高齢側にシフトし、女性についても同様の傾向が見られる。

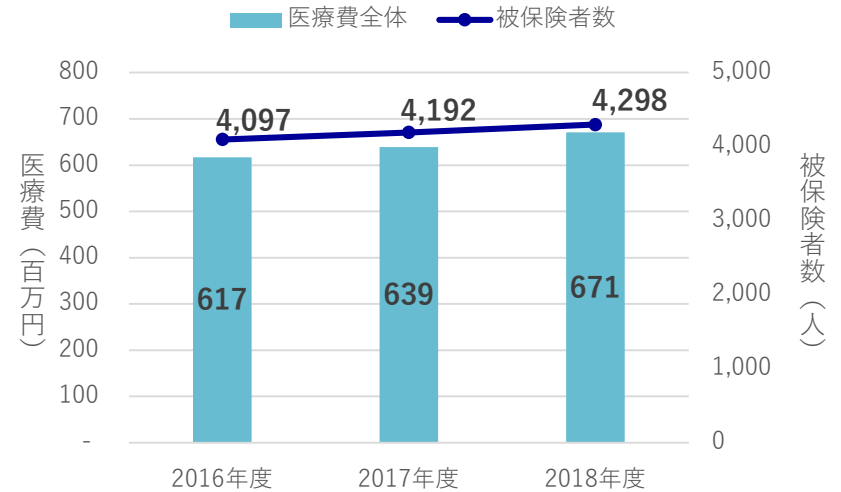
# 総医療費

(2019年10月8日)

医療費総計（加入者全体）

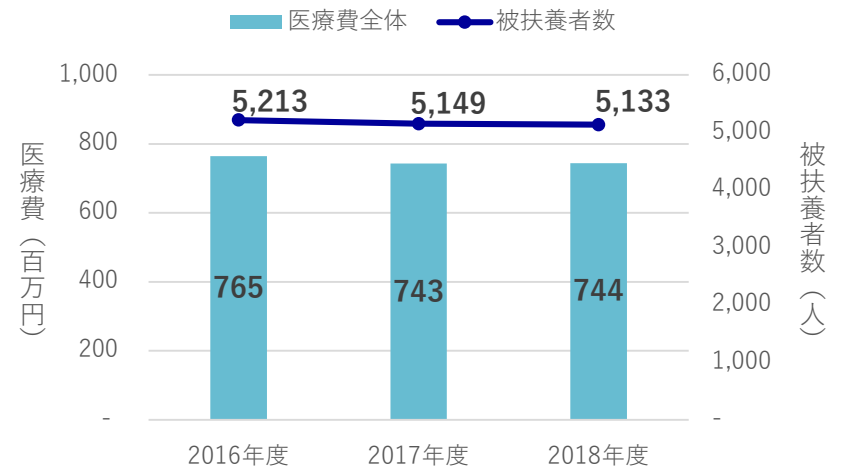


医療費総計（被保険者）



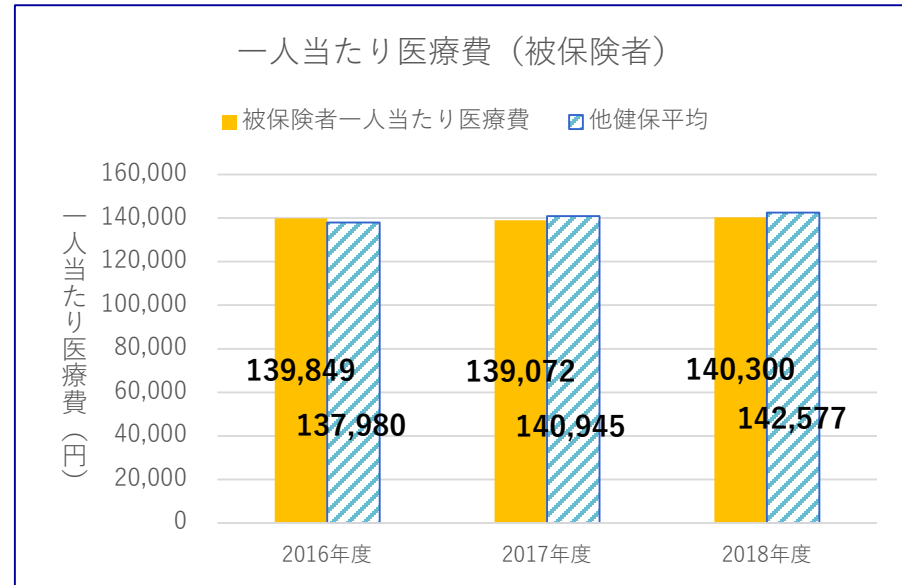
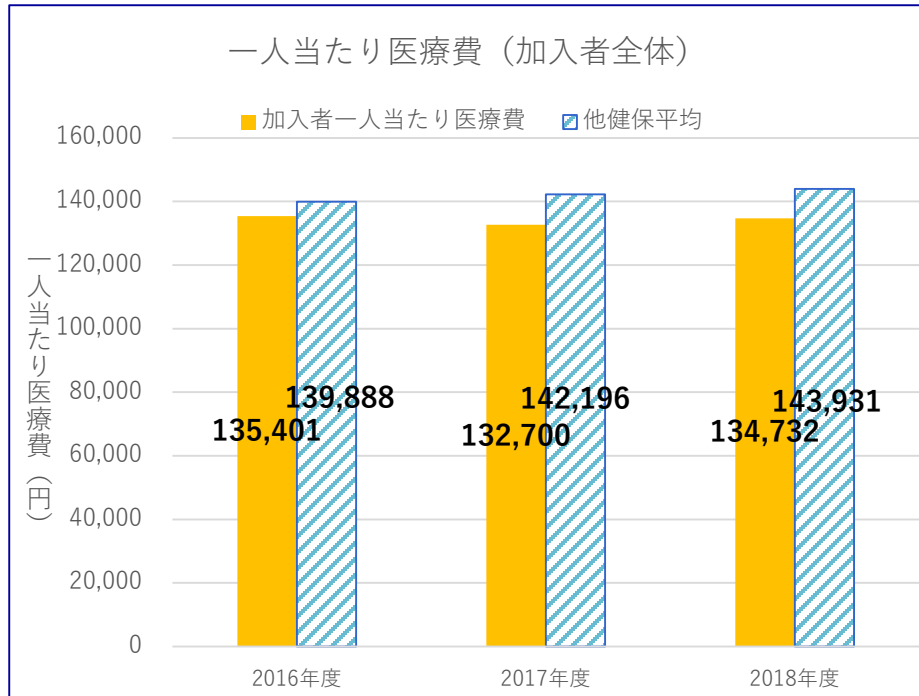
当健保の2018年度の総医療費は昨年度から33百万円（2.4%）増加した。これは、被保険者数が106人増加（2.5%増加）したことに伴い、医療費が32百万円（5.0%）増加したことが一因と考えられる。一方、被扶養者数は微減し医療費は横ばいであった。

医療費総計（被扶養者）

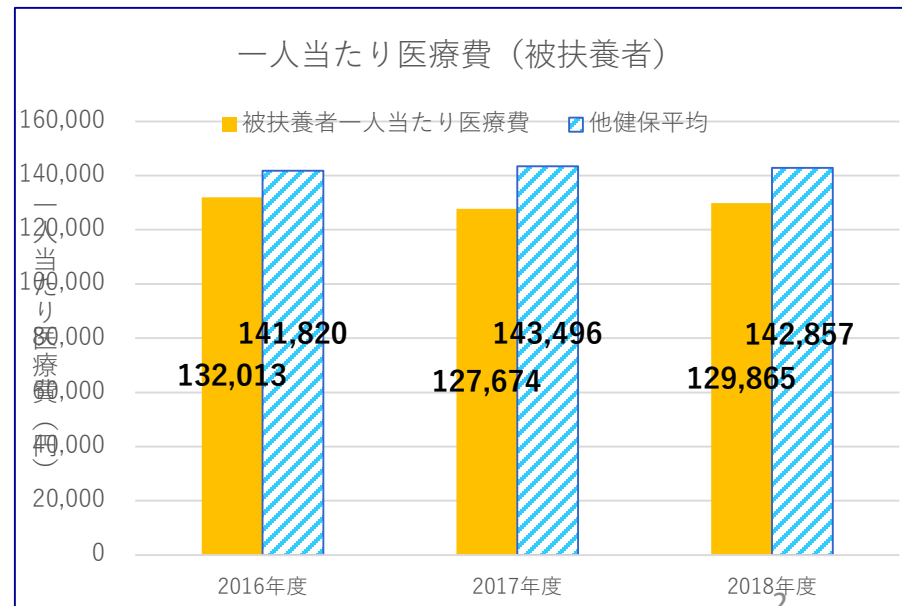


# 加入者1人当たり医療費

(2018年10月8日)

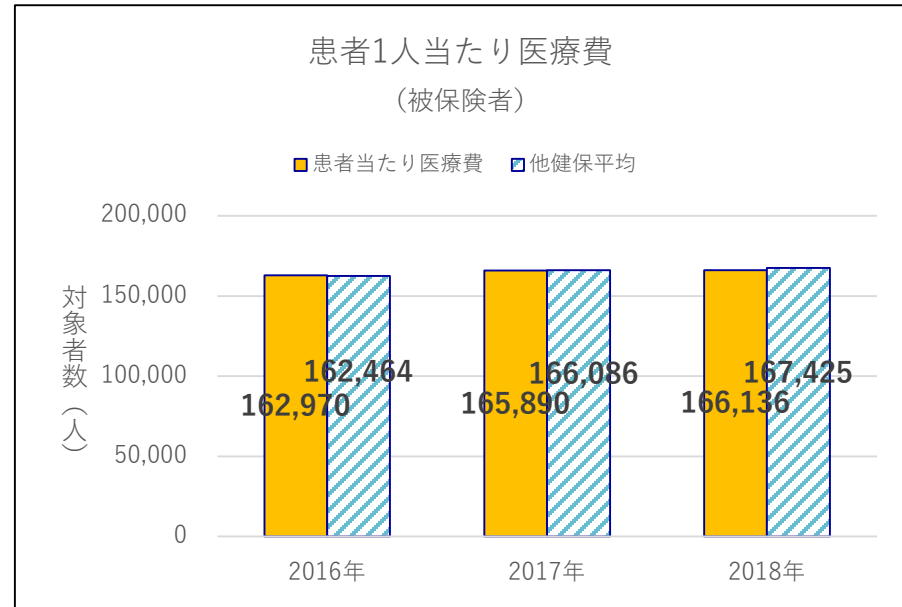
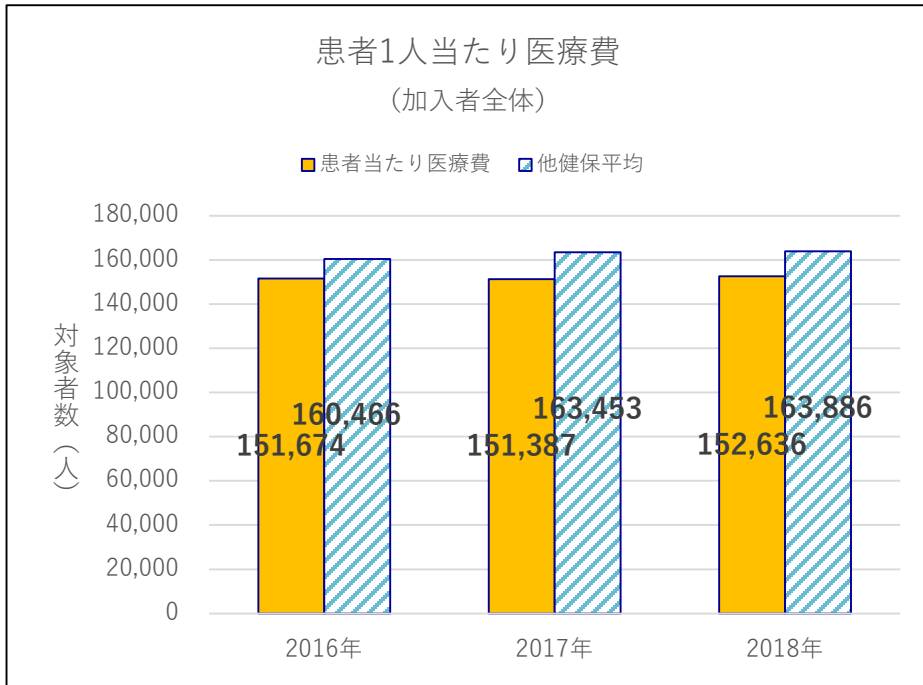


当健保の2018年度の加入者全体1人当たり医療費は2,032円増加（1.5%）した。増加傾向は被保険者、被扶養者共同様である。増加傾向は被保険者、被扶養者共に変わらない。また、他健保平均と比較して、9,199円少ない（6.8%）。被保険者の一人当たり医療費が他健保平均より2,277円少なく（1.6%）、被扶養者が12,992円少ない（10.0%）。

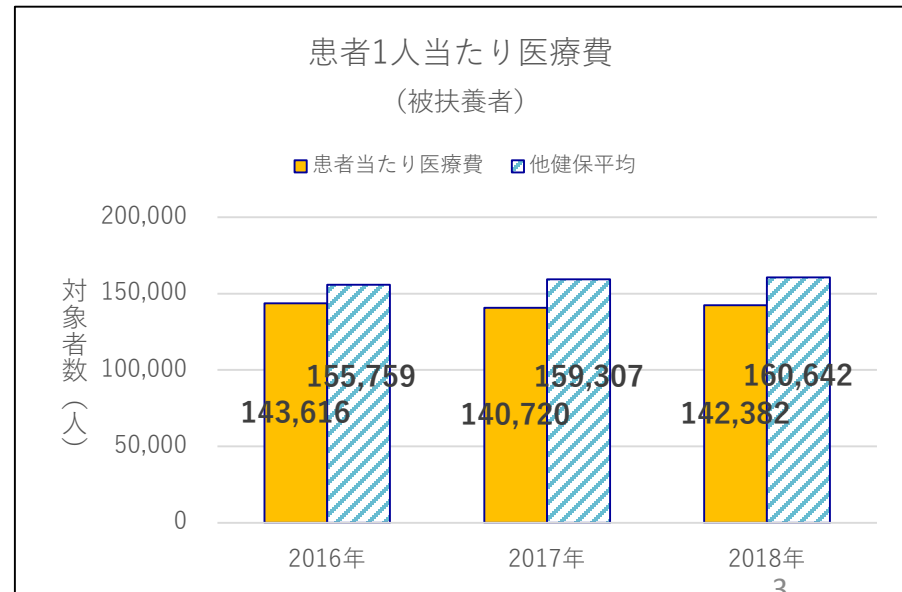


# 患者1人当たり医療費

(2019年10月8日)



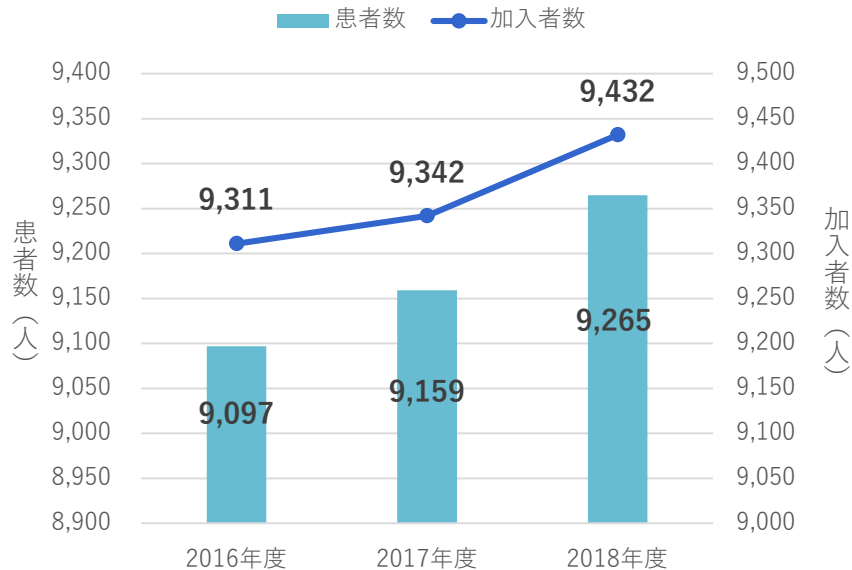
当健保の2018年度の加入者全体患者1人当たり医療費は1,249円増加(0.8%)した。また、他健保平均と比較して、11,250円少ない(7.4%)。増加傾向は被保険者、被扶養者共に同様である。被保険者の患者一人当たり医療費は他健保平均より1,289円少なく(0.8%)、被扶養者は18,260円少ない(12.8%)。



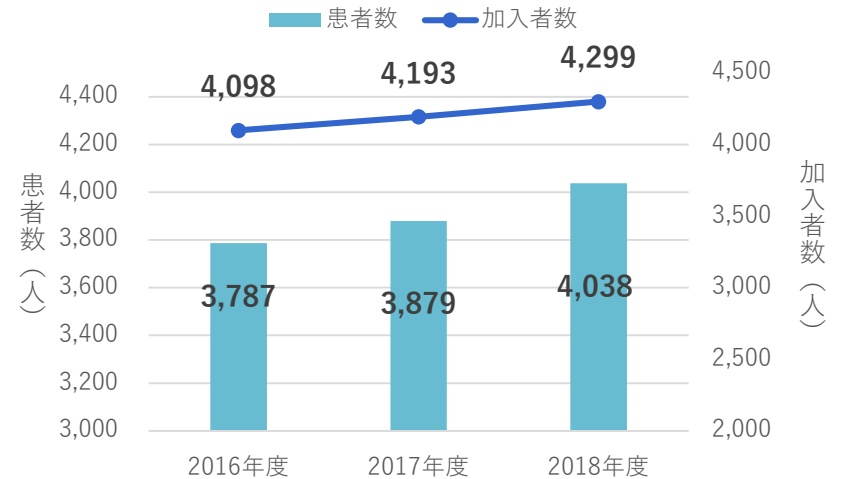
# 実患者数

(2019年10月17日)

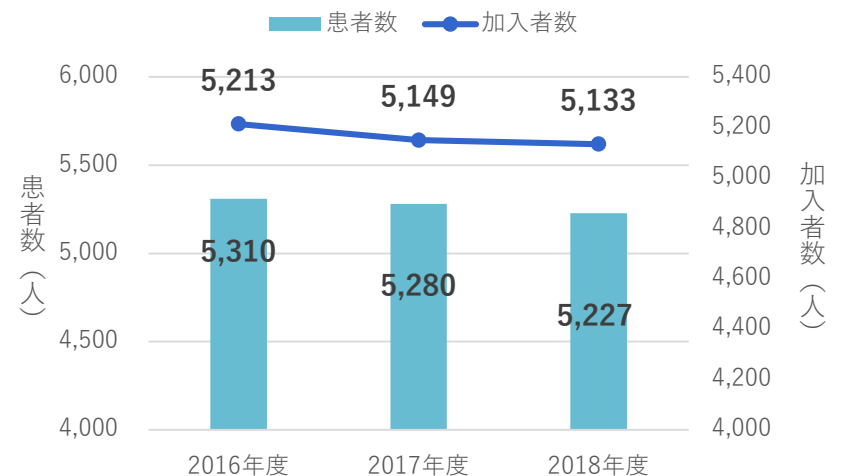
患者数（加入者全体）



患者数（被保険者）



患者数（被扶養者）

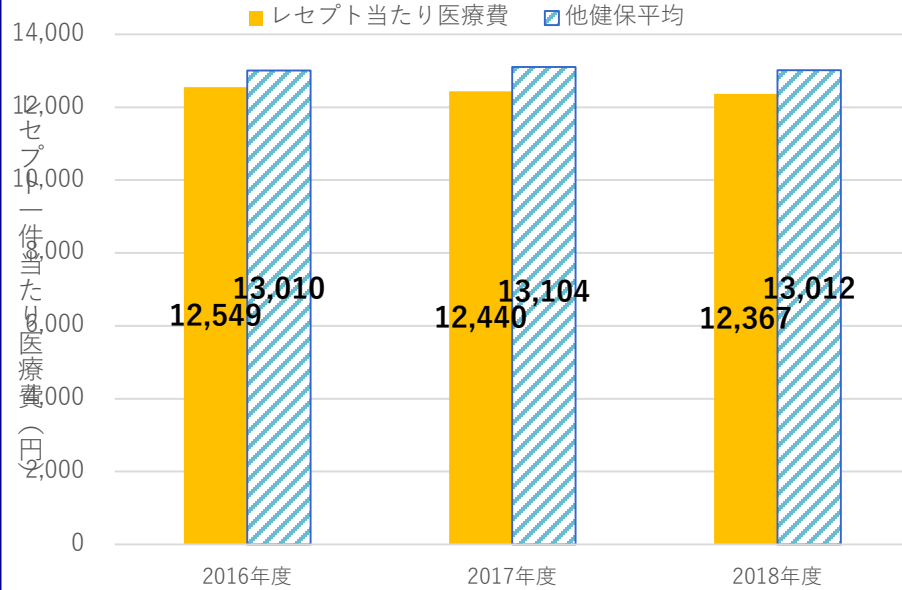


加入者全体の患者数は加入者数の増加（1.0%）に伴い増加（1.2%）した。また、被保険者の患者数は被保険者数の増加（2.5%）に伴い増加（4.1%）し、被扶養者の患者数は被扶養者数の減少（0.3%）に伴い減少（1.0%）した。

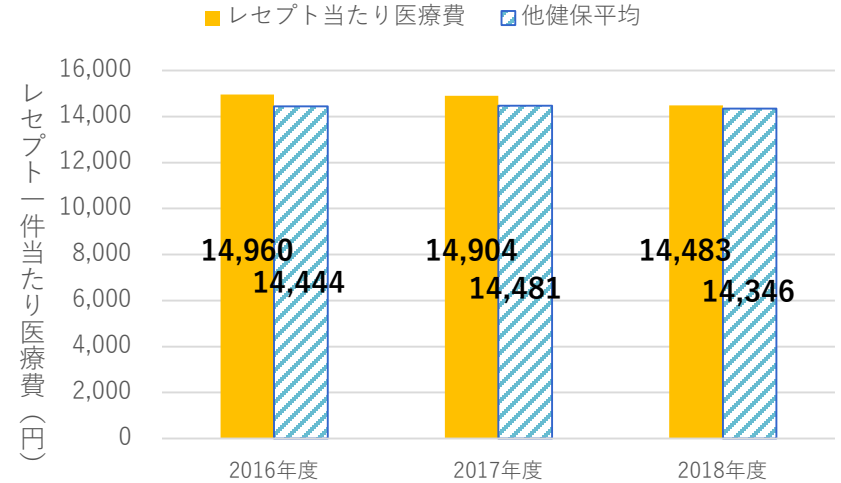
# レセプト1件当たり医療費

(2019年10月17日)

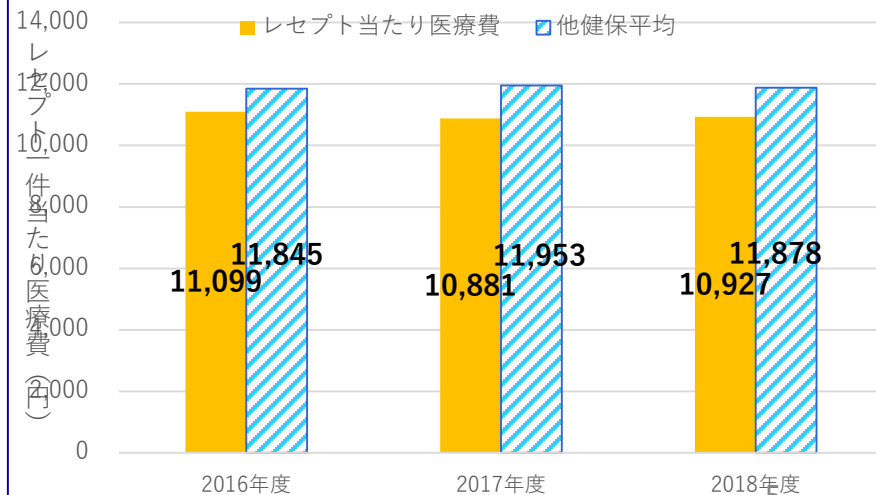
レセプト1件当たり医療費（加入者全体）



レセプト1件当たり医療費（被保険者）



レセプト1件当たり医療費（被扶養者）

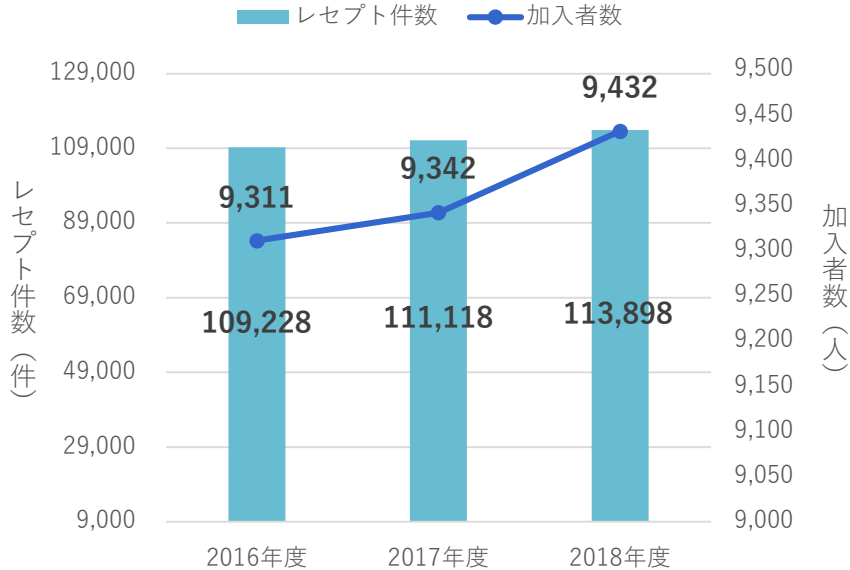


当健保の2018年度の加入者全体レセプト1件当たり医療費は73円減少（0.6%）した。また、他健保平均と比較して、645円少ない（5.2%）。被保険者レセプト1件当たり医療費は421円減少（2.8%）し、被扶養者は46円増加（0.4%）した。被保険者のレセプト当たり医療費は他健保平均より137円多く（1.0%）、被扶養者は951円少ない（8.0%）。

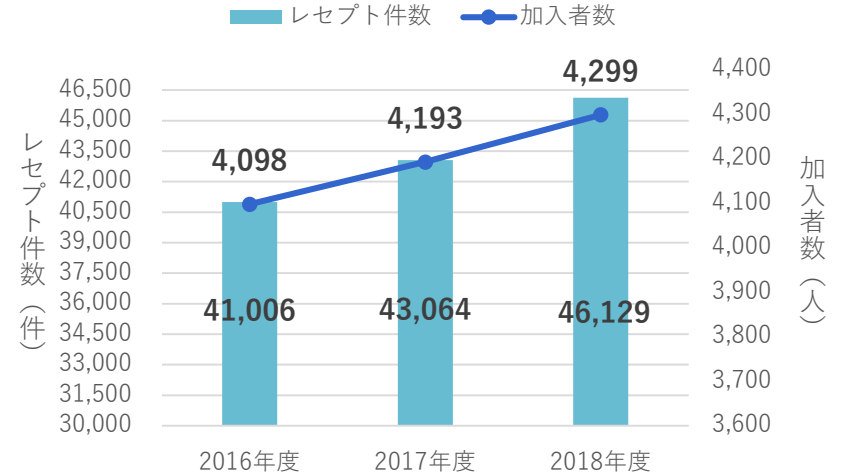
# レセプト件数

(2019年10月17日)

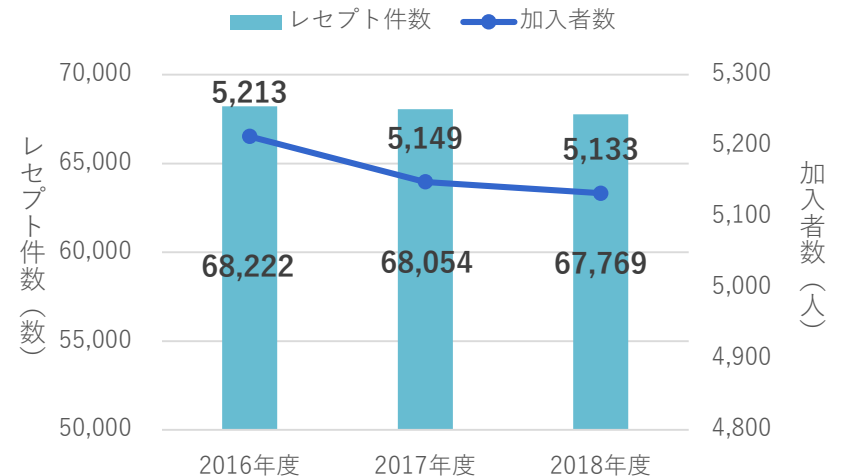
### レセプト件数（加入者全体）



### レセプト件数（被保険者）



### レセプト件数（被扶養者）



加入者全体のレセプト件数は加入者数の増加（1.0%）に伴い増加（2.5%）した。また、被保険者の患者数は被保険者数の増加（2.5%）に伴い増加（7.1%）し、被扶養者の患者数は被扶養者数の減少（0.3%）に伴い減少（0.4%）した。

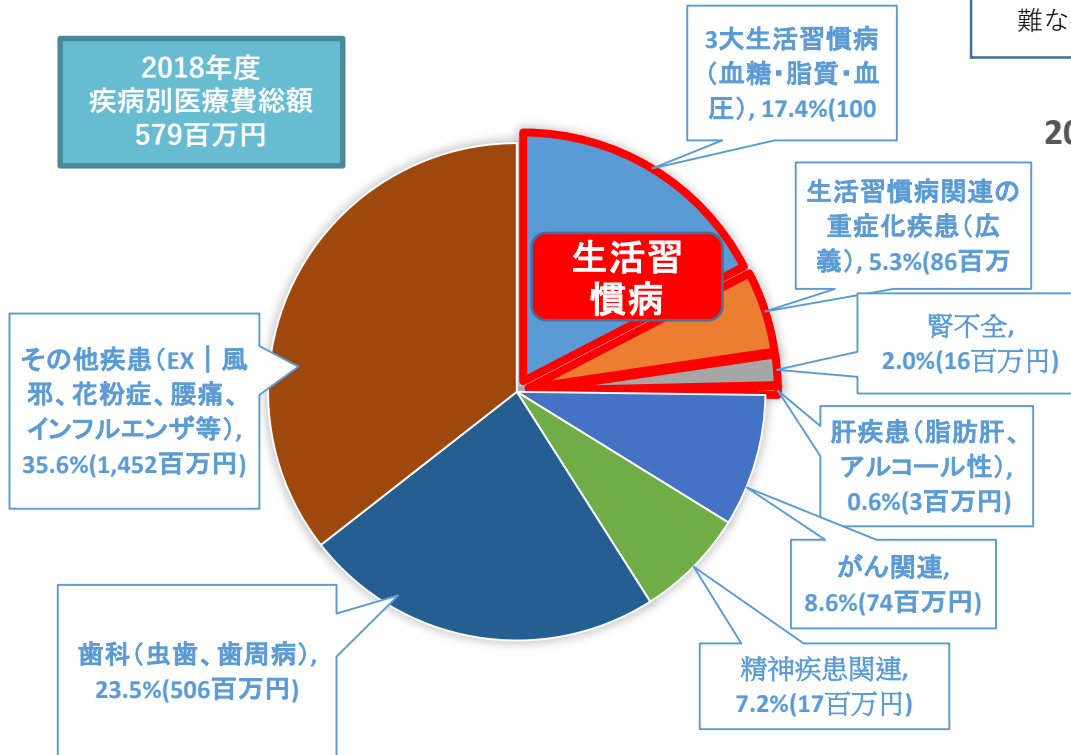
# 疾病別医療費 健保平均との比較

(2019年10月8日)

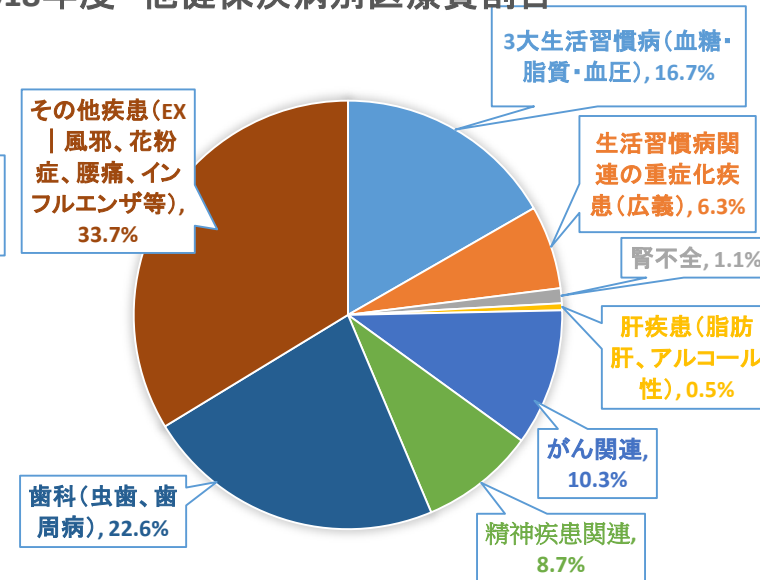
## 2018年度 アルバック健康保険組合疾病別医療費

疾病別医療費に関して、保険給費のうち、次のものは含まれない

- ・ 出産に関わる費用、手当金、傷病手当金などの給付金
- ・ 感染症、皮膚の疾患、妊娠や出産に関わる疾患、妊娠や出産に関わる疾患、先天性の奇形や異常、外傷性の傷病など、yp 特困難な疾患



## 2018年度 他健保疾病別医療費割合



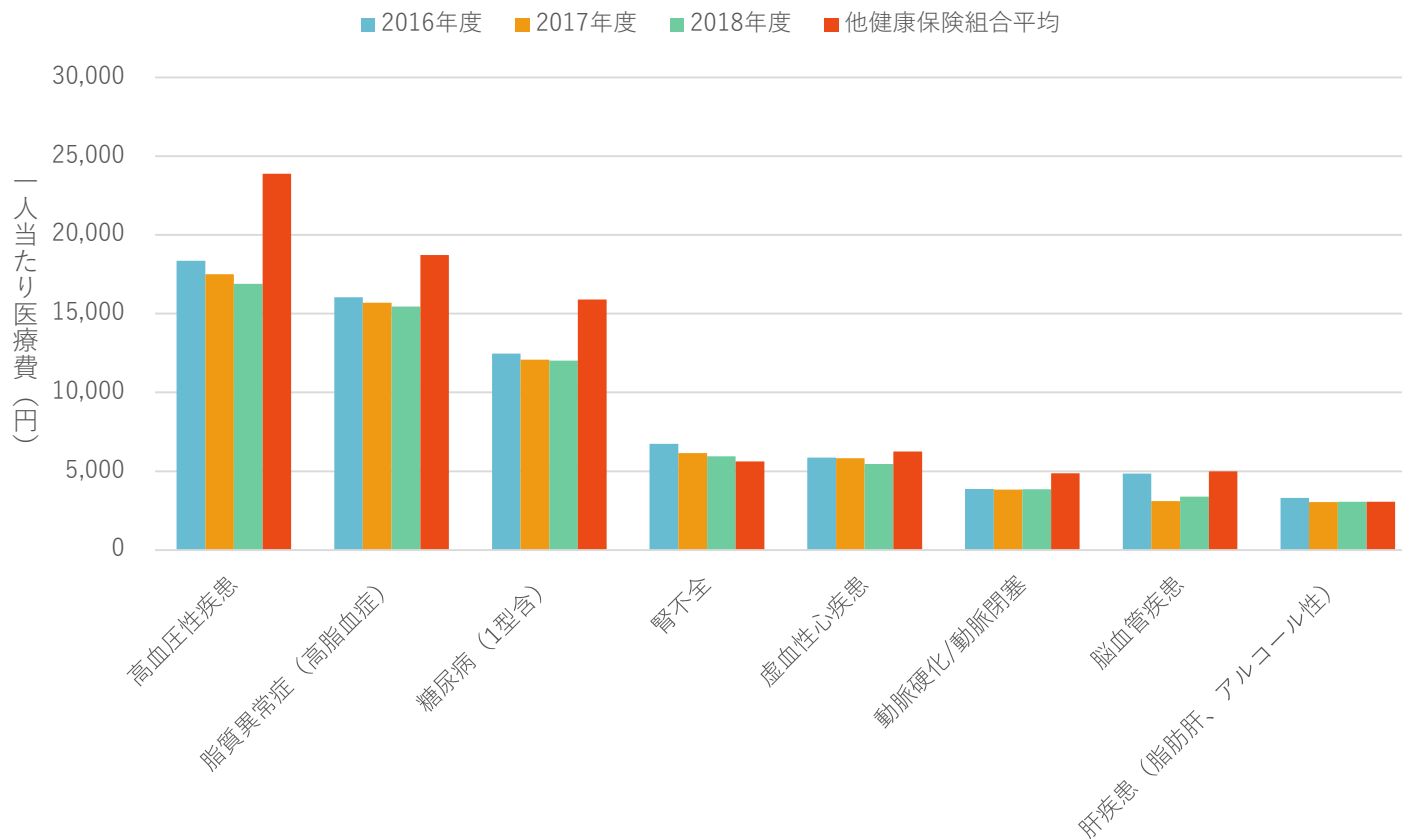
当健保の医療費割合は、他健保と比較してほぼ同様の傾向である。生活習慣病起因の疾病は全体の約1/4を占めている。また、がん関連疾病は8.6%であった。生活習慣の改善により、これらを減少させることが重要である。その他疾患については、35.6%を占めているが、この中には生活習慣と関係しているものも多く、生活習慣の改善により減少が期待できる。



# 生活習慣病別 加入者1人当たり医療費

(2018年10月8日)

生活習慣病別 加入者一人当たり医療費

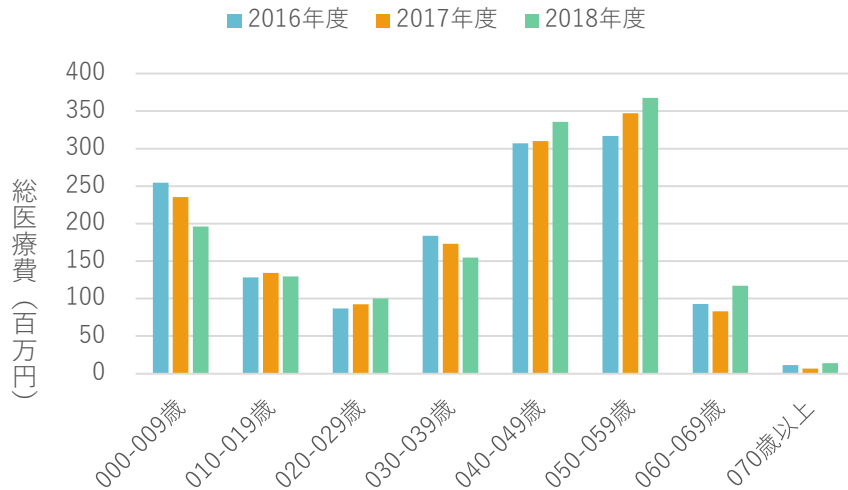


アルバックの生活習慣病別医療費は、ほとんどの疾病が前年度よりやや減少傾向にある。また、ワースト3である高血圧性疾患、脂質異常症、糖尿病はいずれも健保平均よりは少ない。

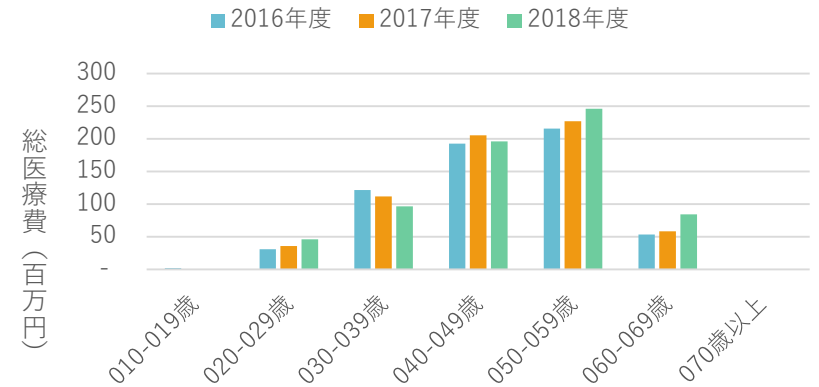
# 年齢別総医療費

(2018年10月8日)

年齢別総医療費  
(加入者全体)

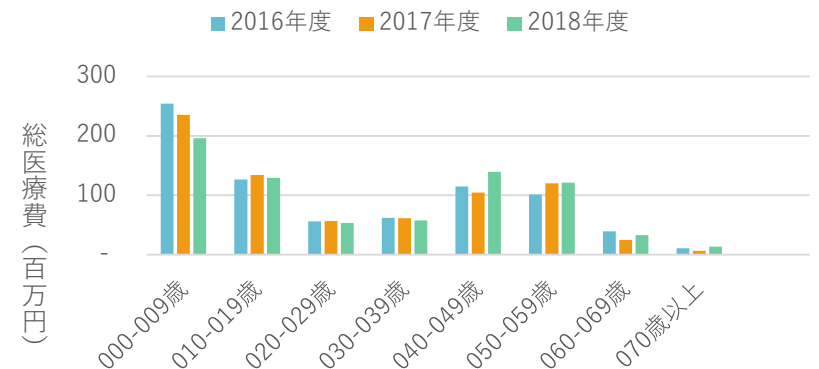


年齢別医療費  
(被保険者)



加入者全体の年齢別総医療費のピークは50～59歳で、次いで40～49歳である。これらの年齢層の医療費は年々増加傾向にある。特に、50～59歳の医療費は、2016年度から2018年度にかけて14.2%増加している。この傾向は、被保険者も同様である。

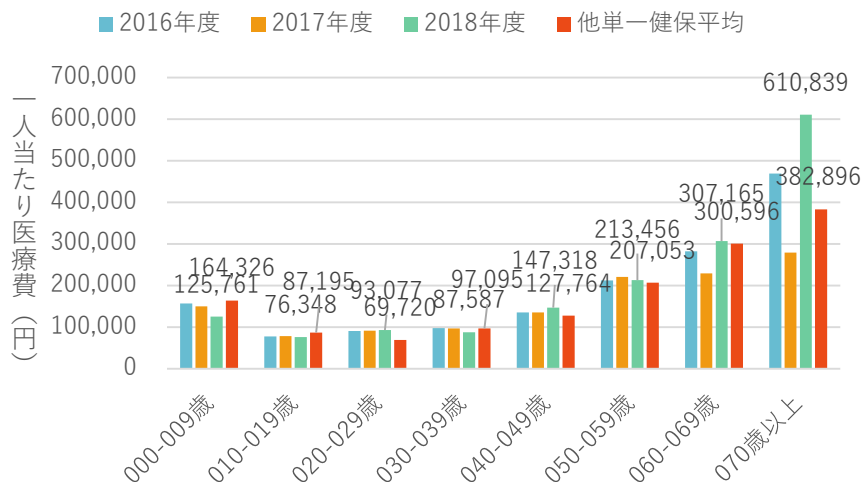
年齢別医療費  
(被扶養者)



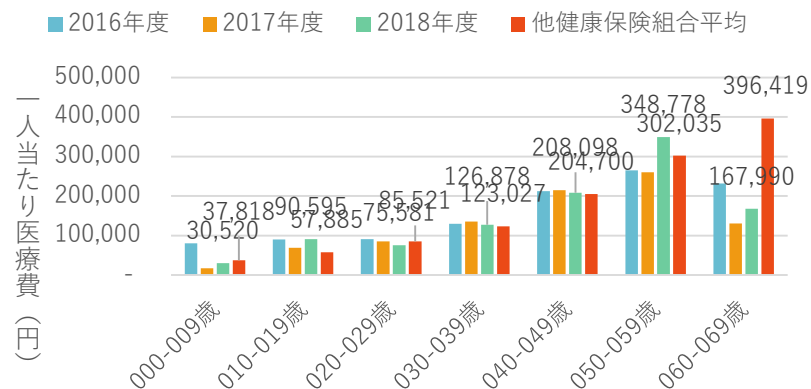
# 年齢別1人当たり医療費

(2018年10月8日)

年齢別一人当たり医療費  
(加入者全体)

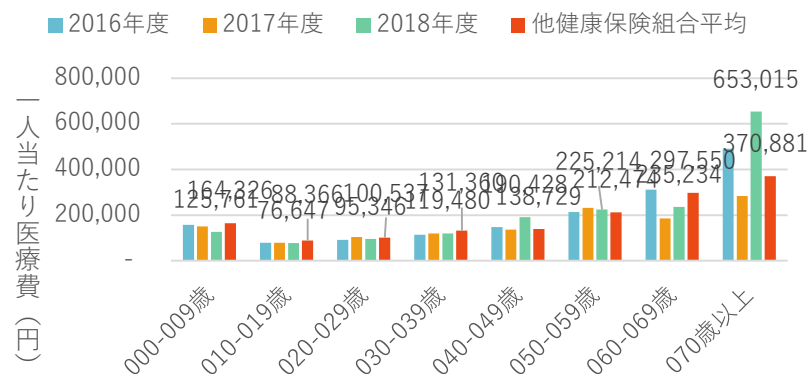


年齢別一人当たり医療費  
(被保険者)



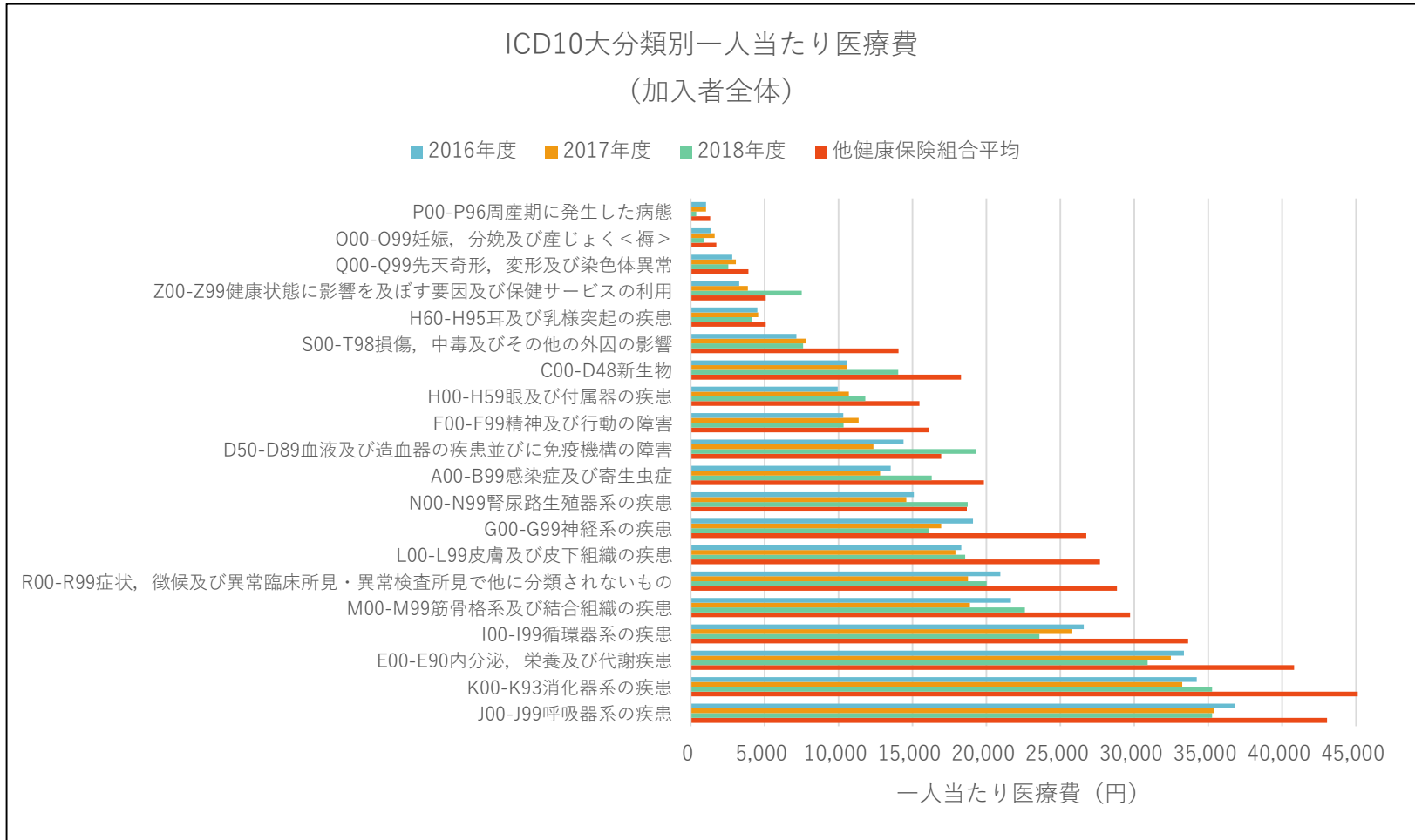
当健保における加入者全体の1人当たり医療費は、9歳以下を除き、年代と共に増加傾向にある。この年齢層の医療費は年々増加傾向にある。また、40歳以上については、他健保平均よりいずれの年代も多い。被保険者は50～59歳において、被扶養者は、70歳以上において他健保平均より特に多い傾向がある。

年齢別一人当たり医療費  
(被扶養者)



# ICD10大分類別1人当たり医療費

(2018年10月8日)



ICD10大分類別にアルバックの一人当たり医療費を見ると、ほとんどの疾患が健保平均より少ない。疾患別医療費の全体的な傾向は、健保平均とほぼ同様で、ワーストスリーは、呼吸器系の疾患、消化器系の疾患、内分泌、栄養及び代謝疾患である。

# アルバックグループの健康リスクの基準

(H30年9月13日)

健康診断の結果とレセプトデータより人の健康に生じる障害、またはその発生頻度や重大性を評価し、8つに分類したものです。アルバック健保では、健康リスク別に受診勧奨や特定保健指導等保健事業を実施しています。

## 未通院(生活習慣病のレセプトが無い人)

正常	不健康な生活	患者予備群	治療放置群
健康診断の結果で有所見なし	保健指導により生活習慣の改善が必要なレベル	再検査または一度病院で診察を受けた方が良いレベル	早期に治療を開始する必要があるレベル
血糖: 110mg/dl未満又はHbA1c5.6%未満	血糖: 110mg/dl以上又はHbA1c5.6%以上	血糖: 126mg/dl以上又はHbA1c6.5%以上	血糖: 200mg/dl以上又はHbA1c8.0%以上
血圧: 85/130mmHg未満	血圧: 85又は130mmHg以上	血圧: 90又は140mmHg以上	血圧: 100又は160mmHg以上
中性脂肪: 150mg/dl未満 又はLDL:120未満 又はHDL:40以上	中性脂肪: 150mg/dl以上 又はLDL:120以上 又はHDL:40未満	中性脂肪: 300mg/dl以上 又はLDL:180以上 又はHDL:30未満	

## 通院/入院(生活習慣病のレセプトがある人)

生活習慣病	重症化	生活機能の低下	再発予備群
合併症はない	合併症に進行中	重篤な状態	入院後の状態
2型糖尿病・高血圧症・脂質異常症のいずれかがあり、合併症はない状態	生活習慣病があり、糖尿病性合併症・脳血管疾患・動脈疾患・虚血性心疾患がある状態	入院を伴う四肢切断急性期・冠動脈疾患急性期・脳卒中急性期、および透析期(通院含む)の状態	「生活機能の低下」の該当が1年前にあったが、当該年度は入院はない状態

# 要因別健康マップの基準

(2020年4月10日)

健康診断の結果より人の健康に生じる障害、またはその発生頻度や重大性を評価し、4つに分類したものである。オリジナル健康マップでは、未通院者を対象とし、通院者を対象としない。

従来の健康マップは、血圧・血糖・脂質の3個の項目の中で1番重い項目に人数がカウントされていた。今回のオリジナル健康マップでは、正常～治療放置群については血糖・血圧・脂質の全てに振り分けを行った。(オリジナル健康マップは、らくらく健助では分析不可能なため、(株)JMDC営業担当より作成していただいた。

■ アルバック健保 閾値

■ リスク判定

未通院

健康マップ階層

不健康な生活

患者予備群

治療放置群

項目		低位	中位	高位
血圧	収縮期血圧	130以上140mmHg未満	140以上160mmHg未満	160mmHg以上
	拡張期血圧	85以上90mmHg未満	90以上100mmHg未満	100mmHg以上
脂質	中性脂肪	150以上300mg/dl未満	300mg/dl以上	
	HDLコレステロール	30以上40mg/dl未満	30mg/dl未満	
	LDLコレステロール	120以上180mg/dl未満	180mg/dl以上	
血糖	HbA1c	5.6以上6.5%未満	6.5以上8.0%未満	8.0%以上
	空腹時血糖	110以上126mg/dl未満	126以上200mg/dl未満	200mg/dl以上

※HbA1cはNGSP値

※項目ごとにリスク判定が異なる場合は上位の階層へカウント

【例】収縮期142mmHg(中位)、拡張期87mmHg(低位)…HbA1c9.0%(高位)の場合、リスク判定は「高位」

※空腹時血糖とHbA1cの双方に値がある場合は、HbA1cを判定に用い、空腹時血糖は判定に用いない

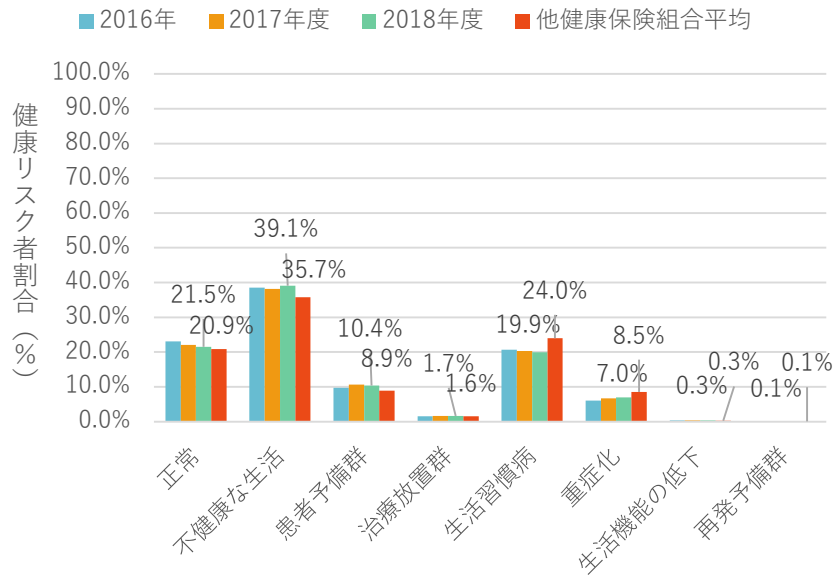
【補足】つまり、空腹時血糖で判定するのは、HbA1cの値がない場合のみ

※中性脂肪・HDLコレステロール・LDLコレステロールは高位判定なし

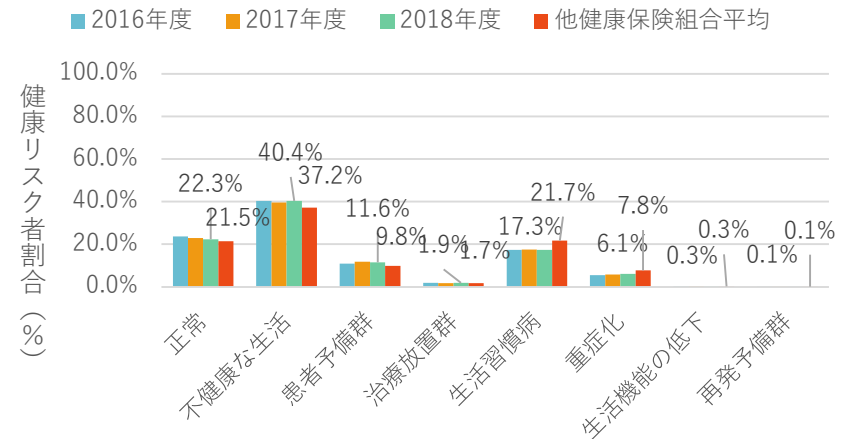
# 健康リスク者分布

(2019年10月9日)

健康リスク者割合（加入者全体）

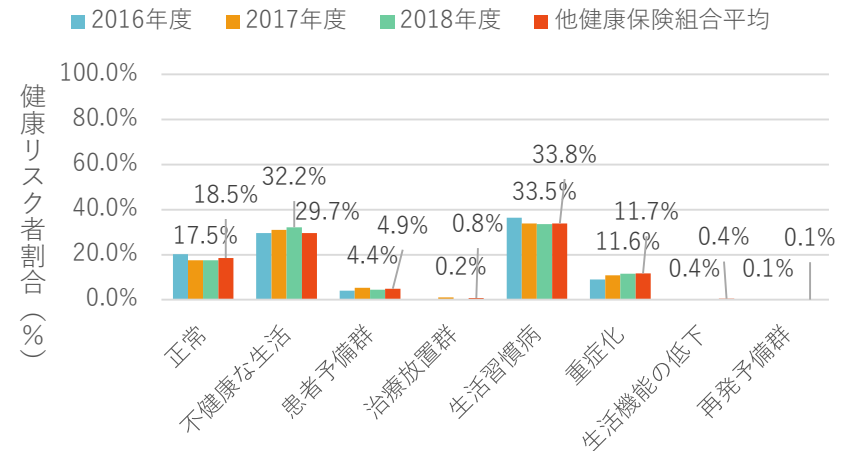


健康リスク者割合（被保険者）



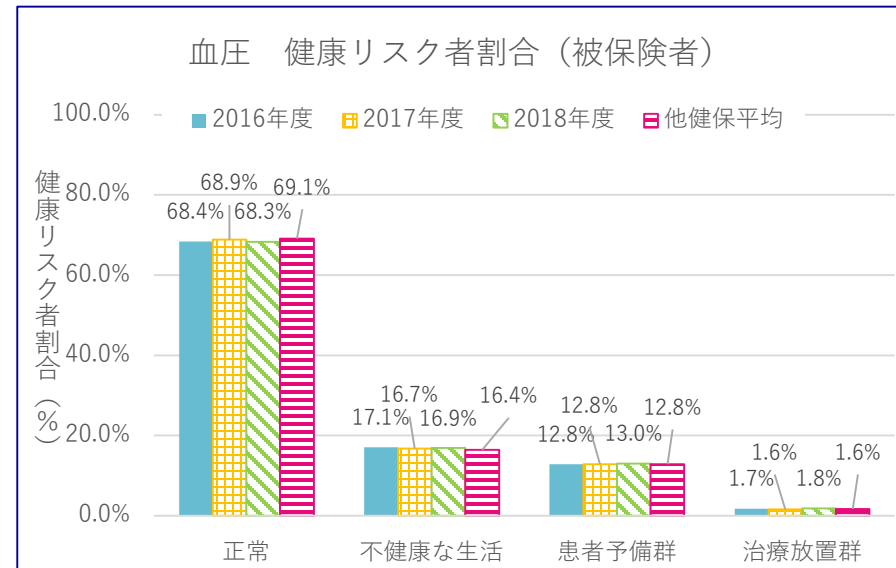
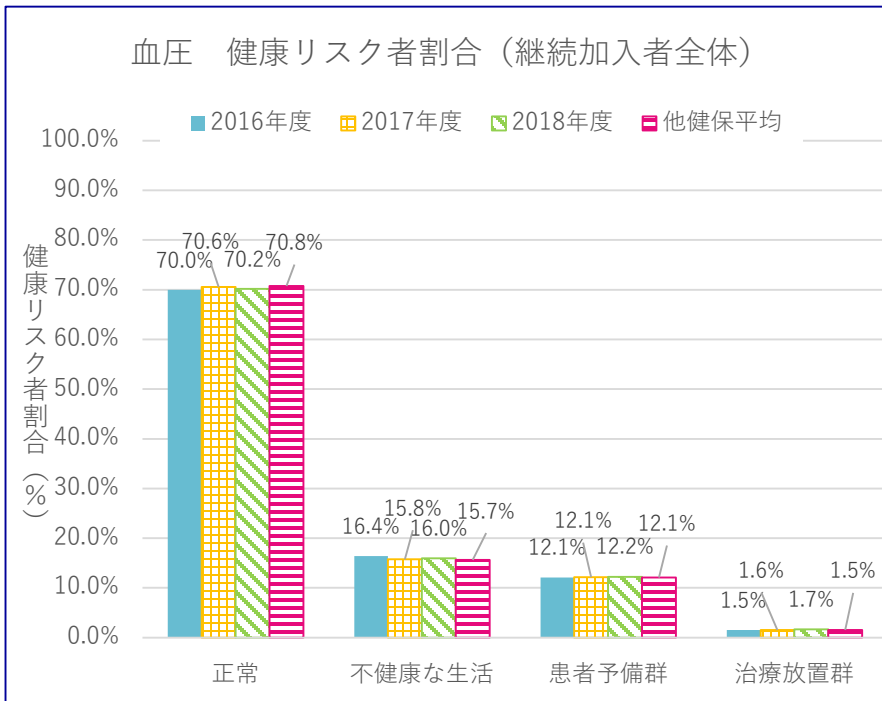
当健保の健康リスク者分布を見ると、他健保平均と比較して、正常群の割合が多く、一方、生活習慣病及び重症化患者が少ない。他健保平均と比較して、全体的に健康側に分布している。この傾向は、被保険者についても同様である。今後、さらに正常群の割合を増加させていきたい。

健康リスク者割合（被扶養者）

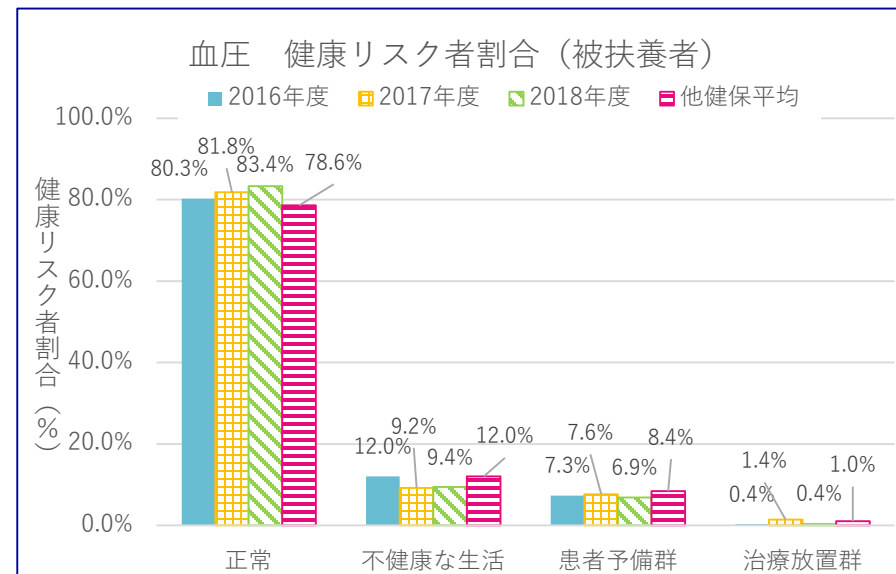


# (血圧) 健康リスク者分布

(2020年5月14日)



当健保の血圧リスク者分布を見ると、分布全体は大きな経年変化はなく、正常群は約70%で、他健保平均とほぼ同じある。被保険者の正常群は68.3%で他健保平均より小さいが、被扶養者の正常群は増加傾向にあり83.4%で、他健保平均より4.8%小さい。今後は、被保険者の正常群割合を増加させていきたい。

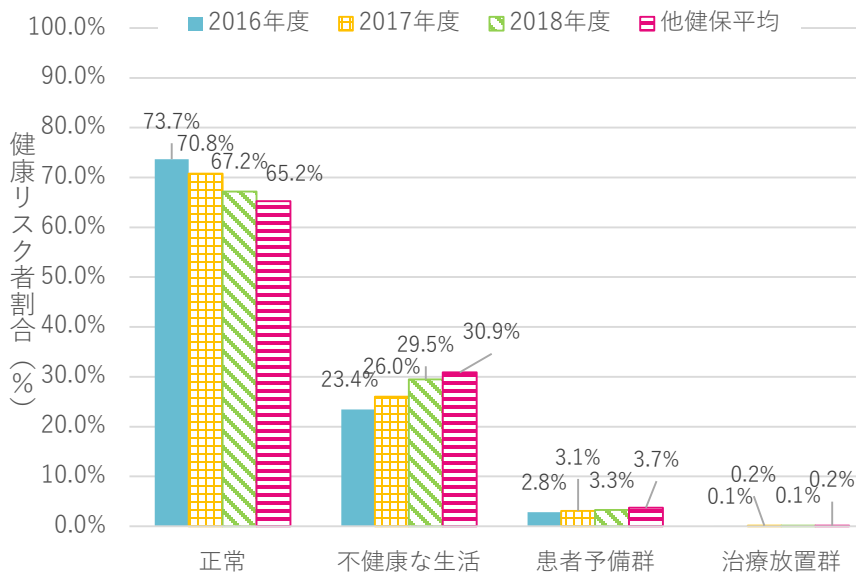




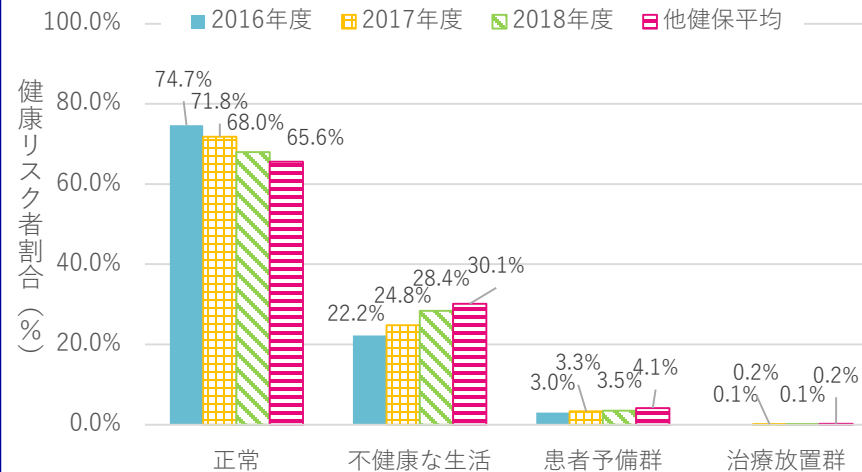
# (血糖) 健康リスク者分布

(2020年5月14日)

血压 健康リスク者割合 (継続加入者全体)

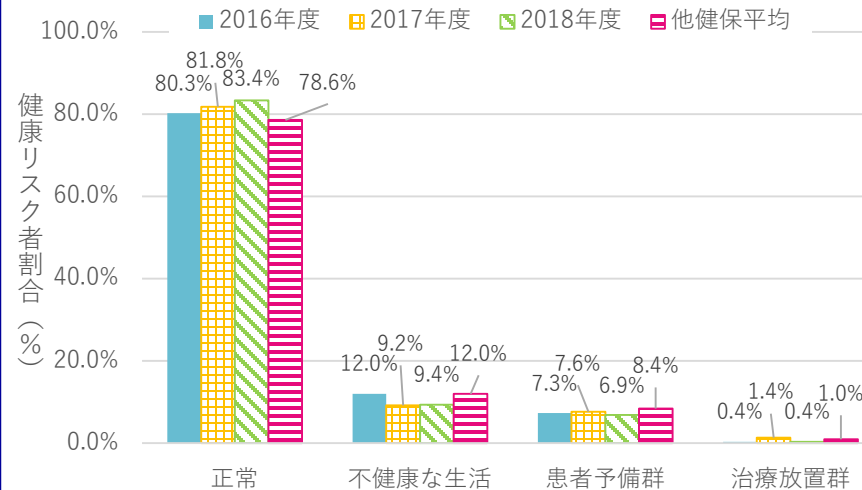


血压 健康リスク者割合 (被保険者)



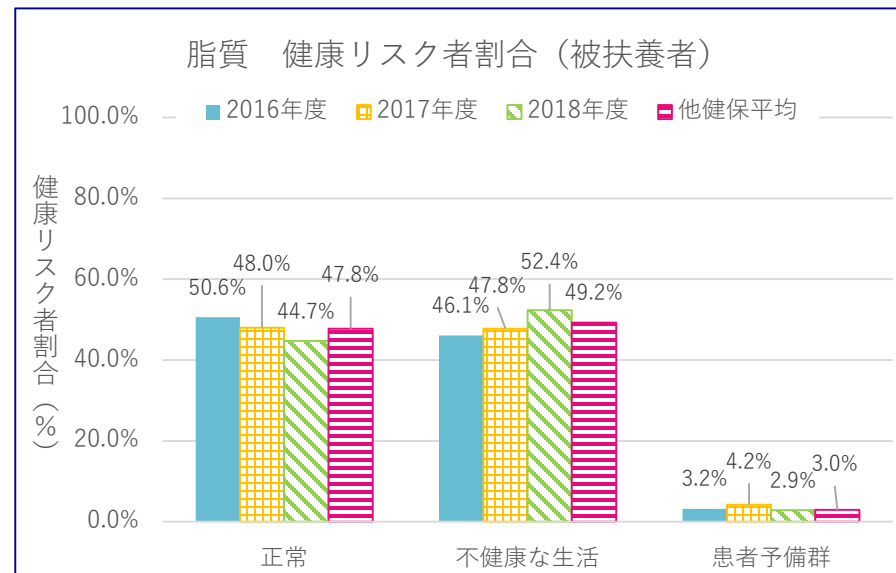
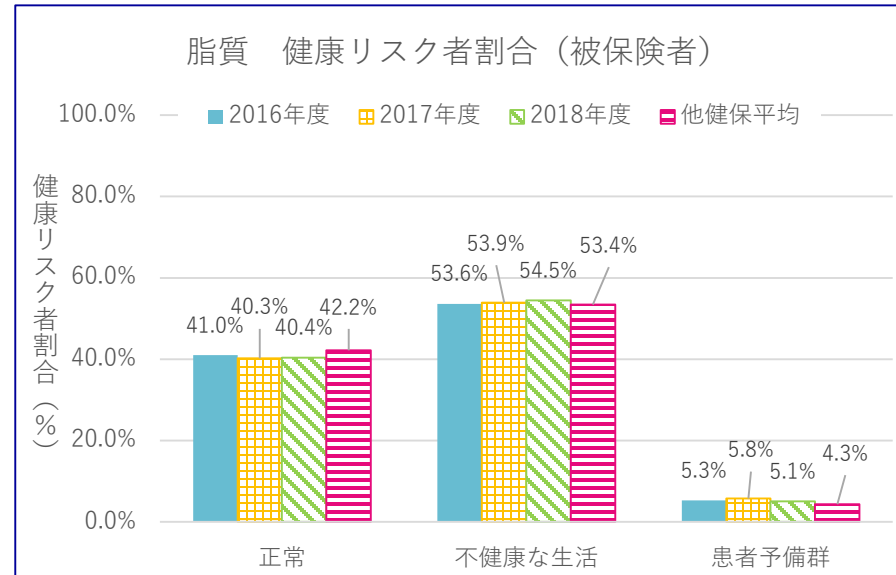
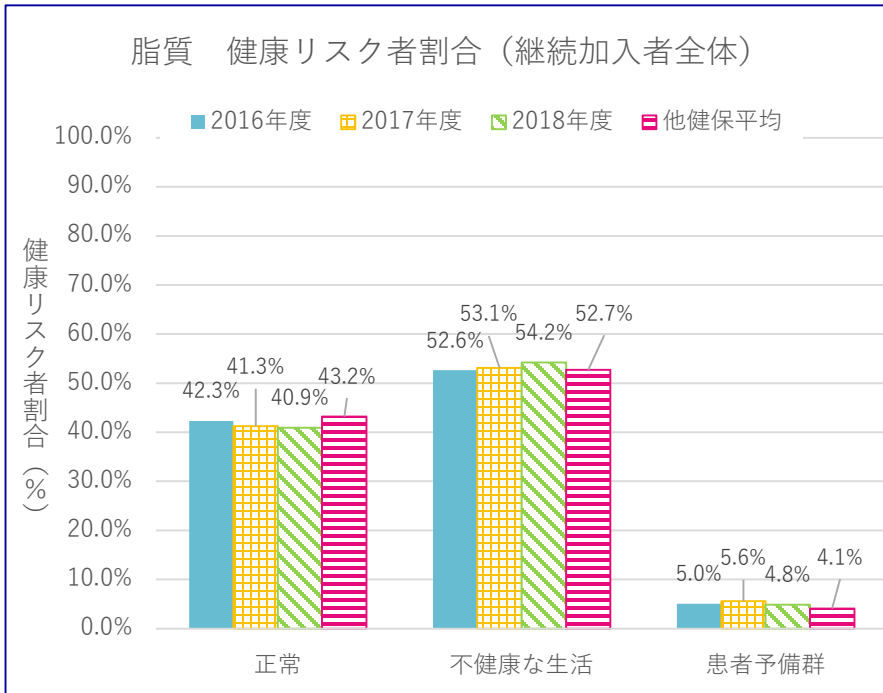
当健保の血糖リスク者分布を見ると、加入者全体では正常群は67.2%で、減少傾向にあり、逆に、不健康な生活群は増加傾向にある。この傾向は、被保険者も同様である。一方、被扶養者は正常群が増加傾向にある。今後は、いかに被保険者の血糖値の正常群を増加させるかが課題である。

血压 健康リスク者割合 (被扶養者)



# (脂質) 健康リスク者分布

(2020年5月14日)



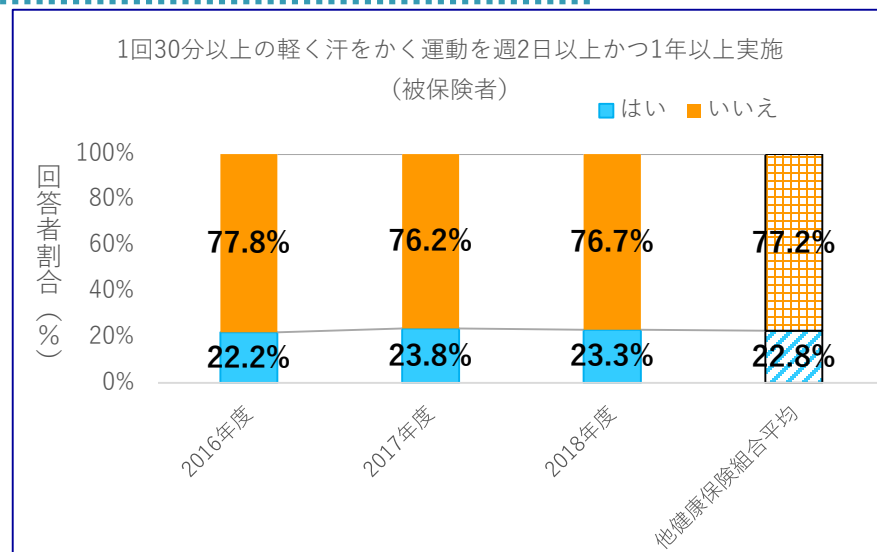
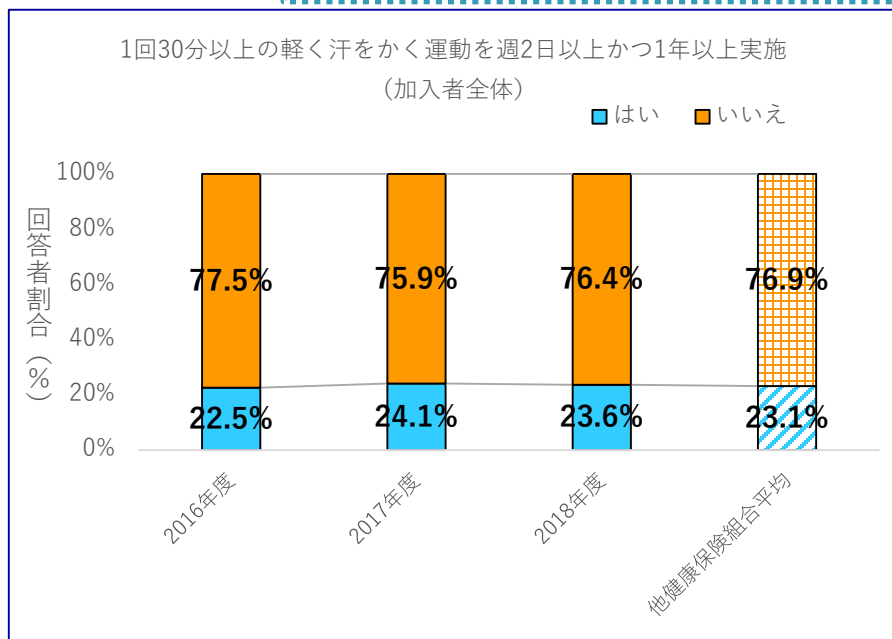
当健保の脂質リスク者分布を見ると、加入者全体では正常群は40%程度で、血圧リスク者、血糖リスク者の割合と比べて約30%少なく。逆に、不健康な生活群は50%台でやや増加傾向にある。被保険者の経年変化は各群共ほぼ横ばいであるのに対し、被扶養者は正常群が減少傾向にある。今後は、いかに脂質値の正常群を増加させるかが課題である。

# 生活習慣 運動習慣①

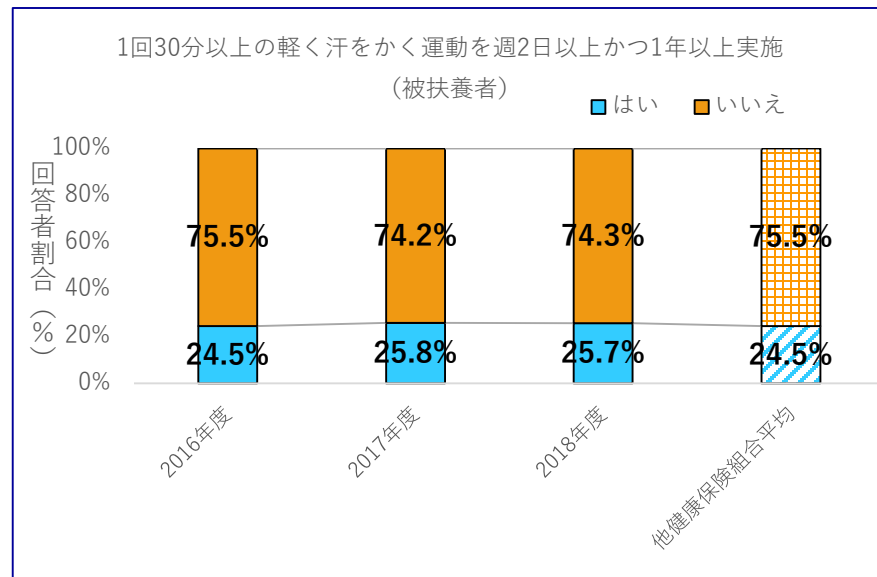
## 「1回30分以上の軽く汗をかく運動を週2日以上かつ1年以上実施」

注) 集計結果には次のものは含まれない → 健診質問票未回答者、健康診断未実施者

(2019年10月9日)



当健保の運動習慣として「1回30分以上の軽く汗をかく運動を週2日以上かつ1年以上実施」している割合を見ると、2018年度は0.5%減少しており、健保平均より0.5%大きく23.6%である。また、被保険者、被扶養者単独でも同様の傾向がみられる。今後、全体の運動習慣を如何に向上させるかが課題である。

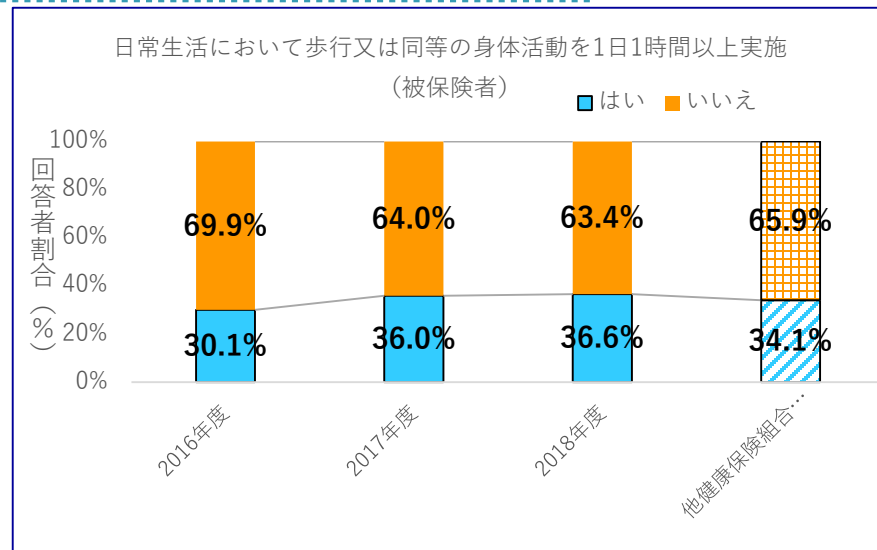
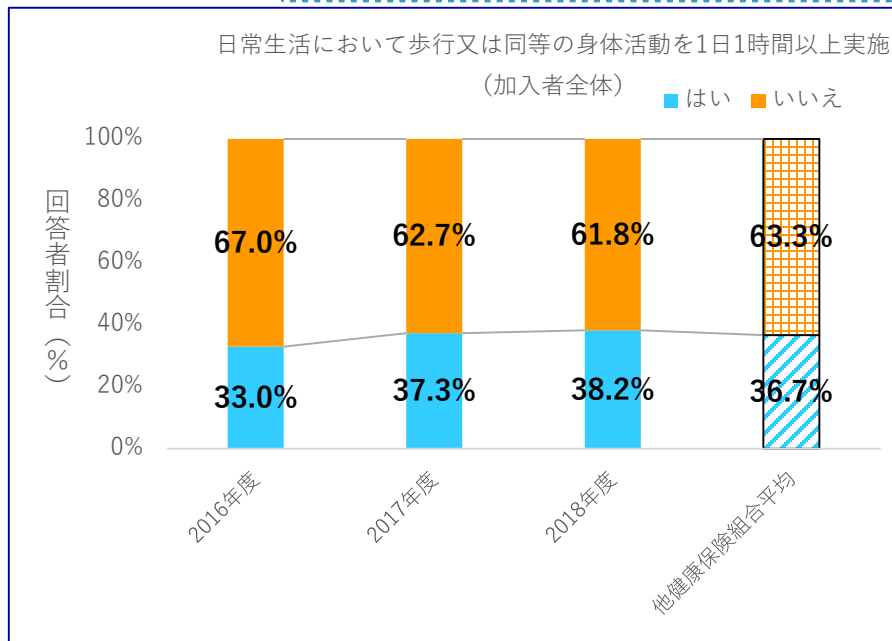


# 生活習慣 運動習慣②

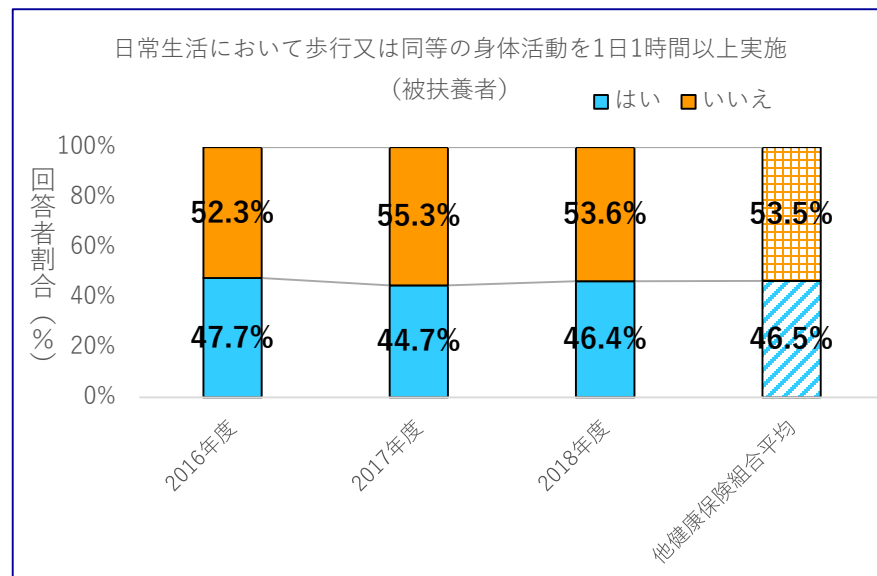
## 「日常生活において歩行又は同等の身体活動を1日1時間以上実施」

注) 集計結果には次のものは含まれない → 健診質問票未回答者、健康診断未実施者

(2019年10月9日)



当健保の運動習慣として「日常生活において歩行又は同等の身体活動を1日1時間以上実施」している割合を見ると、2016年度～2018年度において徐々に増加しており、2018年度で加入者全体では健保平均より1.5%多く38.2%である。また、被保険者、被扶養者単独でも同様の傾向が見られる。今後、全体の運動習慣を如何に向上させるかが課題である。

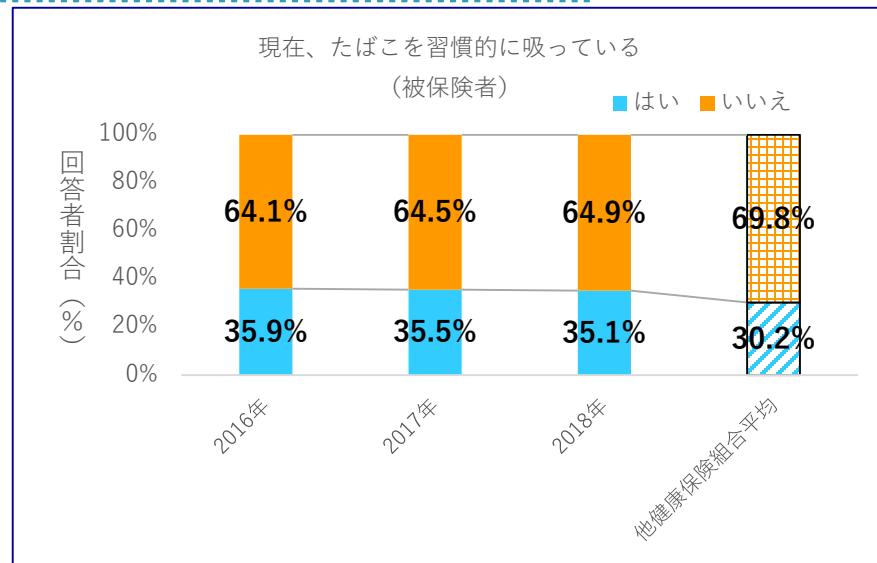
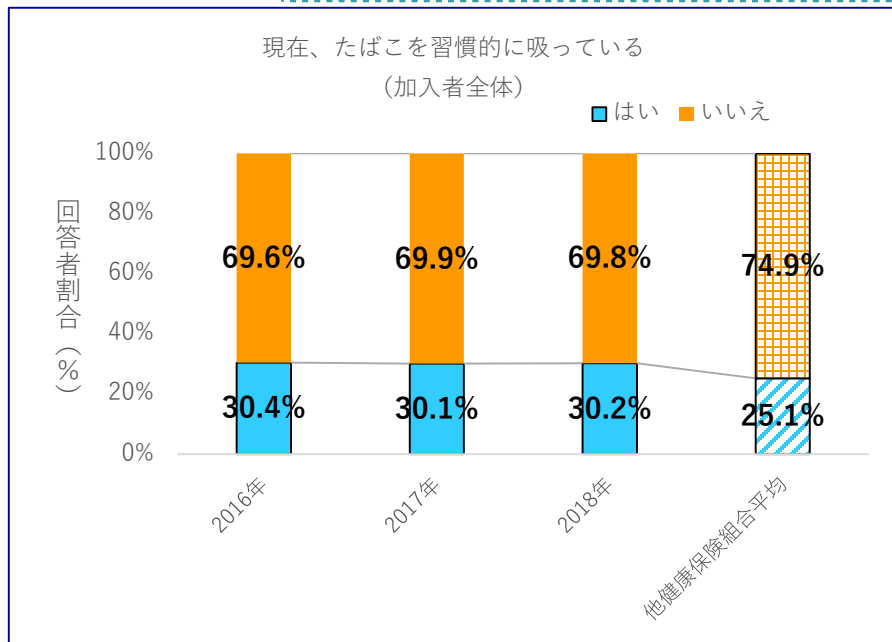


# 生活習慣 喫煙

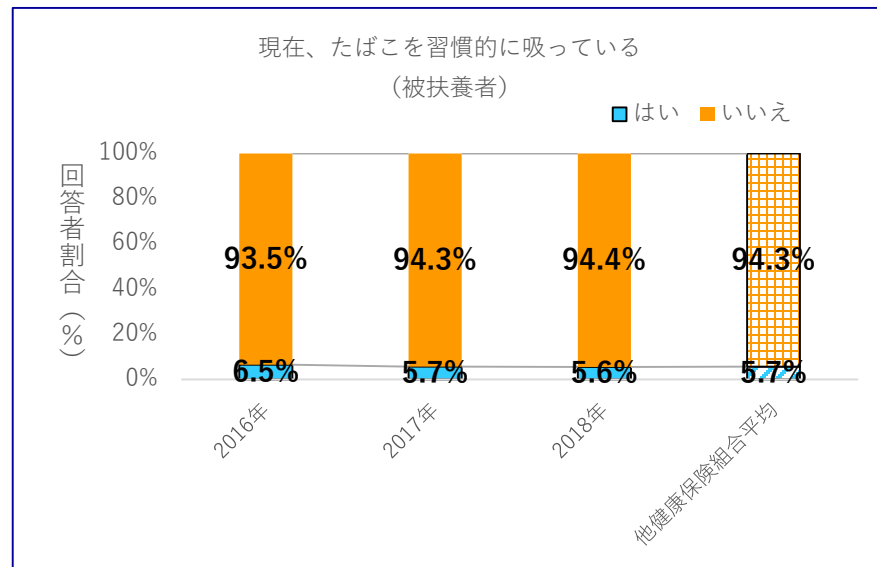
## 「現在、たばこを習慣的に吸っている」

注) 集計結果には次のものは含まれない → 健診質問票未回答者、健康診断未実施者

(2019年10月9日)



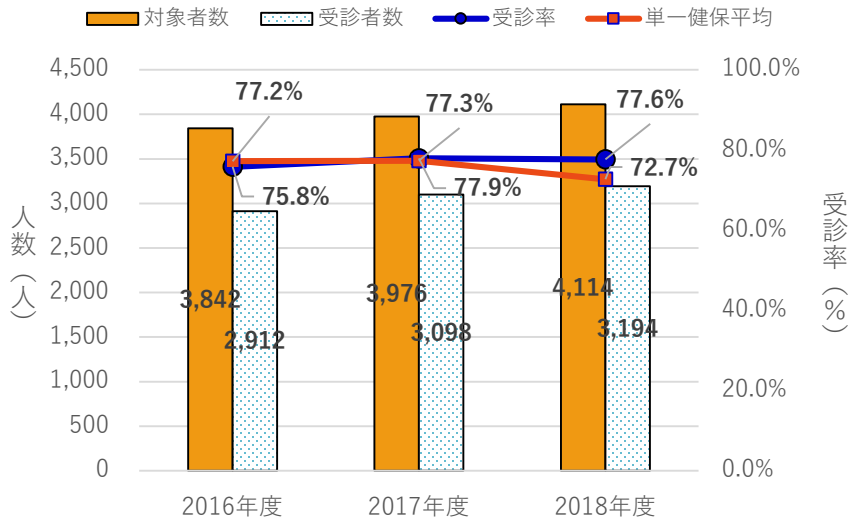
当健保の生活習慣として「現在、たばこを習慣的に吸っている」者の割合は、2018年度で加入者全体では健保平均より5.1%多く30.2%である。被保険者単独でも健保平均より4.9%高い。  
今後、被保険者の喫煙習慣を如何に減らすことができるかが課題である。



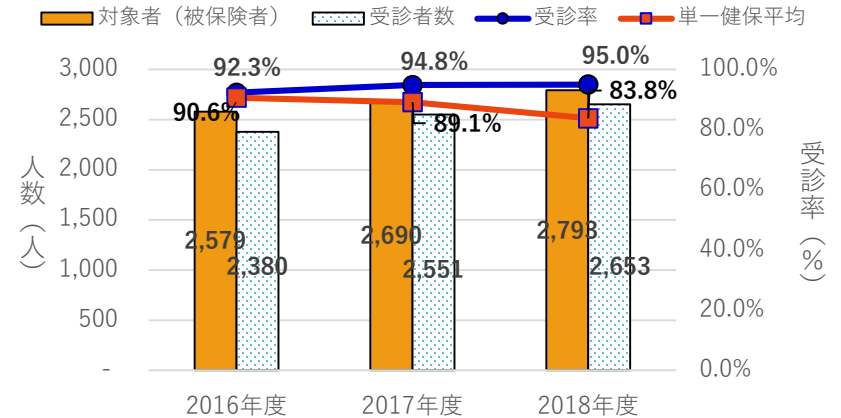
# 特定健診受診者

(2019年10月24日)

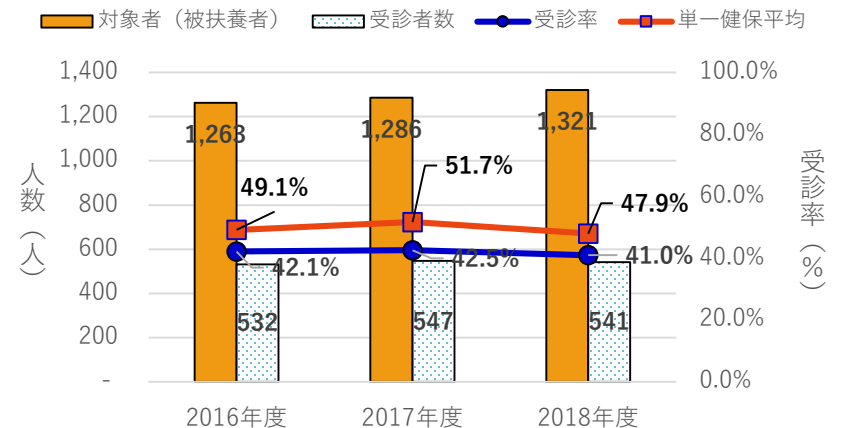
特定健診受診者  
(加入者全体)



特定健診受診者  
(被保険者)



特定健診受診者  
(被扶養者)

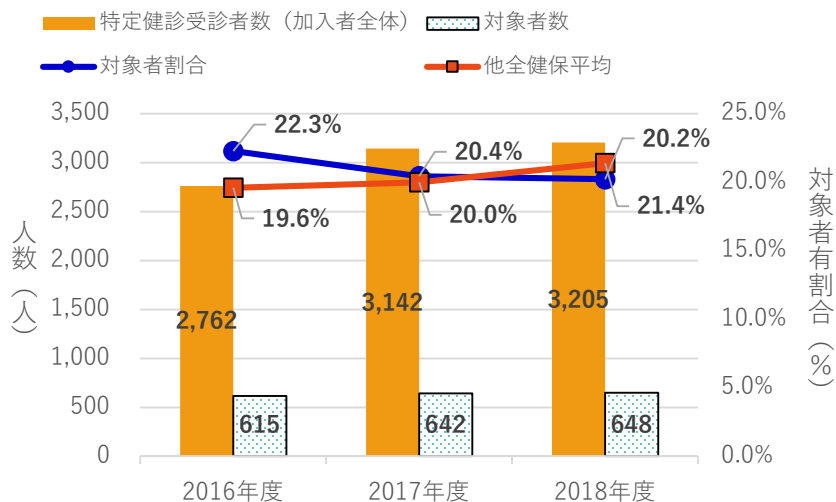


2018年度の当健保の特定健診受診率を見ると、加入者全体では、昨年度より0.3%増加し、単一健保平均より4.9%大きい。また、被保険者の受診率は健保平均より11.2%高いが、一方、被扶養者の受診率は単一健保平均より6.9%低い。今後、被扶養者の健診受診率を如何に上げるかが課題である。

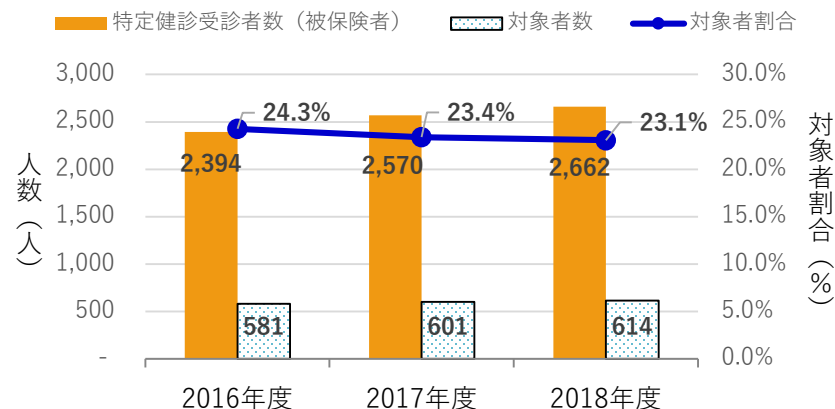
# 特定保健指導 対象者

(2019年10月1日)

特定保健指導対象者  
(加入者全体)

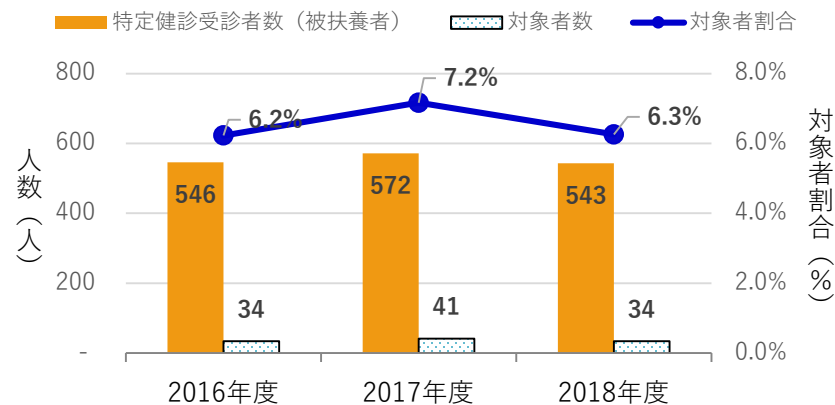


特定保健指導対象者  
(被保険者)



当健保の特定保健指導対象者割合を見ると、加入者全体ではここ数年は減少傾向にあり、2018年度は健保平均を1.2%下回った。また、被保険者の対象者割合は減少傾向にあるが、被扶養者の対象者割合も前年度より0.9%減少した。今後も引き続き、特定保健指導対象者を如何に減少させるかが課題である。

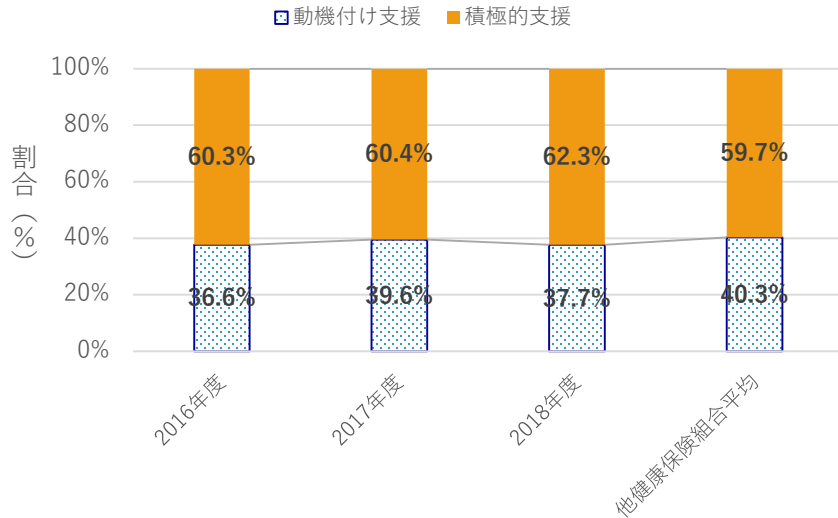
特定保健指導対象者  
(被扶養者)



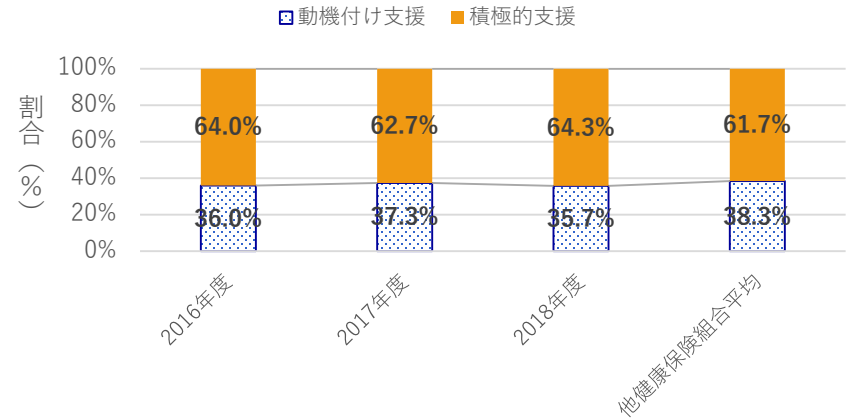
# 特定保健指導 対象者の内訳

(2019年10月1日)

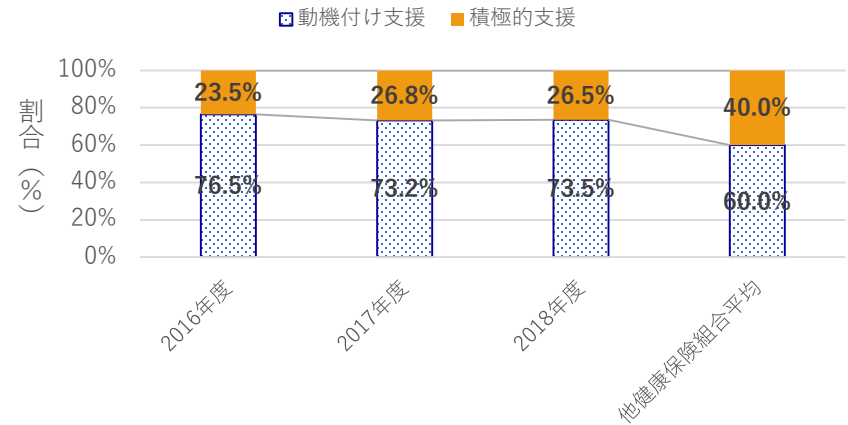
特定保健指導対象者の支援内訳  
(加入者全体)



特定保健指導対象者の支援内訳  
(被保険者)



特定保健指導対象者の支援内訳  
(被扶養者)

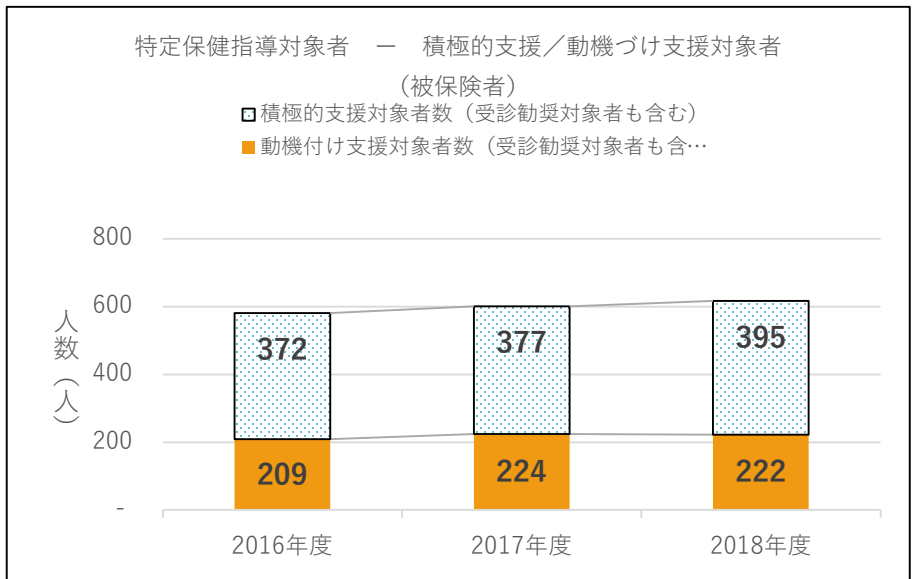
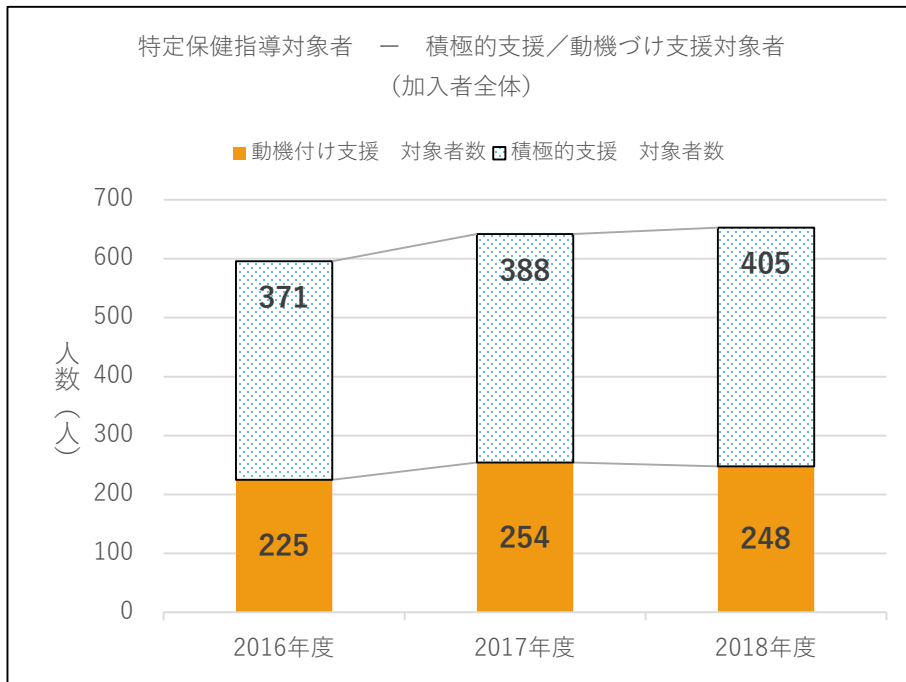


当健保の特定保健指導対象者を積極的支援者と動機づけ支援者の内訳でみると、約60%が積極的支援者である。推移をみると、加入者全体では、積極的支援者の割合が増加し、動機づけ支援者の割合が減少している。また、被保険者の積極的支援者の割合は健保平均よりやや高く、被扶養者の積極的支援者の割合は逆に健保平均より低い。

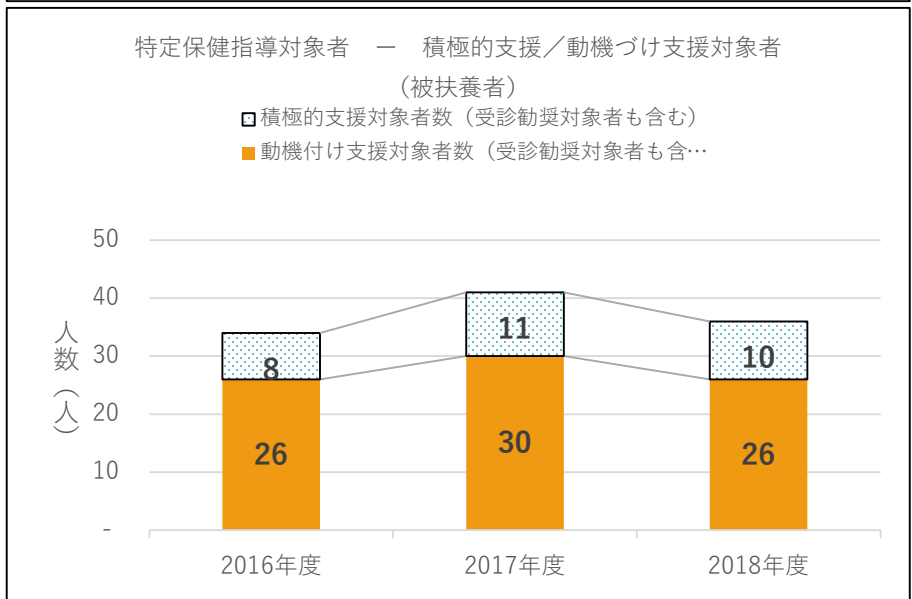


# 特定保健指導 対象者の内訳

(2020年4月15日)



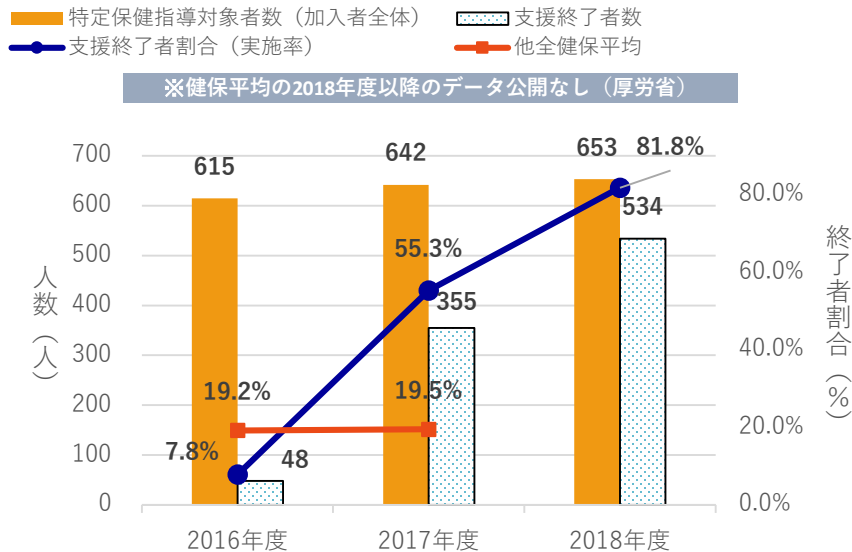
当健保の特定保健指導対象者を積極的支援者と動機づけ支援者の内訳でみると、約60%が積極的支援者である。推移をみると、加入者全体では、積極的支援者の人数が増加し、動機づけ支援者の人数が減少している。



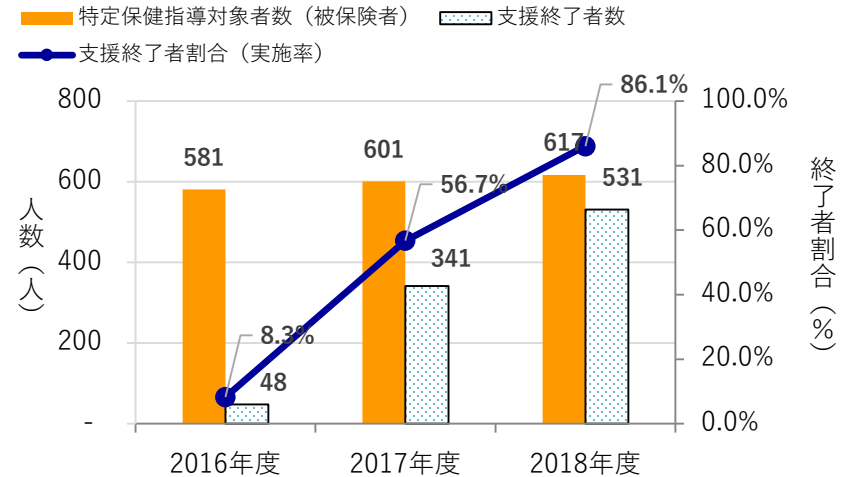
# 特定保健指導 終了者

(2019年10月24日)

## 特定保健指導終了者（加入者全体）

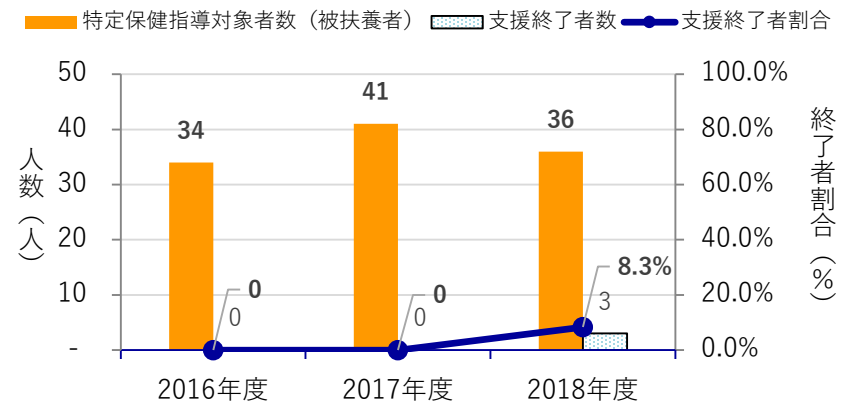


## 特定保健指導終了者（被保険者）



当健保の特定保健指導実施率は、年々増加し、2018年度で81.8%となった。この結果は、全事業所と連携して実施率向上を推進した成果が表れたといえる。被扶養者については、3名が終了に至った。今後は、被扶養者健診直後に初回面談を受けられる等の環境を検討していく。

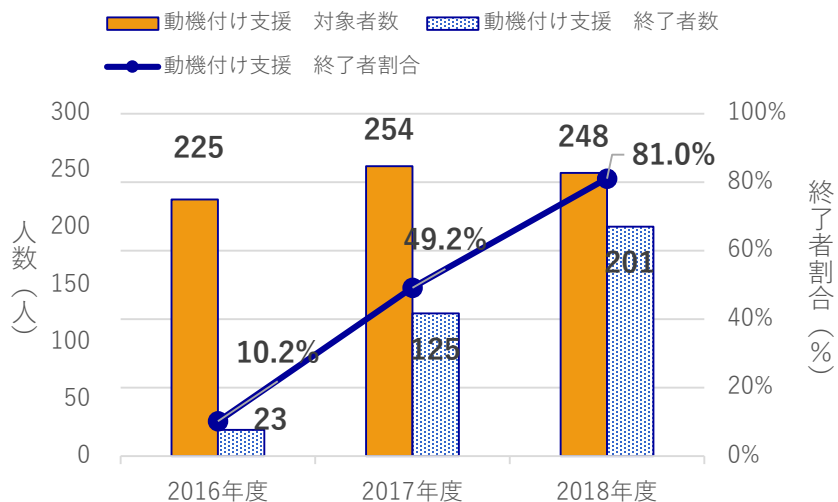
## 特定保健指導終了者（被扶養者）



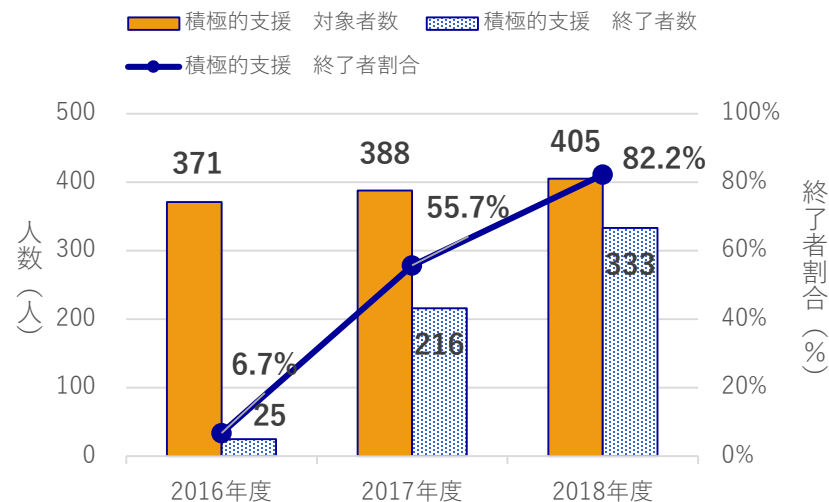
# 特定保健指導 支援別終了者

(2019年10月24日)

特定保健指導終了者  
(加入者全体／動機づけ支援者)



特定保健指導終了者  
(加入者全体／積極的支援者)

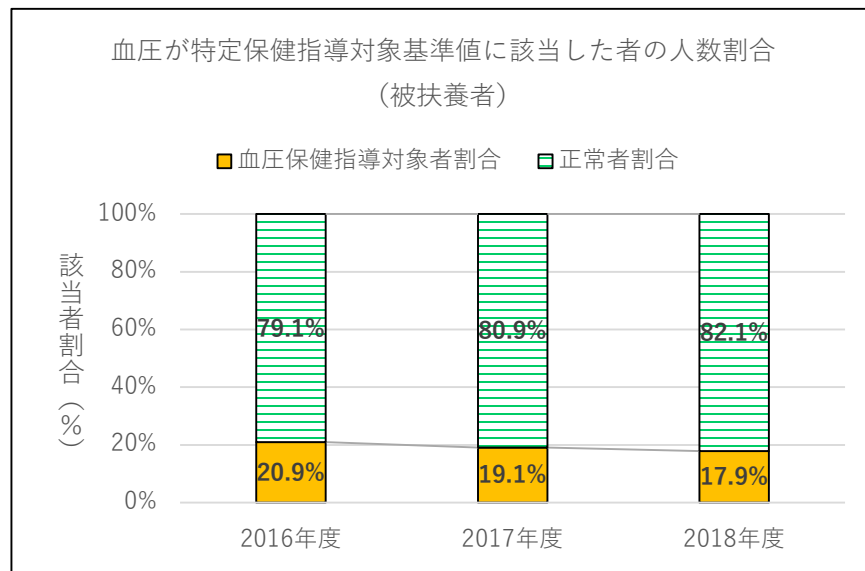
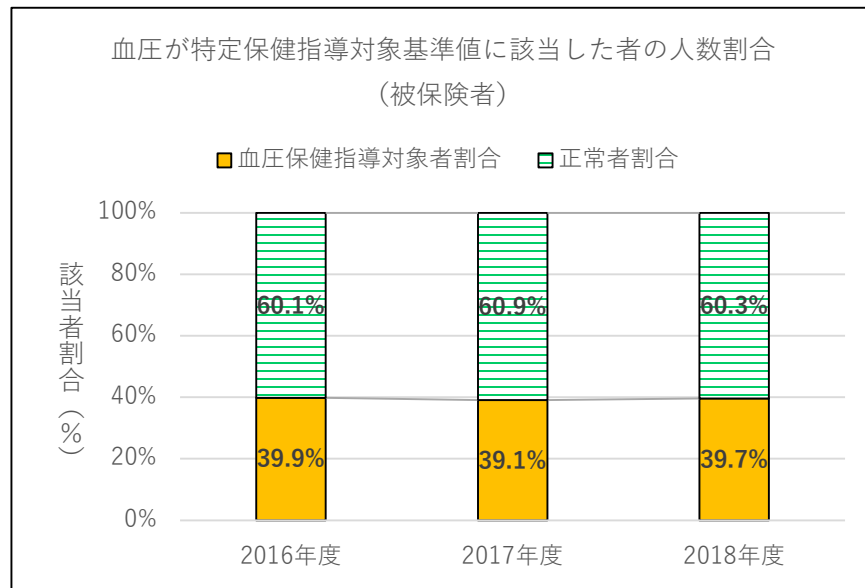
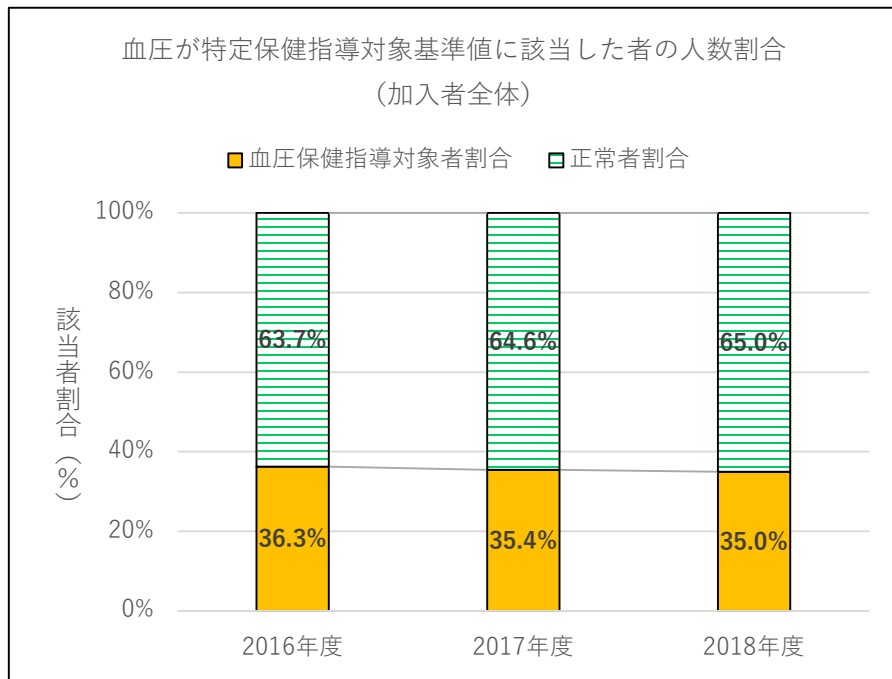


当健保の特定保健指導終了者割合を支援別にみると、動機付け支援者と積極的支援者のいずれも80%以上となり、大きな差異はなかった。動機付け支援は2018年度から3か月のプログラムとしている。

# 「血圧値」が特定保健指導の基準値に該当した者の割合

(2019年10月9日)

注) 集計結果には次のものは含まれない → 健診質問票未回答者、健康診断未実施者

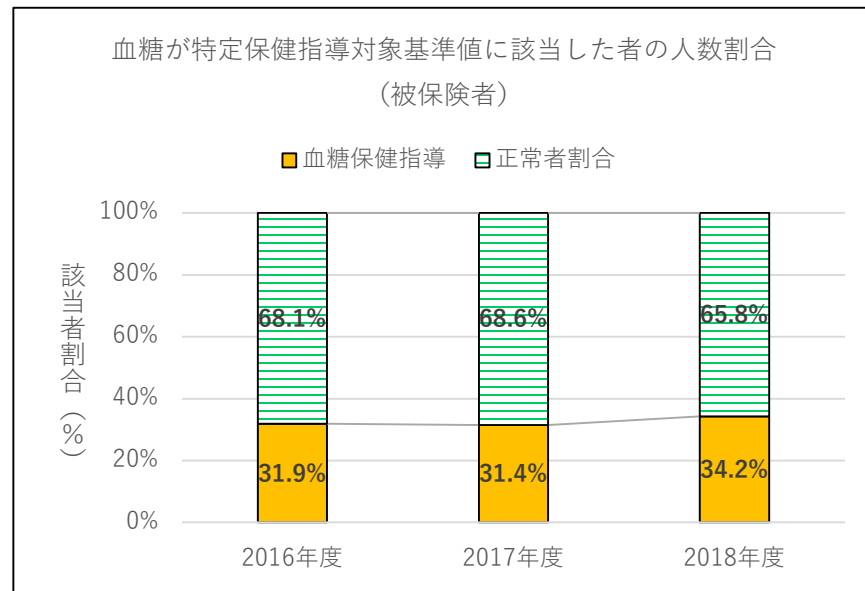
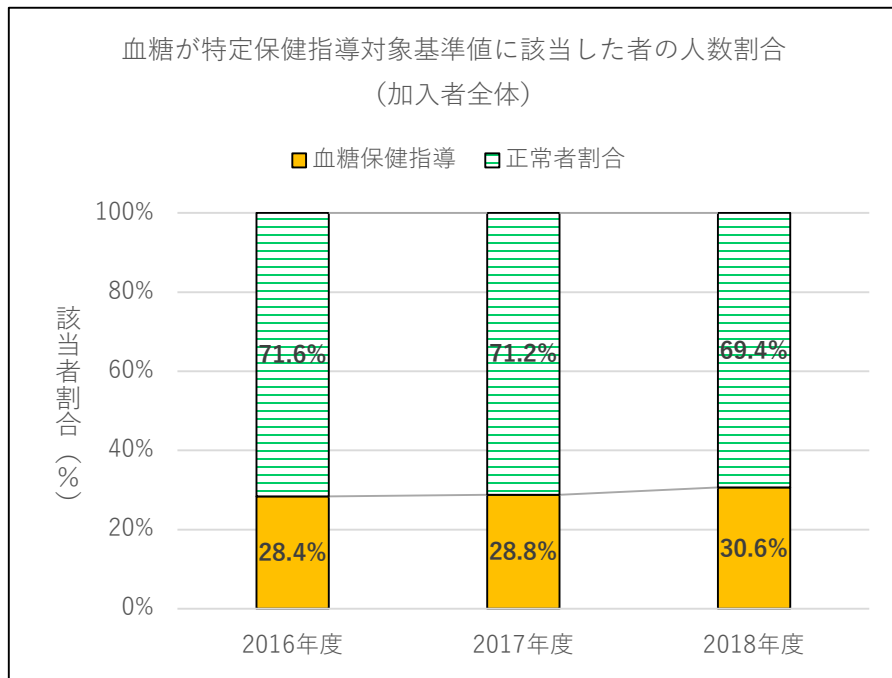


当健保の特定保健指導対象者のうち、加入者全体において、血圧値が特定保健指導の基準値に該当した者の割合は減少した(0.4%)。また、被保険者単独では該当者が0.6%増加し、被扶養者単独では1.2%減少している。

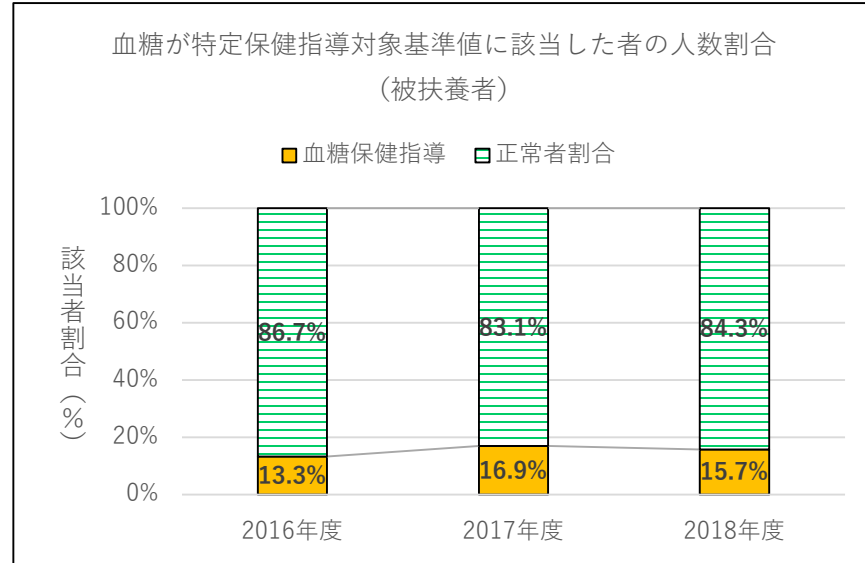
# 「血糖値」が特定保健指導の基準値に該当した者の割合

(2019年10月9日)

注) 集計結果には次のものは含まれない → 健診質問票未回答者、健康診断未実施者



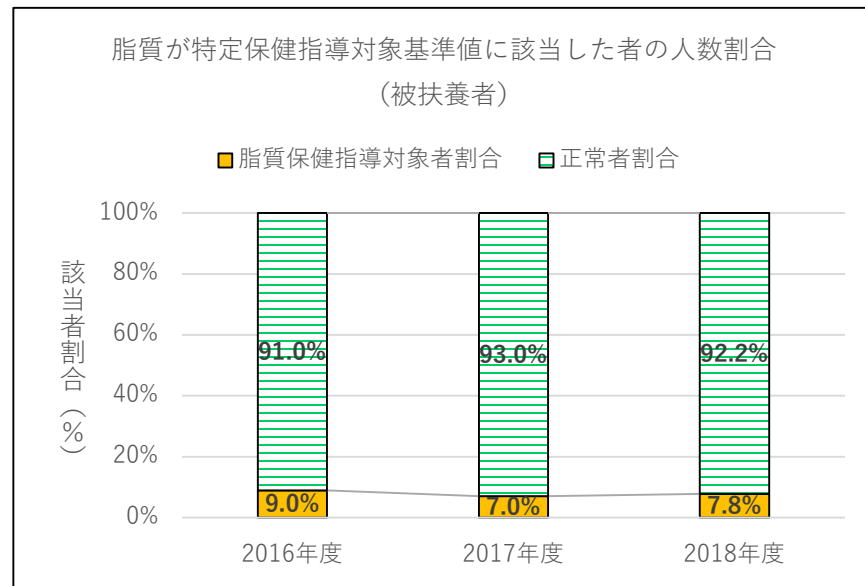
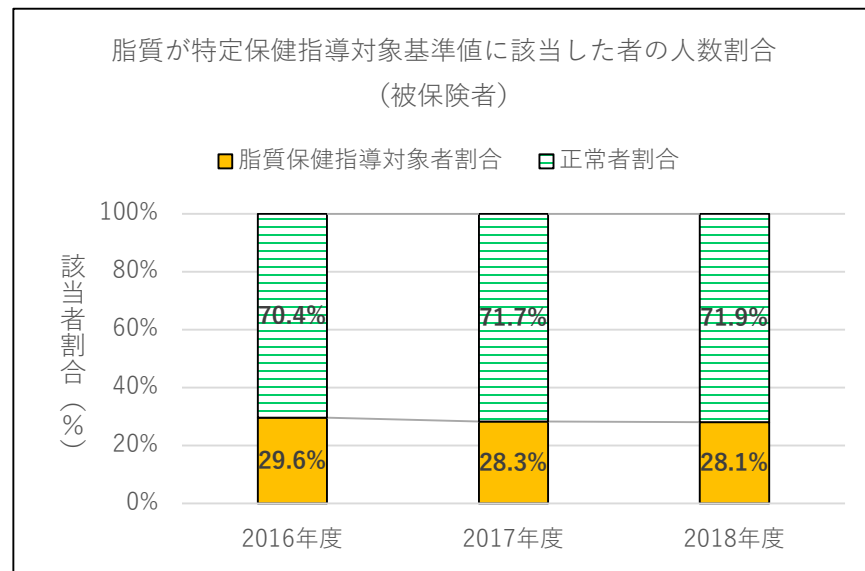
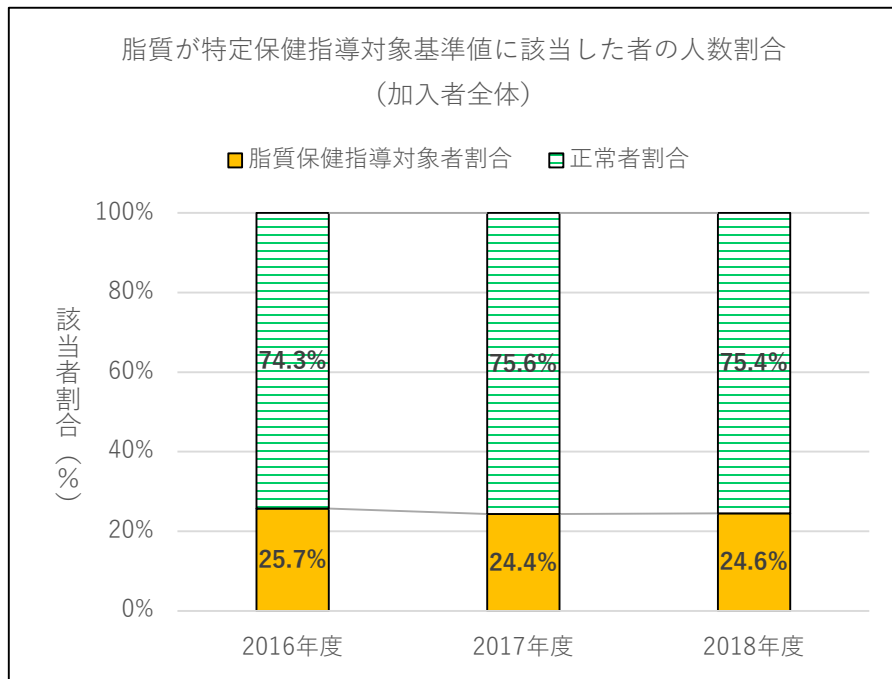
当健保の特定保健指導対象者のうち、加入者全体において、血糖値が特定保健指導の基準値に該当した者の割合は増加傾向にある。また、被保険者単独では該当者が2.8%増加し、被扶養者単独では1.2%減少している。



# 「脂質値」が特定保健指導の基準値に該当した者の割合

(2019年10月9日)

注) 集計結果には次のものは含まれない → 健診質問票未回答者、健康診断未実施者

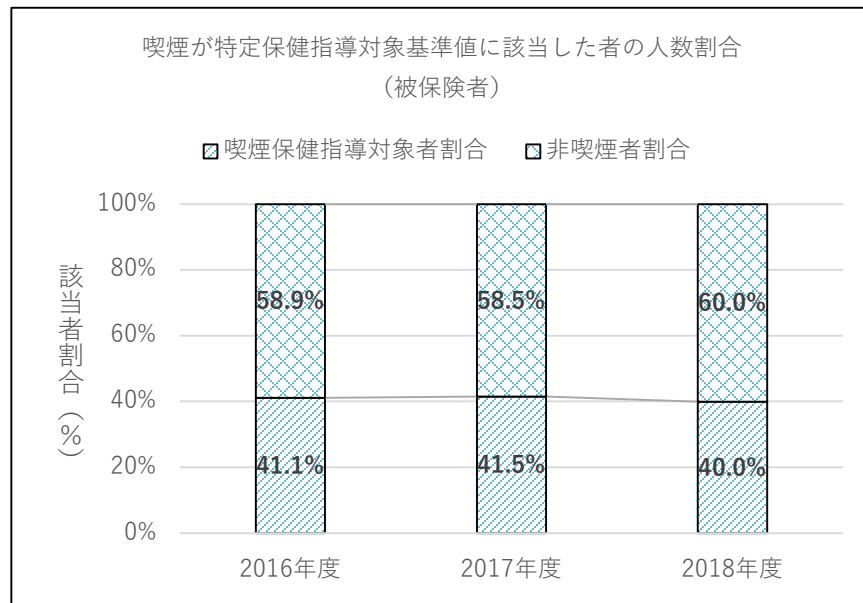
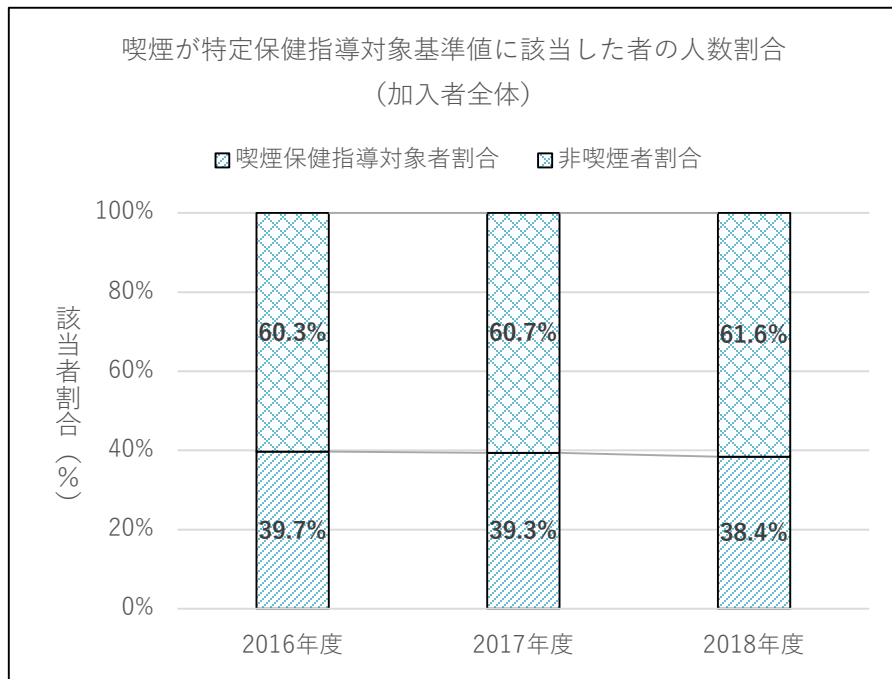


当健保の特定保健指導対象者のうち、加入者全体において、脂質値が特定保健指導の基準値に該当した者の割合はやや減少した(0.2%)。また、被保険者単独では該当者が0.2%減少し、被扶養者単独では0.8%増加している。

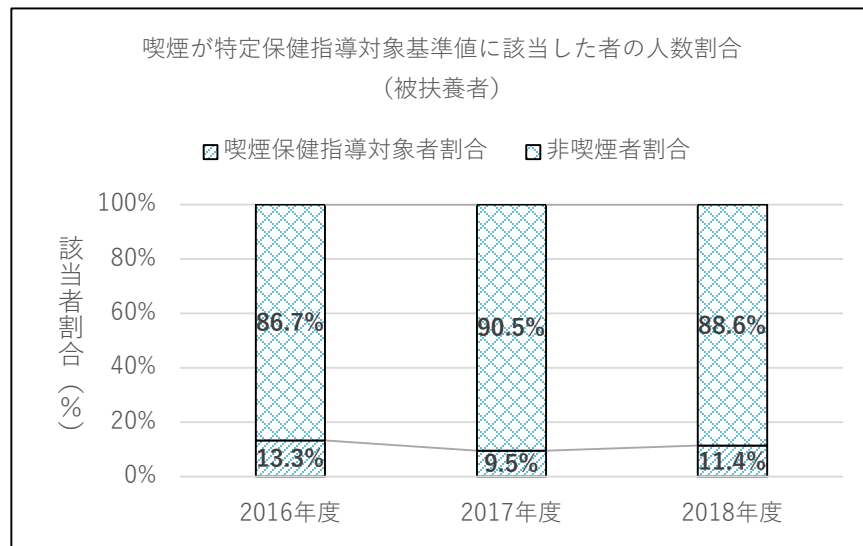
# 「喫煙」が特定保健指導の基準に該当した者の割合

(2019年10月9日)

注) 集計結果には次のものは含まれない → 健診質問票未回答者、健康診断未実施者

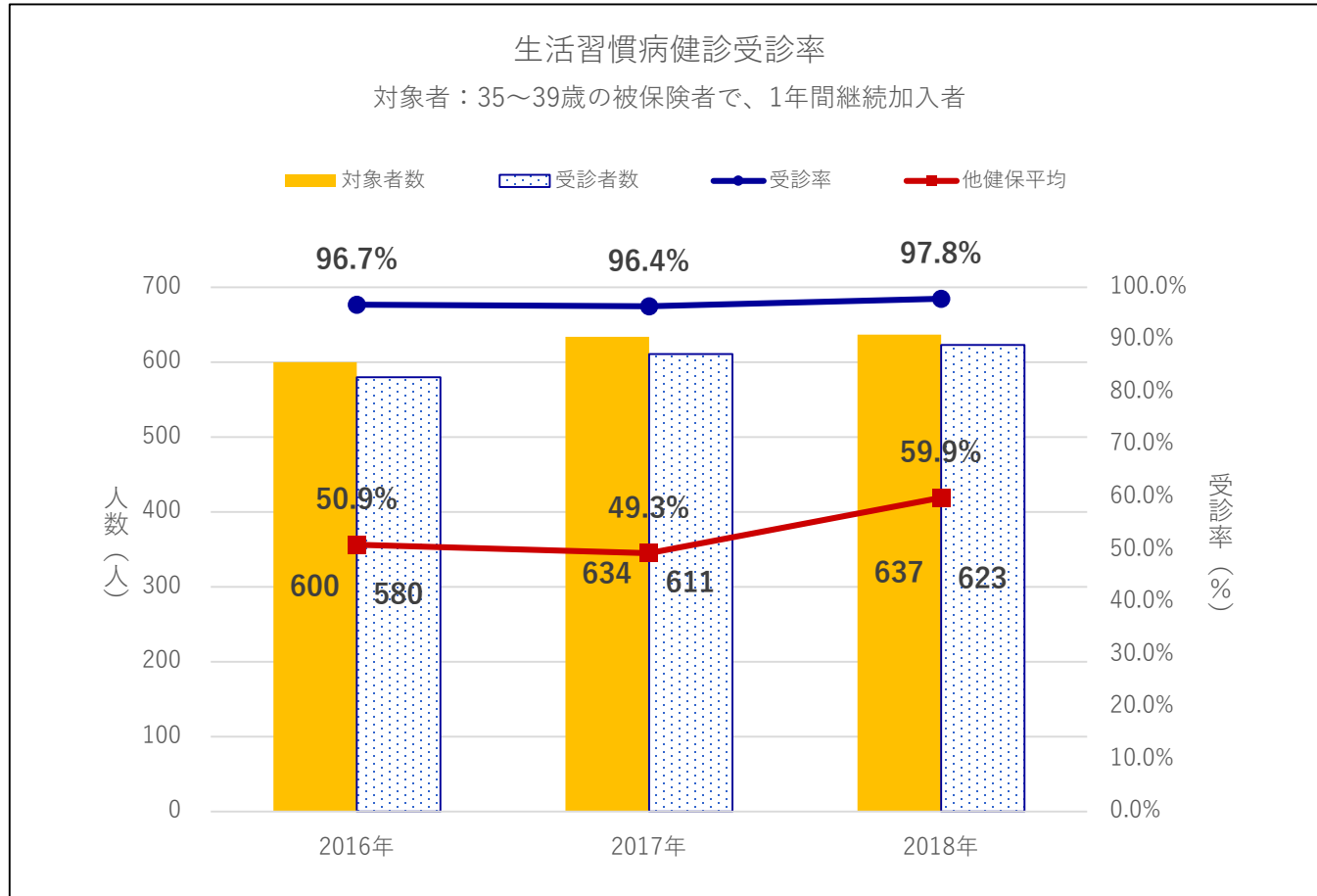


当健保の特定保健指導対象者のうち、加入者全体において、喫煙習慣が特定保健指導の基準値に該当した者の割合は減少した(0.9%)。また、被保険者単独では該当者が1.5%減少し、被扶養者単独では1.9%増加している。  
今後、さらに禁煙対策が必要と考える。



# 生活習慣病健診実施率

(2019年10月17日)

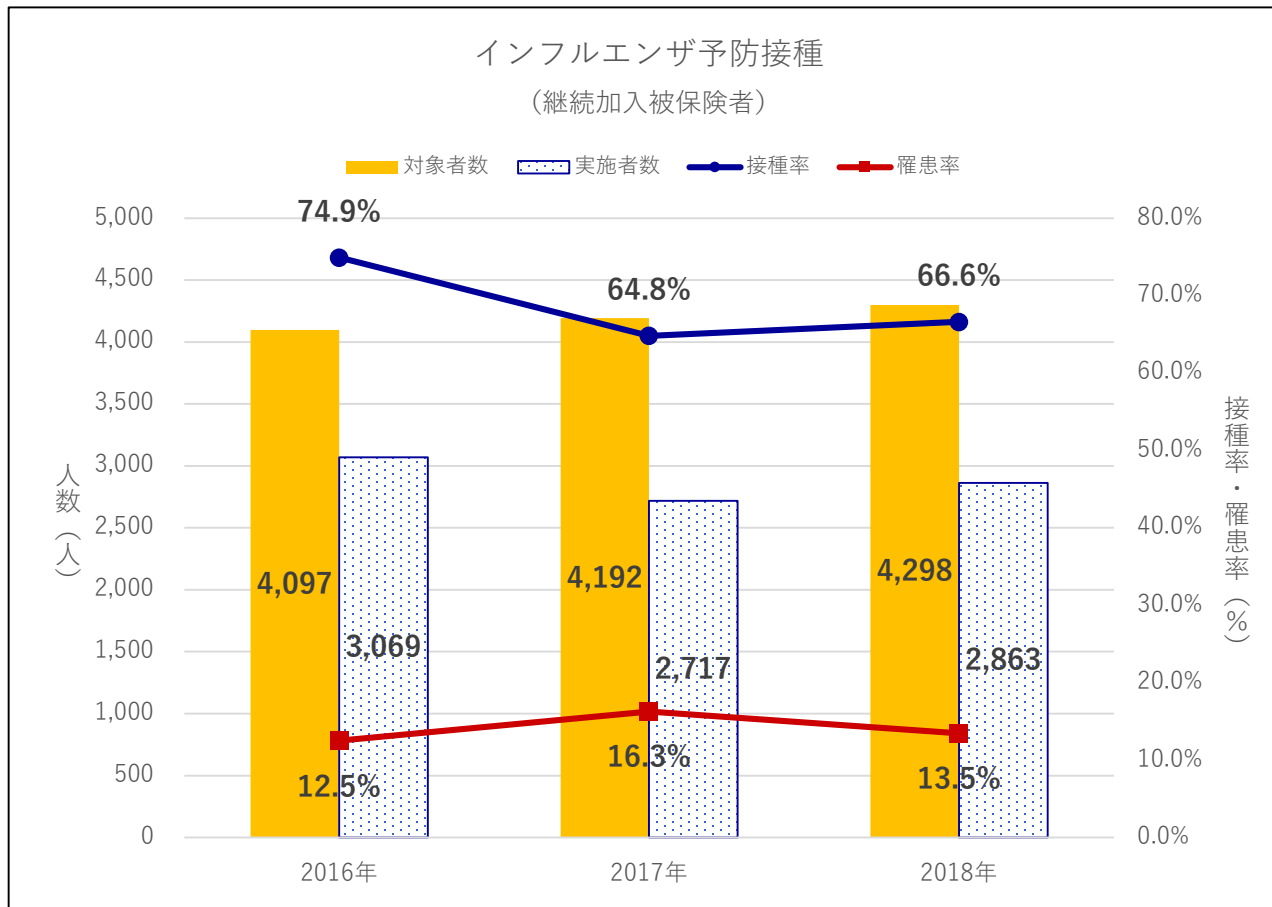


当健保の35～39歳の被保険者を対象とした生活習慣病健診は、平成28年度以降で90%以上を維持している。これは、全被保険者を対象として、健康Webに経年の健診結果を掲載するために結果を積極的に回収したことによるものと推測される。他健保平均と比較しても十分な実施率と評価できる。これにより、40歳以上になった後の健康増進によい影響を及ぼすと考える。



# 被保険者 インフルエンザ予防接種実施率・罹患率

(2019年11月5日)

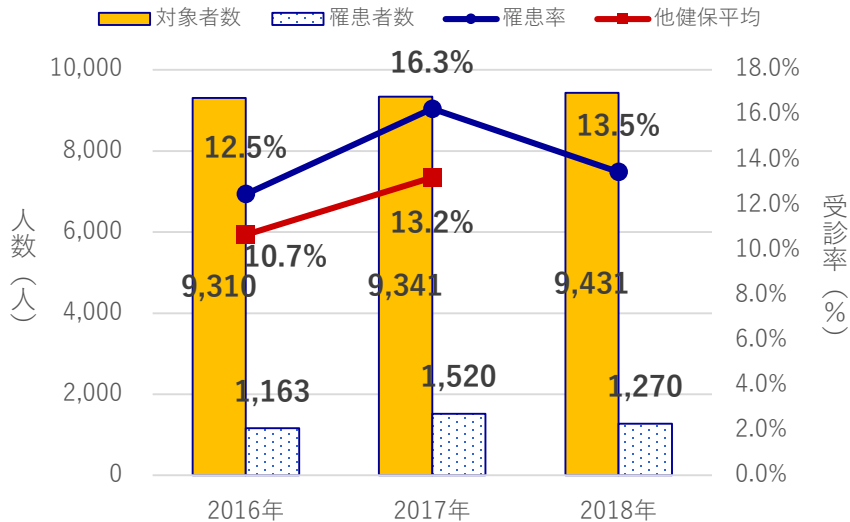


被保険者のインフルエンザ予防接種率は2018年度に1.8%増加し、インフルエンザ罹患率は2.8%減少した。この傾向は、2017年度、2018年度でみると、インフルエンザ予防接種率が増加すると罹患率が減少し、接種率が減少すると罹患率が増加するという予防接種の効果についての因果関係が見られる。

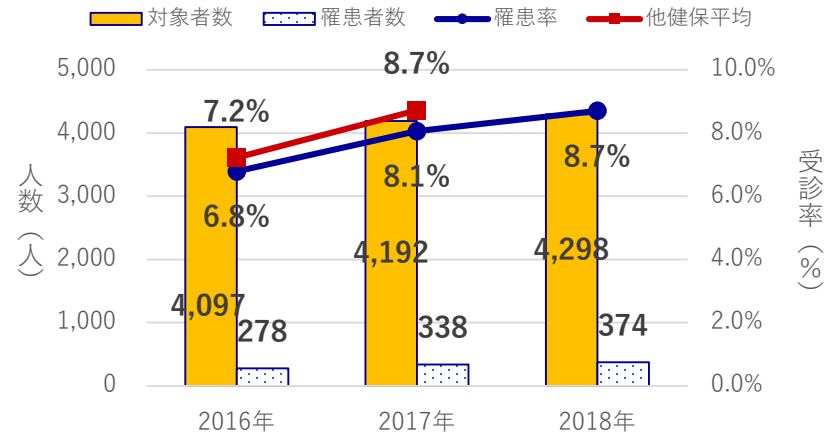
# インフルエンザ罹患率

(2019年11月6日)

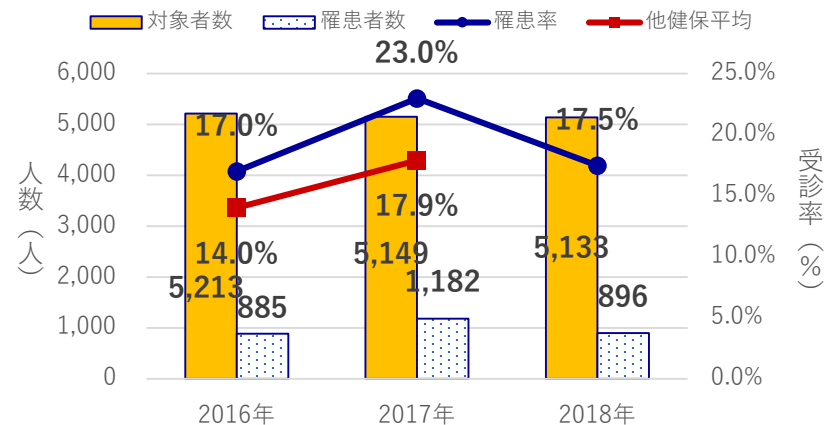
インフルエンザ罹患率  
(継続加入者全体)



インフルエンザ罹患率  
(継続加入被保険者)



インフルエンザ罹患率  
(継続加入被扶養者)



2018年度のインフルエンザ罹患率は、加入者全体では前年度に対し2.8%減少し13.5%となったが、他健保平均と比べて3%程度高い傾向がある。被保険者の罹患率は増加傾向があるが、他健保平均よりやや低い。一方、被扶養者の罹患率は被保険者の約2倍で、他健保平均よりたかい。すなわち、被扶養者の罹患率が高いことが加入者全体の罹患率を高くしている。

今後、被扶養者の罹患率を如何に減少させるかが課題であるが、現在、被保険者のみを対象としているインフルエンザ予防接種の補助を被扶養者へも展開すべきかの検討も進めていく。

## STEP 2 健康課題の抽出

No.	STEP1 対応項目	基本分析による現状把握から見える主な健康課題		対策の方向性	優先すべき 課題
1	ア, イ	加入者全体の年齢分布が徐々に高齢側にシフトしており、一人当たり医療費が年々増加する傾向にある。疾病別に見ると、生活習慣に起因する疾病が全体の1/4を占める。これにがんも含めると疾病全体の1/3を占める。また、35.6%を占めるその他疾患においても、生活習慣に関係するものが多い。	➔	医療費が年々増加傾向にあり、解決の糸口として一人ひとりの生活習慣の改善が重要であることを、加入者全員に認識してもらう必要がある。これには、事業所の産業保健担当者との健康管理事業推進会議、ウォーキングイベントの開催、ICTを活用した医療費通知などの機会を設ける。	✓
2	ウ, エ	当健保の健康リスク者分布を見ると、他健保平均と比較して、正常群の割合が多く、一方、生活習慣病及び重症化患者の割合が少ない。他健保平均と比較して、全体的に健康側に分布している。この傾向は、被保険者についても同様である。脂質リスク者分布を見ると、正常群の割合が40%台と、血圧・血糖と比べて非常に低く、不健康な生活群が多い。今後、さらに正常群の割合を増加させていきたい。	➔	リスク中間層が高リスク側へシフトしないための現状認識をしっかりと行ってもらうことが重要である。これには、データのベースとなる健診、ICTを活用したその結果の通知、生活習慣改善のための特定保健指導、またウォーキングなどポピュレーションアプローチの常時開催を計画する。 また、当健保は喫煙習慣者の割合が健保平均よりが高いため、喫煙率を減少させる施策を検討していく。	✓
3	オ, カ, キ	2018年度の当健保の特定健診受診率を見ると、加入者全体では、昨年度より0.3%増加し、単一健保平均より4.9%大きい。また、被保険者の受診率は健保平均より11.2%高いが、一方、被扶養者の受診率は単一健保平均より6.9%低い。 今後、被扶養者の健診受診率を如何に上げるかが課題である。 当健保の特定保健指導対象者割合を見ると、加入者全体ではここ数年は減少傾向にあり、2018年度は健保平均を1.2%下回った。また、被保険者の対象者割合は減少傾向にあるが、被扶養者の対象者割合も前年度より0.9%減少した。今後も引き続き、特定保健指導対象者を如何に減少させるかが課題である。 当健保の特定保健指導実施率は、年々増加し、2018年度で81.8%となった。この結果は、全事業所と連携して実施率向上を推進した成果が表れたといえる。被扶養者については、3名が終了に至った。今後は、被扶養者健診直後に初回面談を受けられる等の環境を検討していく。 成果として、特定保健指導対象者のうち約70%の体重が減少し、約60%の腹囲が減少した。今後はさらに特定保健指導で成果を上げ、特定保健指導対象者を減少させていく必要がある。	➔	被扶養者の健診受診率向上のためには、健診施設を増やし、がん検診とも同時に受診できる等、受診し易い環境に見直す。また、事業所の経営トップから被扶養者へのメッセージを伝えることも検討する。 また、特定保健指導については、H29年度に引き続き、全事業所と連携して、健康経営の視点から経営トップからの支援も受けて推進する計画である。 特定保健指導対象者を減少させることについては、最重要目標であるが、そのためにはまず適正に特定保健指導を実施することが重要と考える。	✓

4	<p>イ、ク 被保険者のインフルエンザ予防接種率は2018年度に1.8%増加し、インフルエンザ罹患率は2.8%減少した。この傾向は、2017年度、2018年度でみると、インフルエンザ予防接種率が増加すると罹患率が減少し、接種率が減少すると罹患率が増加するという予防接種の効果についての因果関係が見られる。</p> <p>2018年度のインフルエンザ罹患率は、加入者全体では前年度に対し2.8%減少し13.5%となったが、他健保平均と比べて3%程度高い傾向がある。被保険者の罹患率は増加傾向があるが、他健保平均よりやや低い。一方、被扶養者の罹患率は被保険者の約2倍で、他健保平均よりたかい。すなわち、被扶養者の罹患率が高いことが加入者全体の罹患率を高くしている。</p> <p>今後、被扶養者の罹患率を如何に減少させるかが課題であるが、現在、被保険者のみを対象としているインフルエンザ予防接種の補助を被扶養者へも展開すべきかの検討も進めていく。罹患予防にはうがい、手洗い等の感染予防も有効であるため、これらの啓蒙も合わせて続けていく。</p>	<p>➔ 現状、予防接種については、罹患率による評価以外に効果検証は難しく、接種の効果も計画ではないが、事業を継続しながら、効果検証を模索していく。</p>	
---	--	--	--

## 基本情報

No.	特徴		対策検討時に留意すべき点
1	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 事業所の拠点が全国にあり、全国的に点在している。</li> <li>2. 組合の規模としては、中程度（加入者1万人弱）である。</li> <li>3. 年齢構成は、男性は40～49歳、女性は40～44歳にピークがある。</li> <li>4. 3つの事業所を除いては医療専門職が不在である。</li> </ol>	<p>➔</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 事業所が全国に点在しているため、事業主の協力を得ながら、事業所の医療職、健康推進担当者とのコミュニケーションを密にとって保健事業を推進することが重要である。</li> <li>2. 構成年齢は40代という働き盛りが最も多いため、事業主にも健康経営という視点から支援してもらうことが必要である。</li> </ol>

## 保健事業の実施状況

No.	特徴		対策検討時に留意すべき点
1	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 被扶養者の特定健診受診率が低迷している。</li> <li>2. 特定保健指導対象者の割合は徐々に減少してきており、他健保平均より下回ったが、加入者全体でまだ20.2%と高い。</li> <li>3. 特定保健指導の実施率はH30年度に改善し、81.8%に達した。</li> <li>4. 健康情報Webへのアクセス数が一定数維持できている。</li> <li>5. ウォーキング・イベントの参加者が一定数維持できている。</li> </ol>	<p>➔</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 被扶養者の特定健診については、インセンティブの強化やナッジ理論を活用した支援を検討する。</li> <li>2. 特定保健指導については、より効果的なプログラムの模索、成功体験談記事による啓蒙等により、リピーターの減少を図る。実施率については現状の施策を継続する。</li> <li>3. ヘルスリテラシー向上のために、Webを用いた情報発信とアクセス数の維持が重要である。</li> <li>4. 健康の維持向上のためには、ポピュレーション・アプローチが不可欠で、最も効果が期待できるものとして、ウォーキング・イベントの継続実施と累積参加者の増加を推進する。推進力としては、ICTの活用とインセンティブ付与が重要である。</li> </ol>

## STEP 3 保健事業の実施計画

### 事業全体の目的

生活習慣病の発生を予防するため、健康リスク保有者である特定保健指導対象者の割合を減少させる。

### 事業全体の目標

特定保健指導対象者の割合を5年後を目途に10%以下にする。

### 事業の一覧

#### 職場環境の整備

保健指導宣伝	健康管理事業推進合同委員会
保健指導宣伝	保健事業推進のための各事業所との個別会議
保健指導宣伝	健康白書（事業所レポート）

#### 加入者への意識づけ

保健指導宣伝	機関誌発行
保健指導宣伝	健康保険パンフレットの配布
保健指導宣伝	健康情報Webでの情報発信

#### 個別の事業

特定健康診査事業	特定健診（被保険者）
特定健康診査事業	特定健診（被扶養者）
特定保健指導事業	特定保健指導
保健指導宣伝	ジェネリック利用促進の通知
保健指導宣伝	医療費通知
疾病予防	生活習慣病オプション健診（35歳以上の被保険者）
疾病予防	受診勧奨通知（高リスク者の重症化防止）
疾病予防	がん検診（被保険者）
疾病予防	人間ドック
疾病予防	PET/CT（被保険者）
疾病予防	インフルエンザ予防接種
疾病予防	救急医薬品の送付
疾病予防	電話健康相談
疾病予防	禁煙推進
体育奨励	ウォーキングイベント
体育奨励	体育奨励
直営保養所	保養所利用補助

※事業は予算科目順に並び替えて表示されています。

予算科目	注1)事業分類	新規既存	事業名	対象者				注2)実施主体	注3)プロセス分類	実施方法	注4)ストラクチャー分類	実施体制	予算額(千円)	実施計画	事業目標	健康課題との関連
				対象事業所	性別	年齢	対象者									
アウトプット指標										アウトカム指標						
職場環境の整備																
保健指導宣伝	1	既存	健康管理事業推進合同委員会	全て	男女	0～74	加入者全員	3	シ	全事業所の健康推進委員が定期的集まり、健康推進について議論する。	ア、イ、ウ	全体及び各事業所の健康課題について共有し、連携して解決策の展開を図り、コラボヘルスを効果的に推進する環境基盤を構築する。	1,000	2019年7月に会議を開催し、全体及び各事業所の健康課題を共有し、各事業所の保健事業推進計画、評価について意見交換を行い、全展開を図る。	会議を年1回以上開催し、すべての事業所が健康推進に関する計画に基づいて効果的に推進できること。	<p>加入者全体の年齢分布が徐々に高齢側にシフトしており、一人当たり医療費が年々増加する傾向にある。疾病別に見ると、生活習慣に起因する疾病が全体の1/4を占める。これにがんも含めると疾病全体の1/3を占める。また、35.6%を占めるその他疾患においても、生活習慣に関係するものが多い。</p> <p>当健保の健康リスク者分布を見ると、他健保平均と比較して、正常群の割合が多く、一方、生活習慣病及び重症化患者の割合が少ない。他健保平均と比較して、全体的に健康側に分布している。この傾向は、被保険者についても同様である。脂質リスク者分布を見ると、正常群の割合が40%台と、血圧・血糖と比べて非常に低く、不健康な生活群が多い。今後、さらに正常群の割合を増加させていきたい。</p> <p>2018年度の当健保の特定健診受診率を見ると、加入者全体では、昨年度より0.3%増加し、単一健保平均より4.9%大きい。また、被保険者の受診率は健保平均より11.2%高いが、一方、被扶養者の受診率は単一健保平均より6.9%低い。今後、被扶養者の健診受診率を如何に上げるかが課題である。</p> <p>当健保の特定保健指導対象者割合を見ると、加入者全体ではここ数年は減少傾向にあり、2018年度は健保平均を1.2%下回った。また、被保険者の対象者割合は減少傾向にあるが、被扶養者の対象者割合も前年度より0.9%減少した。今後も引き続き、特定保健指導対象者を如何に減少させるかが課題である。</p> <p>当健保の特定保健指導実施率は、年々増加し、2018年度で81.8%となった。この結果は、全事業所と連携して実施率向上を推進した成果が表れたといえる。被扶養者については、3名が終了に至った。今後は、被扶養者健診直後に初回面談を受けられる等の環境を検討していく。</p> <p>成果として、特定保健指導対象者のうち約70%の体重が減少し、約60%の腹囲が減少した。今後はさらに特定保健指導で成果を上げ、特定保健指導対象者を減少させていく必要がある。</p>
																<p>会議開催(【実績値】1回 【目標値】令和元年度：1回)本会議を年1回以上開催。</p> <p>事業所健康推進計画の策定と推進(【実績値】100% 【目標値】令和元年度：100%)すべての事業所が健康推進に関する年間計画を策定し、健康推進事業を推進すること。特に重要な保健事業である特定健診、特定保健指導、ウォーキングイベントが各事業所で展開しやすい環境基盤を構築する。</p>

予算科目	注1)事業分類	新規既存	事業名	対象者				注2)実施主体	注3)プロセス分類	実施方法	注4)ストラクチャー分類	実施体制	予算額(千円)	実施計画	事業目標	健康課題との関連
				対象事業所	性別	年齢	対象者									
アウトプット指標												アウトカム指標				
1			保健事業推進のための各事業所との個別会議	一部の事業所	男女	0～74	加入者全員	3	シ	健保と、規模の大きい主たる事業所とで個別会議を開催し、健康推進について議論する。	ア,イ,ウ	各事業所の健康課題について共有し、連携して解決策の展開を図り、コラボヘルス事業を効果的に推進するための環境基盤を構築する。	2019年7月に会議を開催し、全体及び各事業所の健康課題を共有し、各事業所の保健事業推進計画、評価について意見交換を行い、各事業所での展開を図る。	主たる事業所との個別会議を年1回以上開催し、各事業所が健康推進に関する計画に基づいて効果的に推進できること。	<p>加入者全体の年齢分布が徐々に高齢側にシフトしており、一人当たり医療費が年々増加する傾向にある。疾病別に見ると、生活習慣に起因する疾病が全体の1/4を占める。これにがんも含めると疾病全体の1/3を占める。また、35.6%を占めるその他疾患においても、生活習慣に関係するものが多い。</p> <p>当健保の健康リスク者分布を見ると、他健保平均と比較して、正常群の割合が多く、一方、生活習慣病及び重症化患者の割合が少ない。他健保平均と比較して、全体的に健康側に分布している。この傾向は、被保険者についても同様である。脂質リスク者分布を見ると、正常群の割合が40%台と、血圧・血糖と比べて非常に低く、不健康な生活群が多い。今後、さらに正常群の割合を増加させていきたい。</p> <p>2018年度の当健保の特定健診受診率を見ると、加入者全体では、昨年度より0.3%増加し、単一健保平均より4.9%大きい。また、被保険者の受診率は健保平均より11.2%高いが、一方、被扶養者の受診率は単一健保平均より6.9%低い。今後、被扶養者の健診受診率を如何に上げるかが課題である。</p> <p>当健保の特定保健指導対象者割合を見ると、加入者全体ではここ数年は減少傾向にあり、2018年度は健保平均を1.2%下回った。また、被保険者の対象者割合は減少傾向にあるが、被扶養者の対象者割合も前年度より0.9%減少した。今後も引き続き、特定保健指導対象者を如何に減少させるかが課題である。</p> <p>当健保の特定保健指導実施率は、年々増加し、2018年度で81.8%となった。この結果は、全事業所と連携して実施率向上を推進した成果が表れたといえる。被扶養者については、3名が終了に至った。今後は、被扶養者健診直後に初回面談を受けられる等の環境を検討していく。</p> <p>成果として、特定保健指導対象者のうち約70%の体重が減少し、約60%の腹囲が減少した。今後はさらに特定保健指導で成果を上げ、特定保健指導対象者を減少させていく必要がある。</p>	
会議開催(【実績値】12事業所 【目標値】令和元年度：4事業所)主たる4事業所との個別会議を年1回以上開催する。健康課題により、他の事業所との個別会議も随時開催する。												事業所健康推進計画の策定と推進(【実績値】100% 【目標値】令和元年度：100%)すべての事業所が健康推進に関する年間計画を策定し、健康推進事業を推進すること。特に重要な保健事業である特定健診、特定保健指導、ウォーキングイベントが各事業所で展開しやすい環境基盤を構築する。				

予算科目	注1)事業分類	新規既存	事業名	対象者				注2)実施主体	注3)プロセス分類	実施方法	注4)ストラクチャー分類	実施体制	予算額(千円)	実施計画	事業目標	健康課題との関連
				対象事業所	性別	年齢	対象者									
アウトプット指標										アウトカム指標						
1,2	新規		健康白書(事業所レポート)	全て	男女	0~74	加入者全員	1	イ,ウ,エ,オ,キ,ク,ケ,サ,シ	健診結果、レセプトを分析した結果を事業所ごとにまとめ、レポートにして各事業所健康推進スタッフに提供し、保健事業推進に活用してもらう。	ア,イ,ウ	健保所属保健師を中心に、委託会社の協力を得てレポートを作成。	2019年7月開催の健康管理事業推進合同委員会までに事業所レポートを作成し、全事業所に配付し、健康管理事業推進合同委員会及び個別会議等を通じて、健康状態について共通認識を持ち、両者が協力して改善するためのツールとして活用する。	事業所レポートを全事業所向けと全体まとめを作成し、各事業所に配付する。また、それらレポートを各事業所の健康推進に活用してもらう。実施率：100%	<p>加入者全体の年齢分布が徐々に高齢側にシフトしており、一人当たり医療費が年々増加する傾向にある。疾病別に見ると、生活習慣に起因する疾病が全体の1/4を占める。これにがんも含めると疾病全体の1/3を占める。また、35.6%を占めるその他疾患においても、生活習慣に関係するものが多い。</p> <p>当健保の健康リスク者分布を見ると、他健保平均と比較して、正常群の割合が多く、一方、生活習慣病及び重症化患者の割合が少ない。他健保平均と比較して、全体的に健康側に分布している。この傾向は、被保険者についても同様である。脂質リスク者分布を見ると、正常群の割合が40%台と、血圧・血糖と比べて非常に低く、不健康な生活群が多い。今後、さらに正常群の割合を増加させていきたい。</p> <p>2018年度の当健保の特定健診受診率を見ると、加入者全体では、昨年度より0.3%増加し、単一健保平均より4.9%大きい。また、被保険者の受診率は健保平均より11.2%高いが、一方、被扶養者の受診率は単一健保平均より6.9%低い。今後、被扶養者の健診受診率を如何に上げるかが課題である。</p> <p>当健保の特定保健指導対象者割合を見ると、加入者全体ではここ数年は減少傾向にあり、2018年度は健保平均を1.2%下回った。また、被保険者の対象者割合は減少傾向にあるが、被扶養者の対象者割合も前年度より0.9%減少した。今後も引き続き、特定保健指導対象者を如何に減少させるかが課題である。</p> <p>当健保の特定保健指導実施率は、年々増加し、2018年度で81.8%となった。この結果は、全事業所と連携して実施率向上を推進した成果が表れたといえる。被扶養者については、3名が終了に至った。今後は、被扶養者健診直後に初回面談を受けられる等の環境を検討していく。</p> <p>成果として、特定保健指導対象者のうち約70%の体重が減少し、約60%の腹囲が減少した。今後はさらに特定保健指導で成果を上げ、特定保健指導対象者を減少させていく必要がある。</p>	
事業所レポートの作成・配付(【実績値】100% 【目標値】令和元年度：100%)事業所レポートを全事業所向けと全体まとめを作成し、活用してもらう。事業所数：19事業所。										事業所レポートの活用は、その他の保健事業推進の結果として評価されるので、ここではアウトカムを設定しない。(アウトカムは設定されていません)						

加入者への意識づけ



予算科目	注1)事業分類	新規既存	事業名	対象者				注2)実施主体	注3)プロセス分類	実施方法	注4)ストラクチャー分類	実施体制	予算額(千円)	実施計画	事業目標	健康課題との関連
				対象事業所	性別	年齢	対象者									
アウトプット指標												アウトカム指標				
保健指導宣伝	2,5	既存	機関誌発行	全て	男女	18～74	加入者全員	1	ス	加入者の健康づくりに役立つ情報を記事にして、定期的に冊子として配付する。配付方法は、事業所経由で直接本人に手渡しする。健保と事業所との日常的に推進するコラボヘルスを中心に得られた重要な情報、方針等を加入者に冊子の形式で提供し、加入者の健康意識向上のきっかけとする。	ス	健保専属の保健師を中心に、各事業所の産業医、保健師、保健事業推進担当者の意見も取り入れながらコンテンツを作成する。	2,640	機関誌「健保ニュース」を年3回、春、秋、冬に発行する。	毎年、春、秋、冬に1回、年合計3回の発行を確実に行う。	<p>加入者全体の年齢分布が徐々に高齢側にシフトしており、一人当たり医療費が年々増加する傾向にある。疾病別に見ると、生活習慣に起因する疾病が全体の1/4を占める。これにがんも含めると疾病全体の1/3を占める。また、35.6%を占めるその他疾患においても、生活習慣に関係するものが多い。</p> <p>当健保の健康リスク者分布を見ると、他健保平均と比較して、正常群の割合が多く、一方、生活習慣病及び重症化患者の割合が少ない。他健保平均と比較して、全体的に健康側に分布している。この傾向は、被保険者についても同様である。脂質リスク者分布を見ると、正常群の割合が40%台と、血圧・血糖と比べて非常に低く、不健康な生活群が多い。今後、さらに正常群の割合を増加させていきたい。</p> <p>2018年度の当健保の特定健診受診率を見ると、加入者全体では、昨年度より0.3%増加し、単一健保平均より4.9%大きい。また、被保険者の受診率は健保平均より11.2%高いが、一方、被扶養者の受診率は単一健保平均より6.9%低い。今後、被扶養者の健診受診率を如何に上げるかが課題である。</p> <p>当健保の特定保健指導対象者割合を見ると、加入者全体ではここ数年は減少傾向にあり、2018年度は健保平均を1.2%下回った。また、被保険者の対象者割合は減少傾向にあるが、被扶養者の対象者割合も前年度より0.9%減少した。今後も引き続き、特定保健指導対象者を如何に減少させるかが課題である。</p> <p>当健保の特定保健指導実施率は、年々増加し、2018年度で81.8%となった。この結果は、全事業所と連携して実施率向上を推進した成果が表れたといえる。被扶養者については、3名が終了に至った。今後は、被扶養者健診直後に初回面談を受けられる等の環境を検討していく。</p> <p>成果として、特定保健指導対象者のうち約70%の体重が減少し、約60%の腹囲が減少した。今後はさらに特定保健指導で成果を上げ、特定保健指導対象者を減少させていく必要がある。</p>
																<p>健保日より発行件数(【実績値】3回 【目標値】令和元年度：3回)毎年、春、秋、冬に1回、年合計3回発行。</p>

予算科目	注1)事業分類	新規既存	事業名	対象者				注2)実施主体	注3)プロセス分類	実施方法	注4)ストラクチャー分類	実施体制	予算額(千円)	実施計画	事業目標	健康課題との関連
				対象事業所	性別	年齢	対象者									
アウトプット指標												アウトカム指標				
1,2,5	既存	健康保険パンフレットの配布	全て	男女	18～74	加入者全員	1	ス	新たに健保に加入した被保険者に対し、健康保険制度、給付内容等健康保険のしくみや、健康づくりの重要性を記事にした冊子を配付し、新規加入者の健康意識向上のきっかけとする。	ス	健保専属の保健師を中心に、各事業所の産業医、保健師、保健事業推進担当者の意見も取り入れながらコンテンツを作成する。	20	4月の新入社員入社に合わせて作成し、配付する。中途採用者についても、健保加入時に配付する。	新入社員等健康保険組合への新規加入者に漏れなくパンフレットを配付する。	<p>加入者全体の年齢分布が徐々に高齢側にシフトしており、一人当たり医療費が年々増加する傾向にある。疾病別に見ると、生活習慣に起因する疾病が全体の1/4を占める。これにがんも含めると疾病全体の1/3を占める。また、35.6%を占めるその他疾患においても、生活習慣に関係するものが多い。</p> <p>当健保の健康リスク者分布を見ると、他健保平均と比較して、正常群の割合が多く、一方、生活習慣病及び重症化患者の割合が少ない。他健保平均と比較して、全体的に健康側に分布している。この傾向は、被保険者についても同様である。脂質リスク者分布を見ると、正常群の割合が40%台と、血圧・血糖と比べて非常に低く、不健康な生活群が多い。今後、さらに正常群の割合を増加させていきたい。</p> <p>2018年度の当健保の特定健診受診率を見ると、加入者全体では、昨年度より0.3%増加し、単一健保平均より4.9%大きい。また、被保険者の受診率は健保平均より11.2%高いが、一方、被扶養者の受診率は単一健保平均より6.9%低い。今後、被扶養者の健診受診率を如何に上げるかが課題である。</p> <p>当健保の特定保健指導対象者割合を見ると、加入者全体ではここ数年は減少傾向にあり、2018年度は健保平均を1.2%下回った。また、被保険者の対象者割合は減少傾向にあるが、被扶養者の対象者割合も前年度より0.9%減少した。今後も引き続き、特定保健指導対象者を如何に減少させるかが課題である。</p> <p>当健保の特定保健指導実施率は、年々増加し、2018年度で81.8%となった。この結果は、全事業所と連携して実施率向上を推進した成果が表れたといえる。被扶養者については、3名が終了に至った。今後は、被扶養者健診直後に初回面談を受けられる等の環境を検討していく。</p> <p>成果として、特定保健指導対象者のうち約70%の体重が減少し、約60%の腹囲が減少した。今後はさらに特定保健指導で成果を上げ、特定保健指導対象者を減少させていく必要がある。</p>	
配付率【実績値】100% 【目標値】令和元年度：100%)保険証発行と同時に、パンフレットを確実に配付する。												最終的な目的はヘルスリテラシーの向上であるが、その効果について他の事業との区分けが難しい。(アウトカムは設定されていません)				

予算科目	注1) 事業分類	新規既存	事業名	対象者				注2) 実施主体	注3) プロセス分類	実施方法	注4) ストラクチャー分類	実施体制	予算額(千円)	実施計画	事業目標	健康課題との関連
				対象事業所	性別	年齢	対象者									
アウトプット指標																
アウトカム指標																
1,2,5	既存		健康情報Webでの情報発信	全て	男女	0～74	被保険者	1	ア,エ,キ,ケ		当健保にて開設した健康情報Web/PepUpを使って健康情報を発信し、加入者のヘルスリテラシーの向上を図る。冊子等と異なり、必要なタイミングで情報の発信が可能。	ア,イ,ウ	健保専属の保健師を中心に、各事業所の産業医、保健師、保健事業推進担当者の意見も取り入れながらコンテンツを作成する。	1,600	委託会社の協力を得ながら、前年度の結果をもとに、コンテンツを見直す。主たるコンテンツは、昨年度に引き続き、各自の健康診断結果、医療費通知、ジェネリック差額通知、ウォーキング・ラリーの歩数、ランキング、体重測定チャレンジ、健康クイズ、また健康に関するいろいろな記事を掲載し、Webを開くたびに自然に健康についての意識が高まることを期待する。	加入者全体の年齢分布が徐々に高齢側にシフトしており、一人当たり医療費が年々増加する傾向にある。疾病別に見ると、生活習慣に起因する疾病が全体の1/4を占める。これにがんも含めると疾病全体の1/3を占める。また、35.6%を占めるその他疾患においても、生活習慣に関係するものが多い。  当健保の健康リスク者分布を見ると、他健保平均と比較して、正常群の割合が多く、一方、生活習慣病及び重症化患者の割合が少ない。他健保平均と比較して、全体的に健康側に分布している。この傾向は、被保険者についても同様である。脂質リスク者分布を見ると、正常群の割合が40%台と、血圧・血糖と比べて非常に低く、不健康な生活群が多い。今後、さらに正常群の割合を増加させていきたい。  2018年度の当健保の特定健診受診率を見ると、加入者全体では、昨年度より0.3%増加し、単一健保平均より4.9%大きい。また、被保険者の受診率は健保平均より11.2%高いが、一方、被扶養者の受診率は単一健保平均より6.9%低い。 今後、被扶養者の健診受診率を如何に上げるかが課題である。 当健保の特定保健指導対象者割合を見ると、加入者全体ではここ数年は減少傾向にあり、2018年度は健保平均を1.2%下回った。また、被保険者の対象者割合は減少傾向にあるが、被扶養者の対象者割合も前年度より0.9%減少した。今後も引き続き、特定保健指導対象者を如何に減少させるかが課題である。 当健保の特定保健指導実施率は、年々増加し、2018年度で81.8%となった。この結果は、全事業所と連携して実施率向上を推進した成果が表れたといえる。被扶養者については、3名が終了に至った。今後は、被扶養者健診直後に初回面談を受けられる等の環境を検討していく。 成果として、特定保健指導対象者のうち約70%の体重が減少し、約60%の腹囲が減少した。今後はさらに特定保健指導で成果を上げ、特定保健指導対象者を減少させていく必要がある。
健康情報Webへのアクセス数(【実績値】92,959回 【目標値】令和元年度：10,000回)従来の健保HPだけでは、アクセス数が月平均1,500回程度。毎月の健康Webへのトータルアクセス回数を平均10,000回/月(加入者人数相当)を目指す。当健保運営の健康情報Web/PepUpへアクセスしてもらうことが、被保険者のヘルスリテラシーを向上につながると思え、指標としては健康Webへの毎月のアクセス数(全アクセス数)とし、目標は月平均10,000回/月(全加入者数相当)以上を維持することとする。																
最終的な目的はヘルスリテラシーの向上であるが、その効果について他の事業との区別が難しい。(アウトカムは設定されていません)																

個別の事業

特定健康診断事業	3,4	既存(法定)	特定健診(被保険者)	全て	男女	40～74	被保険者	2	イ,エ,オ,キ,ク,ケ,サ,シ		特定健診の実施率向上のため、被保険者の特定健診は、事業所実施の定期健診と合わせて実施。健診費用は、任意継続被保険者についてのみ健保負担とし、他の被保険者については事業所負担とする。	ア,イ,ウ,キ,コ	健保専属の保健師を中心に、各事業所の産業医、保健師、保健事業推進担当者と連携しながら健診実施率を確保する。	280	事業所による一般健康診断(安衛法)と同時開催にて実施率90%以上維持。健診費用は、昨年度と同様、任意継続被保険者についてのみ健保負担とし、他の被保険者については事業所負担とする。	2018年度の当健保の特定健診受診率を見ると、加入者全体では、昨年度より0.3%増加し、単一健保平均より4.9%大きい。また、被保険者の受診率は健保平均より11.2%高いが、一方、被扶養者の受診率は単一健保平均より6.9%低い。 今後、被扶養者の健診受診率を如何に上げるかが課題である。 当健保の特定保健指導対象者割合を見ると、加入者全体ではここ数年は減少傾向にあり、2018年度は健保平均を1.2%下回った。また、被保険者の対象者割合は減少傾向にあるが、被扶養者の対象者割合も前年度より0.9%減少した。今後も引き続き、特定保健指導対象者を如何に減少させるかが課題である。 当健保の特定保健指導実施率は、年々増加し、2018年度で81.8%となった。この結果は、全事業所と連携して実施率向上を推進した成果が表れたといえる。被扶養者については、3名が終了に至った。今後は、被扶養者健診直後に初回面談を受けられる等の環境を検討していく。 成果として、特定保健指導対象者のうち約70%の体重が減少し、約60%の腹囲が減少した。今後はさらに特定保健指導で成果を上げ、特定保健指導対象者を減少させていく必要がある。
健診受診案内発信(【実績値】1件 【目標値】令和元年度：1件)各事業所に対して健診受診率向上のための要請を行う。文書による通知と健保HP等のWebによる掲示を行う。(「健康管理事業実施計画」)																
健診受診率(【実績値】95.5% 【目標値】令和元年度：90%)健診受診率90%以上を維持。																

予算科目	注1)事業分類	新規既存	事業名	対象者				注2)実施主体	注3)プロセス分類	実施方法	注4)ストラクチャー分類	実施体制	予算額(千円)	実施計画	事業目標	健康課題との関連
				対象事業所	性別	年齢	対象者									
アウトプット指標																
アウトカム指標																
	3,4	既存(法定)	特定健診(被扶養者)	全て	男女	40～74	被扶養者	1	ア,イ,エ,オ,キ,ク,ケ,シ	健診手続きをわかりやすくするため、健診項目を被保険者向け健診と同じ項目に一本化した。また、オプションでがん検診も受診可。オプションを除き、健診費用は全額健保負担。被扶養者宛てに健保より受診案内を送付し、未受診者に対しては、年度終了2か月前に受診の督促案内を送付し、かつ電話にて督促。また、受診した場合、その被保険者に対してインセンティブとして商品券3,000分を本人に直接送付して贈呈。	ア,イ,ウ,キ	健保専属の保健師を中心に、健診委託先と連携して、受診案内、受診状況のモニタリングを行う。電話による督促は、健保専属保健師が行う。	9,828	継続実施	健診受診率向上。当年度目標50%以上、以降段階的に向上を目指し、2022年には80%とする。	2018年度の当健保の特定健診受診率を見ると、加入者全体では、昨年度より0.3%増加し、単一健保平均より4.9%大きい。また、被保険者の受診率は健保平均より11.2%高いが、一方、被扶養者の受診率は単一健保平均より6.9%低い。今後、被扶養者の健診受診率を如何に上げるかが課題である。当健保の特定保健指導対象者割合を見ると、加入者全体ではここ数年は減少傾向にあり、2018年度は健保平均を1.2%下回った。また、被保険者の対象者割合は減少傾向にあるが、被扶養者の対象者割合も前年度より0.9%減少した。今後も引き続き、特定保健指導対象者を如何に減少させるかが課題である。当健保の特定保健指導実施率は、年々増加し、2018年度で81.8%となった。この結果は、全事業所と連携して実施率向上を推進した成果が表れたといえる。被扶養者については、3名が終了に至った。今後は、被扶養者健診直後に初回面談を受けられる等の環境を検討していく。成果として、特定保健指導対象者のうち約70%の体重が減少し、約60%の腹囲が減少した。今後はさらに特定保健指導で成果を上げ、特定保健指導対象者を減少させていく必要がある。
健診受診案内(【実績値】100% 【目標値】令和元年度：100%)全被扶養者に対して健康診断案内を直接郵送。												健診受診率(【実績値】44.4% 【目標値】令和元年度：50%)健診受診率50%以上。以降段階的に向上を目指し、2022年には80%とする。				
受診勧奨(【実績値】100% 【目標値】令和元年度：100%)年度末2か月前までに、未受診者に対してはがきと電話により受診勧奨を行う。																
特定保健指導事業	4	既存(法定)	特定保健指導	全て	男女	40～74	基準該当者	1	イ,ウ,エ,オ,キ,ク,ケ,シ	健保にて対象者を抽出し、事業所と連携して実施案内を配信。なぜ特定保健指導が必要なのかを理解してもらうよう、事業所の健康推進担当を経由して経営層、管理職層への周知を行うと共に、対象者個人にも案内を配信。未回答者に対しては、事業所経由で徹底的に督促実施。	ア,イ,ウ,キ,ケ,コ,サ	健保専属の保健師を中心に、各事業所の産業医、保健師、保健事業推進担当者と連携しながら特定保健指導実施率を確保する。	19,960	平成30年4月～令和1年3月までの健診結果をもとに、随時特定保健指導対象者を抽出し、事業所と連携して実施スケジュールを策定。実施スケジュールは事業所により、早いところは平成30年7月から開始し、最も遅いところで令和1年4月開始、同年10月終了となる。積極的支援は、今年度からモデル実施、また動機づけ支援は3か月支援とする。大規模事業所はWeb予約方式で手間を半減する。	厚労省の目標に準じて、特定保健指導実施率55%以上とするが、80%以上維持を目指す。また、特定保健指導対象者の割合を段階的に減少させ、2023年に10%以下を目指す。	2018年度の当健保の特定健診受診率を見ると、加入者全体では、昨年度より0.3%増加し、単一健保平均より4.9%大きい。また、被保険者の受診率は健保平均より11.2%高いが、一方、被扶養者の受診率は単一健保平均より6.9%低い。今後、被扶養者の健診受診率を如何に上げるかが課題である。当健保の特定保健指導対象者割合を見ると、加入者全体ではここ数年は減少傾向にあり、2018年度は健保平均を1.2%下回った。また、被保険者の対象者割合は減少傾向にあるが、被扶養者の対象者割合も前年度より0.9%減少した。今後も引き続き、特定保健指導対象者を如何に減少させるかが課題である。当健保の特定保健指導実施率は、年々増加し、2018年度で81.8%となった。この結果は、全事業所と連携して実施率向上を推進した成果が表れたといえる。被扶養者については、3名が終了に至った。今後は、被扶養者健診直後に初回面談を受けられる等の環境を検討していく。成果として、特定保健指導対象者のうち約70%の体重が減少し、約60%の腹囲が減少した。今後はさらに特定保健指導で成果を上げ、特定保健指導対象者を減少させていく必要がある。
特定保健指導実施率(【実績値】57.7% 【目標値】令和元年度：60%)特定保健指導実施率55%以上を維持する。												特定保健指導対象者の割合(【実績値】20.4% 【目標値】令和元年度：18%)特定保健指導の効果により、特定保健指導対象者の割合を前年度より減少させる。特定保健指導の効果により、特定保健指導対象者の割合を前年度より2%ずつ減少させ、2023年には10%以下にする。				
保健指導宣伝	7	既存	ジェネリック利用促進の通知	全て	男女	0～74	加入者全員	1	エ,キ,ク	ケ	健保専属の保健師を中心に実施。ジェネリック医薬品差額通知の作成は委託先に委託し送付。通知の効果検証等は委託先と連携して実施。		750	風邪、インフルエンザが流行する直前の11月にジェネリック医薬品差額通知を送付。送付対象者は、直近のレセプトから過去1年間に、差額が300円以上発生した者とする。	ジェネリック医薬品の使用促進指標として、ジェネリック医薬品使用者の割合を増やすこと、ジェネリック医薬品利用率(数量ベース)を増やすこととし、それぞれ数値目標を設定する。	加入者全体の年齢分布が徐々に高齢側にシフトしており、一人当たり医療費が年々増加する傾向にある。疾病別に見ると、生活習慣に起因する疾病が全体の1/4を占める。これにがんも含めると疾病全体の1/3を占める。また、35.6%を占めるその他疾患においても、生活習慣に関係するものが多い。

予算科目	注1)事業分類	新規既存	事業名	対象者				注2)実施主体	注3)プロセス分類	実施方法	注4)ストラクチャー分類	実施体制	予算額(千円)	実施計画	事業目標	健康課題との関連	
				対象事業所	性別	年齢	対象者										
アウトプット指標												アウトカム指標					
ジェネリック医薬品使用者割合(【実績値】45.0% 【目標値】令和元年度：50%)ジェネリック差額通知の効果検証として、差額通知の配付者のうちジェネリック医薬品使用者の割合(ジェネリック医薬品使用者率)50%以上を維持。評価期間は、通知発行翌月から同年度3月までの全期間とする。												ジェネリック医薬品使用割合(【実績値】74.9% 【目標値】令和元年度：80%)年度末(3月度)におけるジェネリック医薬品使用割合(数量)80%以上					
2,5	既存		医療費通知	全て	男女	0～74	加入者全員	1	エ	ケ	健康情報Webを通じて被保険者宛に世帯ごとの医療費を通知し、医療費負担の観点から、健康意識と医療費適正化意識を向上を目指す。(Webデータはダウンロードして、e-taxからの医療費控除申請に利用可。)	ケ	Web掲載、メール配信は外部委託にて行う。	350	健康情報Webに、毎月医療費通知を掲載し、そのつどメールにて掲載を知らせる。	医療費通知を毎月健康情報Webに掲載。	加入者全体の年齢分布が徐々に高齢側にシフトしており、一人当たり医療費が年々増加する傾向にある。疾病別に見ると、生活習慣に起因する疾病が全体の1/4を占める。これにがんも含めると疾病全体の1/3を占める。また、35.6%を占めるその他疾患においても、生活習慣に関係するものが多い。
医療費通知のWebへの掲載(【実績値】 - 【目標値】令和元年度：100%)毎月医療費通知を健康Webに掲載												最終的な目的はヘルスリテラシーの向上であるが、その効果について他の事業との区分けが難しい。(アウトカムは設定されていません)					
疾病予防	3,4	既存	生活習慣病オプシオン健診(35歳以上の被保険者)	全て	男女	35～74	被保険者,その他	3	イ,ウ,エ,オ,キ,ク,ケ,シ	ア,イ,ウ,キ,コ	35歳以上の被保険者に対し、特定健診法定健診項目の他に、生活習慣病リスクをより低減するためにオプシオン健診を実施。事業主が行う定期健診と合わせて実施。費用は安衛法対象項目を除き健保が全額負担する。	ア,イ,ウ,キ,コ	健保専属の保健師を中心に、各事業所の産業医、保健師、保健事業推進担当者と連携しながらオプシオン健診項目を決定する。	2,070	35歳以上の被保険者に対し、特定健診法定健診項目の他に、生活習慣病リスクをより低減するために、HbA1c、クレアチニン、尿酸値、眼底検査(医師の指示があった場合)を、事業主が行う定期健診と併せて実施。事業所による一般健康診断(安衛法)と同時開催にて実施率90%以上維持。	健保と事業所とで健康課題を共有した上で、健保より各事業所に対して健診受診率向上のための要請を行い、健診実施率90%の維持を図る。	2018年度の当健保の特定健診受診率を見ると、加入者全体では、昨年度より0.3%増加し、単一健保平均より4.9%大きい。また、被保険者の受診率は健保平均より11.2%高いが、一方、被扶養者の受診率は単一健保平均より6.9%低い。今後、被扶養者の健診受診率を如何に上げるかが課題である。当健保の特定保健指導対象者割合を見ると、加入者全体ではここ数年は減少傾向にあり、2018年度は健保平均を1.2%下回った。また、被保険者の対象者割合は減少傾向にあるが、被扶養者の対象者割合も前年度より0.9%減少した。今後も引き続き、特定保健指導対象者を如何に減少させるかが課題である。当健保の特定保健指導実施率は、年々増加し、2018年度で81.8%となった。この結果は、全事業所と連携して実施率向上を推進した成果が表れたといえる。被扶養者については、3名が終了に至った。今後は、被扶養者健診直後に初回面談を受けられる等の環境を検討していく。成果として、特定保健指導対象者のうち約70%の体重が減少し、約60%の腹囲が減少した。今後はさらに特定保健指導で成果を上げ、特定保健指導対象者を減少させていく必要がある。
健診受診案内発信(【実績値】100% 【目標値】令和元年度：100%)各事業所に対して健診受診率向上のための要請を行う。文書による通知と健保HP等のWebによる掲示を行う。(「健康管理事業実施計画」)												健診受診率(【実績値】96.4% 【目標値】令和元年度：90%)健診受診率90%以上を維持。					
3,4,5	既存		受診勧奨通知(高リスク者の重症化防止)	一部の事業所	男女	18～74	基準該当者	1	イ,ウ,エ,オ,キ,ク,シ	ア,イ,ウ,キ,コ	健康診断結果を基に、健保にて定めた高リスク者の基準を超えた者でかつ未通院の者を抽出し、医師の診断を受けるよう、健保と事業所との連名で受診勧奨通知を送付する。受診するまで督促を繰り返し替える。基準(血糖：200mg/dl以上又はHbA1c8.0%以上、血圧：100又は160mmHg以上)	ア,イ,ウ,キ,コ	産業医、保健師がいる事業所は各事業所主体で受診勧奨するが、不在の場合は健保が受診勧奨通知を対象者に直接送付する。	2,000	対象事業所の健診結果が得られ次第、順次基準に基づき受診勧奨対象者を抽出し、受診勧奨対象者に受診勧奨通知を送付する。その後受診するまで督促を繰り返す。	受診勧奨通知による受診率50%以上、受診勧奨対象者の割合3%以下を維持する。	当健保の健康リスク者分布を見ると、他健保平均と比較して、正常群の割合が多く、一方、生活習慣病及び重症化患者の割合が少ない。他健保平均と比較して、全体的に健康側に分布している。この傾向は、被保険者についても同様である。脂質リスク者分布を見ると、正常群の割合が40%台と、血圧・血糖と比べて非常に低く、不健康な生活群が多い。今後、さらに正常群の割合を増加させていきたい。
通知者の受診率(【実績値】65.0% 【目標値】令和元年度：50%)受診勧奨対象者に対して、受診勧奨通知後の受診率(治療率)を50%以上を維持する。(血糖：200mg/dl以上又はHbA1c8.0%以上、血圧：100又は160mmHg以上)												受診勧奨対象者の割合(【実績値】1.4% 【目標値】令和元年度：3%)生活習慣病の治療放置による重症化を防ぐ。全加入者における受診勧奨対象者の割合3%以下を維持する。受診勧奨対象者の基準(血糖：200mg/dl以上又はHbA1c8.0%以上、血圧：100又は160mmHg以上)					
3	既存		がん検診(被保険者)	全て	男女	18～74	被保険者	1	イ,ウ,エ,オ,キ,ク,ケ,サ,シ	ア,イ,ウ,キ,コ	がん検診の実施率向上のため、被保険者のがん検診は、事業所実施の定期健診と合わせて実施。被扶養者については、特定健診と同時にオプシオンでがん検診も受診できる制度とする。	ア,イ,ウ,キ,コ	健保専属の保健師を中心に、各事業所の産業医、保健師、保健事業推進担当者と連携しながらがん検診実施率を確保する。	15,000	事業所による一般健康診断(安衛法)と同時開催にて、胃、肺、大腸各がん検診実施率70%以上維持。	健保と事業所とで健康課題を共有した上で、健保より各事業所に対してがん検診受診率向上のための要請を行い、胃、肺、大腸各がん検診実施率70%の維持を図る。がんの早期発見のため、被保険者のがん検診を、事業所実施の定期健診と合わせて実施し、受診率を維持する。※検診項目と検診間隔：胃がん検診は50歳以上でABC検診の結果、正常群の割合が40%台と、血圧・血糖と比べて非常に低く、不健康な生活群が多い。今後は、さらに正常群の割合を増加させていきたい。	加入者全体の年齢分布が徐々に高齢側にシフトしており、一人当たり医療費が年々増加する傾向にある。疾病別に見ると、生活習慣に起因する疾病が全体の1/4を占める。これにがんも含めると疾病全体の1/3を占める。また、35.6%を占めるその他疾患においても、生活習慣に関係するものが多い。
がん検診受診案内発信(【実績値】1件 【目標値】令和元年度：1件)各事業所に対してがん検診受診率向上のための要請を行う。文書による通知と健保HP等のWebによる掲示を行う。												がん検診受診率(【実績値】66.2% 【目標値】令和元年度：70%)胃、肺、大腸の各がん検診受診率70%以上を維持。ABC健診70%以上を維持。H30年度実績：胃がん検診77.0%、肺がん検診100%、大腸がん検診90.2% ※胃がんについては、2年に1回受診していれば実施したとみなす。					

予算科目	注1) 事業分類	新規既存	事業名	対象者				注2) 実施主体	注3) プロセス分類	実施方法	注4) ストラクチャー分類	実施体制	予算額(千円)	実施計画	事業目標	健康課題との関連
				対象事業所	性別	年齢	対象者									
アウトプット指標												アウトカム指標				
3	既存		人間ドック	全て	男女	35～74	加入者全員	1	イ,ウ,エ,オ	受診に際して健保より補助が出ることの広報を行い、受診率等をモニタリングする。	キ	健保専属保健師により、受診に際して健保より補助が出ることの広報と、モニタリングを実施。	9,500	受診補助の広報を、健保HP、機関誌「健保ニュース」の一覧表で毎回掲示。実施率モニタリングは年2回実施。	受診率5%。人間ドックは高額であり、また費用に対する疾病予防効果も不明瞭であるため、受診率の数値目標はあえて高い数値は設定しない。	2018年度の当健保の特定健診受診率を見ると、加入者全体では、昨年度より0.3%増加し、単一健保平均より4.9%大きい。また、被保険者の受診率は健保平均より11.2%高いが、一方、被扶養者の受診率は単一健保平均より6.9%低い。今後、被扶養者の健診受診率を如何に上げるかが課題である。当健保の特定保健指導対象者割合を見ると、加入者全体ではここ数年は減少傾向にあり、2018年度は健保平均を1.2%下回った。また、被保険者の対象者割合は減少傾向にあるが、被扶養者の対象者割合も前年度より0.9%減少した。今後も引き続き、特定保健指導対象者を如何に減少させるかが課題である。当健保の特定保健指導実施率は、年々増加し、2018年度で81.8%となった。この結果は、全事業所と連携して実施率向上を推進した成果が表れたといえる。被扶養者については、3名が終了に至った。今後は、被扶養者健診直後に初回面談を受けられる等の環境を検討していく。成果として、特定保健指導対象者のうち約70%の体重が減少し、約60%の腹囲が減少した。今後はさらに特定保健指導で成果を上げ、特定保健指導対象者を減少させていく必要がある。
受診率(【実績値】3.2% 【目標値】令和元年度：5%)人間ドックは高額であり、また費用に対する疾病予防効果も不明瞭であるため、受診率の数値目標はあえて高い数値は設定しない。												最終的な目的は疾病予防であるが、その評価は難しい。(アウトカムは設定されていません)				
3	既存		PET/CT(被保険者)	全て	男女	35～74	被保険者	1	イ,ウ,エ,オ	受診に際して健保より補助が出ることの広報を行い、受診率等をモニタリングする。	キ	健保専属保健師により、受診に際して健保より補助が出ることの広報と、モニタリングを実施。	2,000	受診補助の広報を、健保HP、機関誌「健保ニュース」の一覧表で毎回掲示。実施率モニタリングは年2回実施。	受診率0.5%。人間ドックは高額であり、また費用に対する疾病予防効果も不明瞭であるため、受診率の数値目標はあえて高い数値は設定しない。	当健保の健康リスク者分布を見ると、他健保平均と比較して、正常群の割合が多く、一方、生活習慣病及び重症化患者の割合が少ない。他健保平均と比較して、全体的に健康側に分布している。この傾向は、被保険者についても同様である。脂質リスク者分布を見ると、正常群の割合が40%台と、血圧・血糖と比べて非常に低く、不健康な生活群が多い。今後、さらに正常群の割合を増加させていきたい。
受診率(【実績値】0.5% 【目標値】令和元年度：0.5%)PET/CTは高額であり、また費用に対する疾病予防効果も不明瞭であるため、受診率の数値目標はあえて高い数値は設定しない。												最終的な目的は疾病予防であるが、その評価は難しい。(アウトカムは設定されていません)				
3,5	既存		インフルエンザ予防接種	全て	男女	18～74	被保険者	1	イ,エ,キ,ケ,シ	事業所内にて集団で予防接種を実施。	ア,イ,ウ,キ,コ	事業所主体で実施し、健保は補助金の提供、及び効果検証を行う。	12,000	11月～12月に事業所主体で予防接種を実施。健保機関誌「健保ニュース」にて、予防接種の大切さ、および健保より補助金が出ることを広報。	目標値として接種率70%以上とする。	被保険者のインフルエンザ予防接種率は2018年度に1.8%増加し、インフルエンザ罹患率は2.8%減少した。この傾向は、2017年度、2018年度でみると、インフルエンザ予防接種率が増加すると罹患率が減少し、接種率が減少すると罹患率が増加するという予防接種の効果についての因果関係が見られる。2018年度のインフルエンザ罹患率は、加入者全体では前年度に対し2.8%減少し13.5%となったが、他健保平均と比べて3%程度高い傾向がある。被保険者の罹患率は増加傾向があるが、他健保平均よりやや低い。一方、被扶養者の罹患率は被保険者の約2倍で、他健保平均よりたかい。すなわち、被扶養者の罹患率が高いことが加入者全体の罹患率を高くしている。今後、被扶養者の罹患率を如何に減少させるかが課題であるが、現在、被保険者のみを対象としているインフルエンザ予防接種の補助を被扶養者へも展開すべきかの検討を進めていく。罹患予防にはうがい、手洗い等の感染予防も有効であるため、これらの啓蒙も合わせて続けていく。
接種率(【実績値】59.1% 【目標値】令和元年度：70%)予防接種時のリスクに対して、疾病予防効果も不明瞭であるため、接種率の目標値を設定するのは難しいが、目安として予防接種の接種率70%以上を目標にする。												インフルエンザ罹患者の減少、インフルエンザ拡大の防止を図るのが目的であるが、予防手段として予防接種だけでは不十分なため評価は難しい。(アウトカムは設定されていません)				
2,5	既存		救急医薬品の送付	全て	男女	18～74	加入者全員	1	ス	新入社員等新規加入者に救急医薬品をひと箱分無償支給。	ア	健保が医薬品を調達し、事業所から対象者へ配付してもらう。	1,520	5月、12月の2回、その間の新規加入者に医薬品を支給。	対象者に漏れなく救急医薬品を配付する。	当健保の健康リスク者分布を見ると、他健保平均と比較して、正常群の割合が多く、一方、生活習慣病及び重症化患者の割合が少ない。他健保平均と比較して、全体的に健康側に分布している。この傾向は、被保険者についても同様である。脂質リスク者分布を見ると、正常群の割合が40%台と、血圧・血糖と比べて非常に低く、不健康な生活群が多い。今後、さらに正常群の割合を増加させていきたい。
送付率(【実績値】100% 【目標値】令和元年度：100%)新たに健康保険の資格取得者になった者に漏れなく救急医薬品を無償で提供する。												目的は健康意識の向上と健保の認知であるが、本事業による単独評価は難しい。(アウトカムは設定されていません)				

予算科目	注1)事業分類	新規既存	事業名	対象者			注2)実施主体	注3)プロセス分類	実施方法	注4)ストラクチャー分類	実施体制	予算額(千円)	実施計画	事業目標	健康課題との関連	
				対象事業所	性別	年齢										対象者
アウトプット指標												アウトカム指標				
4,5,6	既存	電話健康相談	全て	男女	0～74	加入者全員	1	エ,キ,ケ	心身に関わる相談窓口を設置し、加入者は誰でも、電話を利用して専門の相談員に心身に係る相談をすることができる。	イ	電話相談業務は外部に委託して行い、実施状況については健保が委託先から定期的に報告を受ける。	1,500	電話相談業務は外部に委託し、常時利用可能な環境とする。広く利用してもらうため、電話相談に関する広報を行う。①健保HPに常時掲載②機関誌「健保ニュース」の一覧表で毎回揭示③新規加入者に保険証と一緒にパンフレット、相談電話番号カードを送付	電話健康相談を有効に活用してもらうため、健保HP・健保ニュース等で定期的に広報する。①健保HPへは常時掲載②機関誌「健保ニュース」の一覧表で毎回揭示③新規加入者に保険証と一緒に相談電話番号カードを送付	当健保の健康リスク者分布を見ると、他健保平均と比較して、正常群の割合が多く、一方、生活習慣病及び重症化患者の割合が少ない。他健保平均と比較して、全体的に健康側に分布している。この傾向は、被保険者についても同様である。脂質リスク者分布を見ると、正常群の割合が40%台と、血圧・血糖と比べて非常に低く、不健康な生活群が多い。今後、さらに正常群の割合を増加させていきたい。	
健保HP・健保だより広報(【実績値】4件 【目標値】令和元年度：4件)電話健康相談を有効に活用してもらうため、健保HP・健保だより等で定期的に広報する。①健保HPへは常時掲載②機関誌「けんぽだより」の一覧表で毎回揭示③新規加入者に保険証と一緒に相談電話番号カードを送付												最終的な目的は疾病の防止にであるが、電話相談の直接的な目的は健康上の問題に対して適切な助言を受けてもらうことにあり、その効果について他の事業との区分けが難しい。(アウトカムは設定されていません)				
3,4,5	新規	禁煙推進	全て	男女	40～74	基準該当者	1	エ,オ,キ,ク,サ	健保にて特定保健指導対象者を抽出し、そのうち喫煙習慣のある対象者に対して、特定保健指導初回面談時に禁煙に関するパンフレットを渡し、禁煙を指導する。	ケ	健保専属の保健師を中心に、特定保健指導委託会社と連携して特定保健指導の場で相談員から禁煙の指導を行う。		禁煙推進のため、特定保健指導対象者のうち、喫煙習慣のある者に対して、特定保健指導初回面談時に禁煙に関するパンフレットを渡し、禁煙を指導することで喫煙習慣者を減少させる。	特定保健指導対象者のうち、喫煙習慣のある者に対し、喫煙習慣をやめさせる。目標：喫煙習慣者10%減少させ30%とする。	当健保の健康リスク者分布を見ると、他健保平均と比較して、正常群の割合が多く、一方、生活習慣病及び重症化患者の割合が少ない。他健保平均と比較して、全体的に健康側に分布している。この傾向は、被保険者についても同様である。脂質リスク者分布を見ると、正常群の割合が40%台と、血圧・血糖と比べて非常に低く、不健康な生活群が多い。今後、さらに正常群の割合を増加させていきたい。	
禁煙指導実施率(【実績値】 - 【目標値】令和元年度：80%)特定保健指導対象者のうち、喫煙習慣のある者に対し、禁煙パンフレットを渡し禁煙指導実施。禁煙指導実施率＝禁煙指導実施者／徳地保健指導対象者で喫煙習慣のある者												喫煙習慣者減少率(【実績値】 - 【目標値】令和元年度：30%)特定保健指導対象者のうち、喫煙習慣のある者に対し、喫煙習慣をやめさせる。目標：特定保健指導対象者のうち、喫煙習慣者を30%減少させる。喫煙習慣者減少率＝〔(当該年度特定保健指導対象者のうち喫煙習慣者の人数)－(昨年度特定保健指導対象者のうち喫煙習慣者の人数)〕／(昨年度特定保健指導対象者のうち喫煙習慣者の人数)				
体育奨励	2,5	既存	ウォーキングイベント	全て	男女	18～65	被保険者	3	ア,エ,キ,ケ,シ	事業所所属の産業医、保健師との協議に基づき、健保にてウォーキング・イベントを企画し、全事業所で開催。参加率を向上させるために、インセンティブポイントを付与。	ア,イ,ウ	健保にて企画立案。事業所の窓口経由で、参加者の募集を強力に行う。実施状況のモニタリング、健診結果に基づく効果検証は健保にて実施。	8,000	年2回、春秋に、それぞれ3か月間のウォーキング・イベントを開催する。今年度は個人、及びチームでの参加が可能で、チームについては、全員の自由メンバー、または同一部署メンバーなどとして興味を引き立てる工夫を盛り込む。インセンティブ付与も歩数の多い者だけでなく、歩数に関係なく付与するものも用意する。	ウォーキング・イベントへの参加率30%以上とし、成果としては、特定保健指導の対象者を毎年2%ずつ減少させること、及び運動習慣者の割合を毎年3%ずつ増加させることを目指す。	当健保の健康リスク者分布を見ると、他健保平均と比較して、正常群の割合が多く、一方、生活習慣病及び重症化患者の割合が少ない。他健保平均と比較して、全体的に健康側に分布している。この傾向は、被保険者についても同様である。脂質リスク者分布を見ると、正常群の割合が40%台と、血圧・血糖と比べて非常に低く、不健康な生活群が多い。今後、さらに正常群の割合を増加させていきたい。
	参加率(【実績値】12.9% 【目標値】令和元年度：30%)できるだけ多くの人に参加してもらい、生活習慣改善の行動変容の機会にしてもらいたい。まず第一に参加者の確保が重要。目標としては、年間参加率30%以上を目指す。												特定保健指導対象者の割合(【実績値】20.4% 【目標値】令和元年度：18%)ウォーキングの効果により特定保健指導対象者の割合を前年度より2%減少させ、18%を目指す。(2023年に10%まで減少させる)			
	-												運動習慣者の割合(【実績値】36.0% 【目標値】令和元年度：38.0%)ウォーキング・イベント開催の効果により、運動習慣者の割合を増加させる。質問票、アンケート等による調査結果において、毎年3%ずつ運動習慣者の割合を増加させ、5年後に運動習慣者の割合を50%とすることを旨とする。			
2,5,8	既存	体育奨励	全て	男女	18～74	被保険者	2	ア,エ,ケ	心のリフレッシュと運動習慣のきっかけづくりとして、事業所が運動会、体力測定などを開催することに対して補助金を支給する。	ア,イ,ウ,コ	事業所が企画し、健保が補助金を提供する。	3,000	体育奨励補助の広報を、機関誌「健保ニュース」の一覧表で毎回揭示。参加率モニタリングは年2回実施。	事業所でのスポーツイベントへの被保険者参加率5%以上	当健保の健康リスク者分布を見ると、他健保平均と比較して、正常群の割合が多く、一方、生活習慣病及び重症化患者の割合が少ない。他健保平均と比較して、全体的に健康側に分布している。この傾向は、被保険者についても同様である。脂質リスク者分布を見ると、正常群の割合が40%台と、血圧・血糖と比べて非常に低く、不健康な生活群が多い。今後、さらに正常群の割合を増加させていきたい。	
参加者の割合(【実績値】10.5% 【目標値】令和元年度：5%)参加率を毎年5.0%以上維持。												年に1回程度のイベント参加で運動習慣等の定着にはなりにくい。むしろ、他の事業で評価する。(アウトカムは設定されていません)				
直営保養所	2,5,8	既存	保養所利用補助	全て	男女	6～74	加入者全員	1	ア,エ,ケ	被保険者が心身のリフレッシュのために旅行したとき、その宿泊費に対して家族を含めた人数分一定額の補助金を支給する。	ス	被保険者に宿泊費補助の申請をしてもらい、健保より補助金を支給。	4,200	宿泊費補助の広報を、機関誌「健保ニュース」の一覧表で毎回揭示。利用率モニタリングは年2回実施。	利用者の割合年10%以上	当健保の健康リスク者分布を見ると、他健保平均と比較して、正常群の割合が多く、一方、生活習慣病及び重症化患者の割合が少ない。他健保平均と比較して、全体的に健康側に分布している。この傾向は、被保険者についても同様である。脂質リスク者分布を見ると、正常群の割合が40%台と、血圧・血糖と比べて非常に低く、不健康な生活群が多い。今後、さらに正常群の割合を増加させていきたい。
	利用者の割合(【実績値】12.4% 【目標値】令和元年度：10%)全加入者に対する利用者の割合を毎年一定数確保し、心身のリフレッシュを図ってもらう。毎年10.0%以上維持。												目的は、加入者の心身のリフレッシュであるが、本事業による単独評価は難しい。(アウトカムは設定されていません)			

注1) 1. 職場環境の整備 2. 加入者への意識づけ 3. 健康診査 4. 保健指導・受診勧奨 5. 健康教育 6. 健康相談 7. 後発医薬品の使用促進 8. その他の事業

注2) 1. 健保組合 2. 事業主が主体で保健事業の一部としても活用 3. 健保組合と事業主との共同事業

注3) ア. 加入者等へのインセンティブを付与 イ. 受診状況の確認(要医療者・要精密検査者の医療機関受診状況) ウ. 受診状況の確認(がん検診・歯科健診の受診状況) エ. ICTの活用(情報作成又は情報提供でのICT活用など) オ. 専門職による対面での健診結果の説明 カ. 他の保険者と共同で集計データを持ち寄って分析を実施 キ. 定量的な効果検証の実施 ク. 対象者の抽出(優先順位づけ、事業所の選定など) ケ. 参加の促進(選択制、事業主の協力、参加状況のモニタリング、環境整備) コ. 健診当日の面談実施・健診受診の動線活用 サ. 保険者以外が実施したがん検診のデータを活用 シ. 事業主と健康課題を共有 ス. その他

注4) ア. 事業主との連携体制の構築 イ. 産業医または産業保健師との連携体制の構築 ウ. 専門職との連携体制の構築(産業医・産業保健師を除く) エ. 他の保険者との共同事業 オ. 他の保険者との健診データの連携体制の構築 カ. 自治体との連携体制の構築 キ. 医療機関・健診機関との連携体制の構築 ク. 保険者協議会との連携体制の構築 ケ. その他の団体との連携体制の構築 コ. 就業時間内も実施可(事業主と合意) サ. 運営マニュアルの整備(業務フローの整理) シ. 人材確保・教育(ケースカンファレンス/ライブラリーの設置) ス. その他

## STEP 4-1 事業報告

### 事業の一覧

#### 職場環境の整備

- 1 健康管理事業推進合同委員会
- 2 保健事業推進のための各事業所との個別会議
- 3 健康白書（事業所レポート）

#### 加入者への意識づけ

- 1 機関誌発行
- 2 健康保険パンフレットの配布
- 3 健康情報Webでの情報発信

#### 個別の事業

- 1 特定健診（被保険者）
- 2 特定健診（被扶養者）
- 3 特定保健指導
- 4 生活習慣病オプション健診（35歳以上の被保険者）
- 5 受診勧奨通知（高リスク者の重症化防止）
- 6 がん検診（被保険者）
- 7 人間ドック
- 8 PET/CT（被保険者）
- 9 ウォーキングイベント
- 10 ジェネリック利用促進の通知
- 11 医療費通知
- 12 インフルエンザ予防接種
- 13 救急医薬品の送付
- 14 体育奨励
- 15 保養所利用補助
- 16 電話健康相談
- 17 禁煙推進



## 【保健事業の基盤】 職場環境の整備

1	事業名	健康管理事業推進合同委員会						
健康課題との関連	<p>加入者全体の年齢分布が徐々に高齢側にシフトしており、一人当たり医療費が年々増加する傾向にある。疾病別に見ると、生活習慣に起因する疾病が全体の1/4を占める。これにがんも含めると疾病全体の1/3を占める。また、35.6%を占めるその他疾患においても、生活習慣に関係するものが多い。</p> <p>当健保の健康リスク者分布を見ると、他健保平均と比較して、正常群の割合が多く、一方、生活習慣病及び重症化患者の割合が少ない。他健保平均と比較して、全体的に健康側に分布している。この傾向は、被保険者についても同様である。脂質リスク者分布を見ると、正常群の割合が40%台と、血圧・血糖と比べて非常に低く、不健康な生活群が多い。今後、さらに正常群の割合を増加させていきたい。</p> <p>2018年度の当健保の特定健診受診率を見ると、加入者全体では、昨年度より0.3%増加し、単一健保平均より4.9%大きい。また、被保険者の受診率は健保平均より11.2%高いが、一方、被扶養者の受診率は単一健保平均より6.9%低い。今後、被扶養者の健診受診率を如何に上げるかが課題である。</p> <p>当健保の特定保健指導対象者割合を見ると、加入者全体ではここ数年は減少傾向にあり、2018年度は健保平均を1.2%下回った。また、被保険者の対象者割合は減少傾向にあるが、被扶養者の対象者割合も前年度より0.9%減少した。今後も引き続き、特定保健指導対象者を如何に減少させるかが課題である。</p> <p>当健保の特定保健指導実施率は、年々増加し、2018年度で81.8%となった。この結果は、全事業所と連携して実施率向上を推進した成果が表れたといえる。被扶養者については、3名が終了に至った。今後は、被扶養者健診直後に初回面談を受けられる等の環境を検討していく。</p> <p>成果として、特定保健指導対象者のうち約70%の体重が減少し、約60%の腹囲が減少した。今後はさらに特定保健指導で成果を上げ、特定保健指導対象者を減少させていく必要がある。</p>							
	分類							
	注1)事業分類	計画 1-ア,1-イ,1-ウ,1-エ 実績 1-ア,1-イ,1-ウ,1-エ	実施主体	計画 3. 健保組合と事業主との共同事業 実績 3. 健保組合と事業主との共同事業	予算科目	保健指導宣伝	新規・既存区分	既存
	事業の内容							
対象者	計画 対象事業所 全て 性別 男女 年齢 0～74 対象者分類 加入者全員 実績 対象事業所 全て 性別 男女 年齢 0～74 対象者分類 加入者全員							
注2)プロセス分類	計画 シ 実績 シ	実施方法	計画 全事業所の健康推進委員が定期的集まり、健康推進について議論する。 実績 全事業所の健康推進委員が定期的集まり、健康推進について議論した。	予算額	1,000千円			
注3)ストラクチャー分類	計画 ア,イ,ウ 実績 ア,イ,ウ	実施体制	計画 全体及び各事業所の健康課題について共有し、連携して解決策の展開を図り、コラボヘルスを効果的に推進する環境基盤を構築する。 実績 計画通り実施した。各事業所の医療費、健康状況、及び保健事業実施状況に基づき、前年度の問題点、当年度の計画を共有した。	決算額	0千円			
実施計画 (令和元年度)	2019年7月に会議を開催し、全体及び各事業所の健康課題を共有し、各事業所の保健事業推進計画、評価について意見交換を行い、全展開を図る。							

振り返り	<b>実施状況・時期</b>	2019年7月26日に全事業所の健康推進委員が集まり、健康管理事業推進合同委員会を開催した。
	<b>成功・推進要因</b>	開催に先立ち、健保で2018年度の各事業所ごとの評価をまとめ、全事業所に配信して、全事業所に対して2018年度評価、2019年度計画を事前に提出させた。
	<b>課題及び阻害要因</b>	特になし

評価 5. 100%

### 事業目標

会議を年1回以上開催し、すべての事業所が健康推進に関する計画に基づいて効果的に推進できること。

**アウトプット指標** 会議開催（【現行値】1回【計画値/実績値】令和元年度：1回/1回 【達成度】100%）本会議を年1回以上開催。[-]

**アウトカム指標**  
事業所健康推進計画の策定と推進（【現行値】100%【計画値/実績値】令和元年度：100%/100% 【達成度】100%）すべての事業所が健康推進に関する年間計画を策定し、健康推進事業を推進すること。特に重要な保健事業である特定健診、特定保健指導、ウォーキングイベントが各事業所で展開しやすい環境基盤を構築する。[-]

## 2 事業名 保健事業推進のための各事業所との個別会議

加入者全体の年齢分布が徐々に高齢側にシフトしており、一人当たり医療費が年々増加する傾向にある。疾病別に見ると、生活習慣に起因する疾病が全体の1/4を占める。これにがんも含めると疾病全体の1/3を占める。また、35.6%を占めるその他疾患においても、生活習慣に関係するものが多い。

当健保の健康リスク者分布を見ると、他健保平均と比較して、正常群の割合が多く、一方、生活習慣病及び重症化患者の割合が少ない。他健保平均と比較して、全体的に健康側に分布している。この傾向は、被保険者についても同様である。脂質リスク者分布を見ると、正常群の割合が40%台と、血糖・血糖と比べて非常に低く、不健康な生活群が多い。今後、さらに正常群の割合を増加させていきたい。

2018年度の当健保の特定健診受診率を見ると、加入者全体では、昨年度より0.3%増加し、単一健保平均より4.9%大きい。また、被保険者の受診率は健保平均より11.2%高いが、一方、被扶養者の受診率は単一健保平均より6.9%低い。今後、被扶養者の健診受診率を如何に上げるかが課題である。

当健保の特定保健指導対象者割合を見ると、加入者全体ではここ数年は減少傾向にあり、2018年度は健保平均を1.2%下回った。また、被保険者の対象者割合は減少傾向にあるが、被扶養者の対象者割合も前年度より0.9%減少した。今後も引き続き、特定保健指導対象者を如何に減少させるかが課題である。

当健保の特定保健指導実施率は、年々増加し、2018年度で81.8%となった。この結果は、全事業所と連携して実施率向上を推進した成果が表れたといえる。被扶養者については、3名が終了に至った。今後は、被扶養者健診直後に初回面談を受けられる等の環境を検討していく。

成果として、特定保健指導対象者のうち約70%の体重が減少し、約60%の腹囲が減少した。今後はさらに特定保健指導で成果を上げ、特定保健指導対象者を減少させていく必要がある。

### 分類

注1)事業分類	計画	1-ア,1-イ, 1-ウ,1-エ	実施主体	計画	3. 健保組合と事業主との共同事業	予算科目	保健指導宣伝	新規・既存区分	既存
	実績	1-ア, 1-イ, 1-ウ, 1-エ		実績	3. 健保組合と事業主との共同事業				

### 事業の内容

対象者	計画	<b>対象事業所</b> 一部の事業所	<b>性別</b> 男女	<b>年齢</b> 0～74	<b>対象者分類</b> 加入者全員
-----	----	---------------------	--------------	----------------	--------------------

	実績	対象事業所 一部の事業所 性別 男女 年齢 0～74 対象者分類 加入者全員				
注2)プロセス分類	計画	実施方法	計画	健保と、規模の大きい主たる事業所とで個別会議を開催し、健康推進について議論する。	予算額	-千円
	実績		実績	計画通り実施した。主たる事業所と個別会議を行い、健康推進について議論した。		
注3)ストラクチャー分類	計画	実施体制	計画	各事業所の健康課題について共有し、連携して解決策の展開を図り、コラボヘルス事業を効果的に推進するための環境基盤を構築する。	決算額	0千円
	実績		実績	計画通り実施した。各事業所の健康課題について共有し、連携して解決策の展開を図り、コラボヘルス事業を効果的に推進するための環境基盤を構築した。		
実施計画 (令和元年度)	2019年7月に会議を開催し、全体及び各事業所の健康課題を共有し、各事業所の保健事業推進計画、評価について意見交換を行い、各事業所での展開を図る。					
振り返り	実施状況・時期		2019年5月より医療スタッフがいる3事業所と会議を開催。その後、年間を通じて14事業所とは電話にて実施。			
	成功・推進要因		当健保所属の保健師により積極的なアプローチが出来ている。事業所の医療スタッフと連携することは、その後の推進に非常に有効。			
	課題及び阻害要因		特になし			
評価	5. 100%					

### 事業目標

主たる事業所との個別会議を年1回以上開催し、各事業所が健康推進に関する計画に基づいて効果的に推進できること。

#### アウトプット指標

会議開催（【現行値】12事業所【計画値/実績値】令和元年度：4事業所/17事業所 【達成度】100%）主たる4事業所との個別会議を年1回以上開催する。健康課題により、他の事業所との個別会議も随時開催する。[-]

#### アウトカム指標

事業所健康推進計画の策定と推進（【現行値】100%【計画値/実績値】令和元年度：100%/100% 【達成度】100%）すべての事業所が健康推進に関する年間計画を策定し、健康推進事業を推進すること。特に重要な保健事業である特定健診、特定保健指導、ウォーキングイベントが各事業所で展開しやすい環境基盤を構築する。[-]

### 3 事業名 健康白書（事業所レポート）

健康課題との関連	<p>加入者全体の年齢分布が徐々に高齢側にシフトしており、一人当たり医療費が年々増加する傾向にある。疾病別に見ると、生活習慣に起因する疾病が全体の1/4を占める。これにがんも含めると疾病全体の1/3を占める。また、35.6%を占めるその他疾患においても、生活習慣に関係するものが多い。</p>						
	<p>当健保の健康リスク者分布を見ると、他健保平均と比較して、正常群の割合が多く、一方、生活習慣病及び重症化患者の割合が少ない。他健保平均と比較して、全体的に健康側に分布している。この傾向は、被保険者についても同様である。脂質リスク者分布を見ると、正常群の割合が40%台と、血圧・血糖と比べて非常に低く、不健康な生活群が多い。今後、さらに正常群の割合を増加させていきたい。</p>						
	<p>2018年度の当健保の特定健診受診率を見ると、加入者全体では、昨年度より0.3%増加し、単一健保平均より4.9%大きい。また、被保険者の受診率は健保平均より11.2%高いが、一方、被扶養者の受診率は単一健保平均より6.9%低い。今後、被扶養者の健診受診率を如何に上げるかが課題である。</p>						
	<p>当健保の特定保健指導対象者割合を見ると、加入者全体ではここ数年は減少傾向にあり、2018年度は健保平均を1.2%下回った。また、被保険者の対象者割合は減少傾向にあるが、被扶養者の対象者割合も前年度より0.9%減少した。今後も引き続き、特定保健指導対象者を如何に減少させるかが課題である。</p> <p>当健保の特定保健指導実施率は、年々増加し、2018年度で81.8%となった。この結果は、全事業所と連携して実施率向上を推進した成果が表れたといえる。被扶養者については、3名が終了に至った。今後は、被扶養者健診直後に初回面談を受けられる等の環境を検討していく。</p> <p>成果として、特定保健指導対象者のうち約70%の体重が減少し、約60%の腹囲が減少した。今後はさらに特定保健指導で成果を上げ、特定保健指導対象者を減少させていく必要がある。</p>						

分類									
注1)事業分類	計画	1-ア,1-イ,1-ウ,1-エ,2	実施主体	計画	1. 健保組合	予算科目	保健指導宣伝	新規・既存区分	新規
	実績	1-ア, 1-イ, 1-ウ, 1-エ, 2		実績	1. 健保組合				
事業の内容									
対象者	計画	<b>対象事業所</b> 全て <b>性別</b> 男女 <b>年齢</b> 0～74 <b>対象者分類</b> 加入者全員							
	実績	<b>対象事業所</b> 全て <b>性別</b> 男女 <b>年齢</b> 0～74 <b>対象者分類</b> 加入者全員							
注2)プロセス分類	計画	イ,ウ,エ,オ,キ,ク,ケ,サ,シ	実施方法	計画	健診結果、レセプトを分析した結果を事業所ごとにまとめ、レポートにして各事業所健康推進スタッフに提供し、保健事業推進に活用してもらう。	予算額	400千円		
	実績	イ,ウ,エ,オ,キ,ク,ケ,サ,シ		実績	計画通り実施した。				
注3)ストラクチャー分類	計画	ア,イ,ウ	実施体制	計画	健保所属保健師を中心に、委託会社の協力を得てレポートを作成。	決算額	500千円		
	実績	ア,イ,ウ		実績	計画通り実施した。				
実施計画(令和元年度)	2019年7月開催の健康管理事業推進合同委員会までに事業所レポートを作成し、全事業所に配付し、健康管理事業推進合同委員会及び個別会議等を通じて、健康状態について共通認識を持ち、両者が協力して改善するためのツールとして活用する。								

振り返り	<p><b>実施状況・時期</b>          全事業所向け、及び全体のレポートを作成し、2019年度7月の推進委員会で配布した。また、アルバック健康保険組合HPに掲載することで、いつでも共有できるようにした。</p> <p><b>成功・推進要因</b> 当健保所属保健師と常務2名でデータ分析を実施。事業所の医療スタッフと連携することは、その後の推進にも非常に有効。</p> <p><b>課題及び阻害要因</b> 健診データが5月末でない十分に集まらず、分析する時期が遅くなる。</p>
評価	5. 100%
<b>事業目標</b>	
事業所レポートを全事業所向けと全体まとめを作成し、各事業所に配付する。また、それらレポートを各事業所の健康推進に活用してもらう。実施率：100%	
<b>アウトプット指標</b>	
事業所レポートの作成・配付（【現行値】100%【計画値/実績値】令和元年度：100%/100% 【達成度】100%）事業所レポートを全事業所向けと全体まとめを作成し、活用してもらう。事業所数：19事業所。[-]	
<b>アウトカム指標</b>	
事業所レポートの活用は、その他の保健事業推進の結果として評価されるので、ここではアウトカムを設定しない。 (アウトカムは設定されていません)	

## 【保健事業の基盤】 加入者への意識づけ

1 事業名		機関誌発行							
健康課題との関連	<p>加入者全体の年齢分布が徐々に高齢側にシフトしており、一人当たり医療費が年々増加する傾向にある。疾病別に見ると、生活習慣に起因する疾病が全体の1/4を占める。これにがんも含めると疾病全体の1/3を占める。また、35.6%を占めるその他疾患においても、生活習慣に関係するものが多い。</p>								
	<p>当健保の健康リスク者分布を見ると、他健保平均と比較して、正常群の割合が多く、一方、生活習慣病及び重症化患者の割合が少ない。他健保平均と比較して、全体的に健康側に分布している。この傾向は、被保険者についても同様である。脂質リスク者分布を見ると、正常群の割合が40%台と、血圧・血糖と比べて非常に低く、不健康な生活群が多い。今後、さらに正常群の割合を増加させていきたい。</p>								
	<p>2018年度の当健保の特定健診受診率を見ると、加入者全体では、昨年度より0.3%増加し、単一健保平均より4.9%大きい。また、被保険者の受診率は健保平均より11.2%高いが、一方、被扶養者の受診率は単一健保平均より6.9%低い。今後、被扶養者の健診受診率を如何に上げるかが課題である。</p>								
	<p>当健保の特定保健指導対象者割合を見ると、加入者全体ではここ数年は減少傾向にあり、2018年度は健保平均を1.2%下回った。また、被保険者の対象者割合は減少傾向にあるが、被扶養者の対象者割合も前年度より0.9%減少した。今後も引き続き、特定保健指導対象者を如何に減少させるかが課題である。</p> <p>当健保の特定保健指導実施率は、年々増加し、2018年度で81.8%となった。この結果は、全事業所と連携して実施率向上を推進した成果が表れたといえる。被扶養者については、3名が終了に至った。今後は、被扶養者健診直後に初回面談を受けられる等の環境を検討していく。</p> <p>成果として、特定保健指導対象者のうち約70%の体重が減少し、約60%の腹囲が減少した。今後はさらに特定保健指導で成果を上げ、特定保健指導対象者を減少させていく必要がある。</p>								
分類									
注1)事業分類	計画	2,5-ア,5-イ,5-ウ,5-エ,5-オ,5-キ	実施主体	計画	1. 健保組合	予算科目	保健指導宣伝	新規・既存区分	既存
	実績	2,5-ア,5-イ,5-ウ,5-エ,5-オ,5-キ		実績	1. 健保組合				
事業の内容									
対象者	計画	<b>対象事業所</b> 全て <b>性別</b> 男女 <b>年齢</b> 18～74 <b>対象者分類</b> 加入者全員							
	実績	<b>対象事業所</b> 全て <b>性別</b> 男女 <b>年齢</b> 18～74 <b>対象者分類</b> 加入者全員							
注2)プロセス分類	計画	実施方法	計画	加入者の健康づくりに役立つ情報を記事にして、定期的に冊子として配付する。配付方法は、事業所経由で直接本人に手渡す。健保と事業所との日常的に推進するコラボヘルスを中心に得られた重要な情報、方針等を加入者に冊子の形式で提供し、加入者の健康意識向上のきっかけとする。				予算額	2,640千円
	実績		実績	計画通り実施した。当年度は、春、秋、冬の3回発行した。特に、記事としては、被保険者の興味をもってもらえる内容に工夫した。					
注3)ストラクチャー分類	計画	実施体制	計画	健保専属の保健師を中心に、各事業所の産業医、保健師、保健事業推進担当者の意見も取り入れながらコンテンツを作成する。				決算額	2,506千円

	実績	実績	計画通り実施した。当健保所属の保健師を中心に、記事作成については事業所担当者の協力を得ながら実施した。
実施計画 (令和元年度)	機関誌「健保ニュース」を年3回、春、秋、冬に発行する。		
振り返り	<b>実施状況・時期</b> 春、秋、冬に各1回、年合計3回の発行した。 <b>成功・推進要因</b> 当健保所属の保健師を中心に、記事作成について事業所担当者の協力を得ながら実施し、当健保主催のウォーキングラリー参加者インタビューや、持ち回りでの事業所紹介、できるだけ加入者に関連した記事を載せた。 <b>課題及び阻害要因</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自宅に持ち帰らない社員があり、被扶養者の元へ渡らない。</li> <li>・有用性を評価する指標が設定しづらい。</li> </ul>		
評価	5. 100%		
<b>事業目標</b>			
毎年、春、秋、冬に1回、年合計3回の発行を確実に行う。			
<b>アウトプット指標</b> 健保日より発行件数（【現行値】3回【計画値/実績値】令和元年度：3回/3回 【達成度】100%）毎年、春、秋、冬に1回、年合計3回発行。[-]			
<b>アウトカム指標</b> 最終的な目的はヘルスリテラシーの向上であるが、その効果について他の事業との区分けが難しい。 (アウトカムは設定されていません)			

2	事業名	<b>健康保険パンフレットの配布</b>
健康課題との関連	<p>加入者全体の年齢分布が徐々に高齢側にシフトしており、一人当たり医療費が年々増加する傾向にある。疾病別に見ると、生活習慣に起因する疾病が全体の1/4を占める。これにがんも含めると疾病全体の1/3を占める。また、35.6%を占めるその他疾患においても、生活習慣に関係するものが多い。</p> <p>当健保の健康リスク者分布を見ると、他健保平均と比較して、正常群の割合が多く、一方、生活習慣病及び重症化患者の割合が少ない。他健保平均と比較して、全体的に健康側に分布している。この傾向は、被保険者についても同様である。脂質リスク者分布を見ると、正常群の割合が40%台と、血糖と比べて非常に低く、不健康な生活群が多い。今後、さらに正常群の割合を増加させていきたい。</p> <p>2018年度の当健保の特定健診受診率を見ると、加入者全体では、昨年度より0.3%増加し、単一健保平均より4.9%大きい。また、被保険者の受診率は健保平均より11.2%高いが、一方、被扶養者の受診率は単一健保平均より6.9%低い。今後、被扶養者の健診受診率を如何に上げるかが課題である。</p> <p>当健保の特定保健指導対象者割合を見ると、加入者全体ではここ数年は減少傾向にあり、2018年度は健保平均を1.2%下回った。また、被保険者の対象者割合は減少傾向にあるが、被扶養者の対象者割合も前年度より0.9%減少した。今後も引き続き、特定保健指導対象者を如何に減少させるかが課題である。</p> <p>当健保の特定保健指導実施率は、年々増加し、2018年度で81.8%となった。この結果は、全事業所と連携して実施率向上を推進した成果が表れたといえる。被扶養者については、3名が終了に至った。今後は、被扶養者健診直後に初回面談を受けられる等の環境を検討していく。</p> <p>成果として、特定保健指導対象者のうち約70%の体重が減少し、約60%の腹囲が減少した。今後はさらに特定保健指導で成果を上げ、特定保健指導対象者を減少させていく必要がある。</p>	
分類		

注1)事業分類	計画	1-工,2,5-キ	実施主体	計画	1. 健保組合	予算科目	保健指導宣伝	新規・既存区分	既存
	実績	1-工, 2, 5-キ		実績	1. 健保組合				

### 事業の内容

対象者	計画	<b>対象事業所</b> 全て <b>性別</b> 男女 <b>年齢</b> 18～74 <b>対象者分類</b> 加入者全員							
	実績	<b>対象事業所</b> 全て <b>性別</b> 男女 <b>年齢</b> 18～74 <b>対象者分類</b> 加入者全員							

注2)プロセス分類	計画	ス	実施方法	計画	新たに健保に加入した被保険者に対し、健康保険制度、給付内容等健康保険のしくみや、健康づくりの重要性を記事にした冊子を配付し、新規加入者の健康意識向上のきっかけとする。	予算額	20千円
	実績	ス		実績	計画通り実施した。新たに健保に加入した被保険者全員に配布した。内容は計画に記載通り。		
注3)ストラクチャー分類	計画	ス	実施体制	計画	健保専属の保健師を中心に、各事業所の産業医、保健師、保健事業推進担当者の意見も取り入れながらコンテンツを作成する。	決算額	6千円
	実績	ス		実績	計画通り実施した。健保所属の保健師を中心に、各事業所の産業医、保健師、保健事業推進担当医の意見も取り入れながらコンテンツを作成した。		

実施計画 (令和元年度) 4月の新入社員入社に合わせて作成し、配付する。中途採用者についても、健保加入時に配付する。

**実施状況・時期** 新入社員への発行を4月に行い、その他中途入社者には随時実施。

**成功・推進要因** パンフレットの内容を最近の健保状況に合わせて見直した。保険証発行と同時に、パンフレットを確実に配布した。健保HPは誰もが閲覧しているとは限らないので、パンフレットは紙媒体で確実に送付することを継続する。

**課題及び阻害要因** 特になし

評価 5. 100%

### 事業目標

新入社員等健康保険組合への新規加入者に漏れなくパンフレットを配付する。

**アウトプット指標** 配付率（【現行値】100%【計画値/実績値】令和元年度：100%/100% 【達成度】100%）保険証発行と同時に、パンフレットを確実に配付する。[-]

**アウトカム指標** 最終的な目的はヘルスリテラシーの向上であるが、その効果について他の事業との区別が難しい。(アウトカムは設定されていません)

### 3 事業名 健康情報Webでの情報発信



健康課題との関連	<p>加入者全体の年齢分布が徐々に高齢側にシフトしており、一人当たり医療費が年々増加する傾向にある。疾病別に見ると、生活習慣に起因する疾病が全体の1/4を占める。これにがんも含めると疾病全体の1/3を占める。また、35.6%を占めるその他疾患においても、生活習慣に関係するものが多い。</p>								
	<p>当健保の健康リスク者分布を見ると、他健保平均と比較して、正常群の割合が多く、一方、生活習慣病及び重症化患者の割合が少ない。他健保平均と比較して、全体的に健康側に分布している。この傾向は、被保険者についても同様である。脂質リスク者分布を見ると、正常群の割合が40%台と、血圧・血糖と比べて非常に低く、不健康な生活群が多い。今後、さらに正常群の割合を増加させていきたい。</p>								
	<p>2018年度の当健保の特定健診受診率を見ると、加入者全体では、昨年度より0.3%増加し、単一健保平均より4.9%大きい。また、被保険者の受診率は健保平均より11.2%高いが、一方、被扶養者の受診率は単一健保平均より6.9%低い。今後、被扶養者の健診受診率を如何に上げるかが課題である。</p>								
	<p>当健保の特定保健指導対象者割合を見ると、加入者全体ではここ数年は減少傾向にあり、2018年度は健保平均を1.2%下回った。また、被保険者の対象者割合は減少傾向にあるが、被扶養者の対象者割合も前年度より0.9%減少した。今後も引き続き、特定保健指導対象者を如何に減少させるかが課題である。</p> <p>当健保の特定保健指導実施率は、年々増加し、2018年度で81.8%となった。この結果は、全事業所と連携して実施率向上を推進した成果が表れたといえる。被扶養者については、3名が終了に至った。今後は、被扶養者健診直後に初回面談を受けられる等の環境を検討していく。</p> <p>成果として、特定保健指導対象者のうち約70%の体重が減少し、約60%の腹囲が減少した。今後はさらに特定保健指導で成果を上げ、特定保健指導対象者を減少させていく必要がある。</p>								
分類									
注1)事業分類	計画	1-エ,2,5-ア,5-イ,5-ウ,5-エ,5-オ,5-キ	実施主体	計画	1. 健保組合	予算科目	保健指導宣伝	新規・既存区分	既存
	実績	1-エ,2,5-ア,5-イ,5-ウ,5-エ,5-オ,5-キ		実績	1. 健保組合				
事業の内容									
対象者	計画	対象事業所 全て 性別 男女 年齢 0～74 対象者分類 被保険者							
	実績	対象事業所 全て 性別 男女 年齢 0～74 対象者分類 被保険者							
注2)プロセス分類	計画	ア,エ,キ,ケ	実施方法	計画	当健保にて開設した健康情報Web/PepUpを使って健康情報を発信し、加入者のヘルスリテラシーの向上を図る。冊子等と異なり、必要なタイミングで情報の発信が可能。		予算額	1,600千円	
	実績	ア,エ,キ,ケ		実績	計画通り実施した。当健保にて開設した健康情報Web/PepUpを使って健康情報を発信した。				
注3)ストラクチャー分類	計画	ア,イ,ウ	実施体制	計画	健保専属の保健師を中心に、各事業所の産業医、保健師、保健事業推進担当者の意見も取り入れながらコンテンツを作成する。		決算額	2,082 千円	
	実績	ア,イ,ウ		実績	計画通り実施した。健保専属の保健師を中心に、各事業所の産業医、保健師、保健事業推進担当者の意見も取り入れながらコンテンツを作成した。				
実施計画 (令和元年度)	<p>委託会社の協力を得ながら、前年度の結果をもとに、コンテンツを見直す。主たるコンテンツは、昨年度に引き続き、各自の健康診断結果、医療費通知、ジェネリック差額通知、ウォーキング・ラリーの歩数、ランキング、体重測定チャレンジ、健康クイズ、また健康に関するいろいろな記事を掲載し、Webを開くたびに自然に健康についての意識が高まることを期待する。</p>								

振り返り	<p><b>実施状況・時期</b> H28年度より健康Web/PepUp（ペップアップ）を公開している。事業所担当者と健保所属の保健師が協力し、登録率は70%台（2018年度）→85%を超えた。2019年度月平均のアクセス数が179,038回/月となり、目標の10,000回/月（全加入者数相当）を大きく超えた。</p> <p><b>成功・推進要因</b> 各自の健康診断結果、医療費通知、ジェネリック差額通知、ウォーキングラリーの歩数、ランキング、また健康に関するいろいろな記事を掲載した。</p> <p><b>課題及び阻害要因</b> アクセス数は一過性では意味がなく、継続的に一定回数を確保できることが重要。</p>
評価	5. 100%
事業目標	
ヘルスリテラシー向上を測る一つの目安として、健康Web/PepUpへのアクセス数を指標とする。健康情報にアクセスする回数が多ければ、健康への関心が大きいことが間接的に評価できる。	
<p><b>アウトプット指標</b> 健康情報Webへのアクセス数（【現行値】92,959回【計画値/実績値】令和元年度：10,000回/179,038回【達成度】100%）従来の健保HPだけでは、アクセス数が月平均1,500回程度。毎月の健康Webへのトータルアクセス回数を平均10,000回/月（加入者人数相当）を目指す。当健保運営の健康情報Web/PepUpへアクセスしてもらうことが、被保険者のヘルスリテラシーを向上につながると考え、指標としては健康Webへの毎月のアクセス数（全アクセス数）とし、目標は月平均10,000回/月（全加入者数相当）以上を維持することとする。[-]</p> <p><b>アウトカム指標</b> 最終的な目的はヘルスリテラシーの向上であるが、その効果について他の事業との区分けが難しい。 (アウトカムは設定されていません)</p>	

## 【個別の事業】

1 事業名		特定健診（被保険者）							
健康課題との関連	<p>2018年度の当健保の特定健診受診率を見ると、加入者全体では、昨年度より0.3%増加し、単一健保平均より4.9%大きい。また、被保険者の受診率は健保平均より11.2%高いが、一方、被扶養者の受診率は単一健保平均より6.9%低い。</p> <p>今後、被扶養者の健診受診率を如何に上げるかが課題である。</p> <p>当健保の特定保健指導対象者割合を見ると、加入者全体ではここ数年は減少傾向にあり、2018年度は健保平均を1.2%下回った。また、被保険者の対象者割合は減少傾向にあるが、被扶養者の対象者割合も前年度より0.9%減少した。今後も引き続き、特定保健指導対象者を如何に減少させるかが課題である。</p> <p>当健保の特定保健指導実施率は、年々増加し、2018年度で81.8%となった。この結果は、全事業所と連携して実施率向上を推進した成果が表れたといえる。被扶養者については、3名が終了に至った。今後は、被扶養者健診直後に初回面談を受けられる等の環境を検討していく。</p> <p>成果として、特定保健指導対象者のうち約70%の体重が減少し、約60%の腹囲が減少した。今後はさらに特定保健指導で成果を上げ、特定保健指導対象者を減少させていく必要がある。</p>								
分類									
注1)事業分類	計画	3-ア,3-オ,4-オ,4-カ	実施主体	計画	2. 事業主が主体で保健事業の一部としても活用	予算科目	特定健康診査事業	新規・既存区分	既存(法定)
	実績	3-ア,3-オ,4-オ,4-カ		実績	2. 事業主が主体で保健事業の一部としても活用				
事業の内容									
対象者	計画	<b>対象事業所</b> 全て <b>性別</b> 男女 <b>年齢</b> 40～74 <b>対象者分類</b> 被保険者							
	実績	<b>対象事業所</b> 全て <b>性別</b> 男女 <b>年齢</b> 40～74 <b>対象者分類</b> 被保険者							
注2)プロセス分類	計画	イ,エ,オ,キ,ク,ケ,サ,シ	実施方法	計画	特定健診の実施率向上のため、被保険者の特定健診は、事業所実施の定期健診と合わせて実施。健診費用は、任意継続被保険者についてのみ健保負担とし、他の被保険者については事業所負担とする。	予算額	280千円		
	実績	イ,エ,オ,キ,ク,ケ,サ,シ		実績	計画通り実施した。				
注3)ストラクチャー分類	計画	ア,イ,ウ,キ,コ	実施体制	計画	健保専属の保健師を中心に、各事業所の産業医、保健師、保健事業推進担当者と連携しながら健診実施率を確保する。	決算額	602千円		
	実績	ア,イ,ウ,キ,コ		実績	計画通り実施した。				
実施計画(令和元年度)	事業所による一般健康診断（安衛法）と同時開催にて実施率90%以上維持。健診費用は、昨年度と同様、任意継続被保険者についてのみ健保負担とし、他の被保険者については事業所負担とする。								

振り返り	<b>実施状況・時期</b>	2019年度実績 対象者 2,909名 受診者 2,778名 受診率 95.5%
	<b>成功・推進要因</b>	事業所の一般健康診断と同時開催。
	<b>課題及び阻害要因</b>	現在の状況維持。

評価 5. 100%

**事業目標**

健保と事業所とで健康課題を共有した上で、健保より各事業所に対して健診受診率向上のための要請を行い、健診実施率90%の維持を図る。

**アウトプット指標**

健診受診案内発信（【現行値】1件【計画値/実績値】令和元年度：1件/1件 【達成度】100%）各事業所に対して健診受診率向上のための要請を行う。文書による通知と健保HP等のWebによる掲示を行う。（「健康管理事業実施計画」）[-]

**アウトカム指標** 健診受診率（【現行値】95.5%【計画値/実績値】令和元年度：90%/95.5% 【達成度】100%）健診受診率90%以上を維持。[-]

2事業名 **特定健診（被扶養者）**

健康課題との関連

2018年度の当健保の特定健診受診率を見ると、加入者全体では、昨年度より0.3%増加し、単一健保平均より4.9%大きい。また、被保険者の受診率は健保平均より11.2%高いが、一方、被扶養者の受診率は単一健保平均より6.9%低い。  
今後、被扶養者の健診受診率を如何に上げるかが課題である。  
当健保の特定保健指導対象者割合を見ると、加入者全体ではここ数年は減少傾向にあり、2018年度は健保平均を1.2%下回った。また、被保険者の対象者割合は減少傾向にあるが、被扶養者の対象者割合も前年度より0.9%減少した。今後も引き続き、特定保健指導対象者を如何に減少させるかが課題である。  
当健保の特定保健指導実施率は、年々増加し、2018年度で81.8%となった。この結果は、全事業所と連携して実施率向上を推進した成果が表れたといえる。被扶養者については、3名が終了に至った。今後は、被扶養者健診直後に初回面談を受けられる等の環境を検討していく。  
成果として、特定保健指導対象者のうち約70%の体重が減少し、約60%の腹囲が減少した。今後はさらに特定保健指導で成果を上げ、特定保健指導対象者を減少させていく必要がある。

**分類**

注1)事業分類	計画	3-ア,3-イ,3-ウ,4-オ,4-カ	実施主体	計画	1. 健保組合	予算科目	特定健康診査事業	新規・既存区分	既存(法定)
	実績	3-ア,3-イ,3-ウ,4-オ,4-カ		実績	1. 健保組合				

**事業の内容**

対象者 計画 **対象事業所** 全て **性別** 男女 **年齢** 40～74 **対象者分類** 被扶養者

	実績	対象事業所 全て 性別 男女 年齢 40～74 対象者分類 被扶養者					
注2)プロセス分類	計画	ア,イ,エ,オ,キ,ク,ケ,シ	実施方法	計画	健診手続きをわかりやすくするため、健診項目を被保険者向け健診と同じ項目に一本化した。また、オプションでがん検診も受診可。オプションを除き、健診費用は全額健保負担。被扶養者宛てに健保より受診案内を送付し、未受診者に対しては、年度終了2か月前に受診の督促案内を送付し、かつ電話にて督促。また、受診した場合、その被保険者に対してインセンティブとして商品券3,000分を本人に直接送付して贈呈。	予算額	9,828千円
	実績	ア,イ,エ,オ,キ,ク,ケ,シ		実績	計画通り実施した。		
注3)ストラクチャー分類	計画	ア,イ,ウ,キ	実施体制	計画	健保専属の保健師を中心に、健診委託先と連携して、受診案内、受診状況のモニタリングを行う。電話による督促は、健保専属保健師が行う。	決算額	19,169千円
	実績	ア,イ,ウ,キ		実績	計画通り実施した。		
実施計画 (令和元年度)	継続実施						
振り返り	<b>実施状況・時期</b>		2019年度実績 対象者 1,327名 受診者 766名 受診率 57.7%				
	<b>成功・推進要因</b>		<ul style="list-style-type: none"> <li>健診案内送付後、2019年9月に一定期間受診のなかった方に対し受診勧奨のハガキを送付。受診勧奨ハガキは2019年度からナッジ理論を活用した内容に変更したことで、2019年度受診勧奨ハガキ1か月後の申込者は、2018年度受診勧奨ハガキ1か月後の申込者63名を70名上回る133名であった。</li> <li>2019年度は特別キャンペーンとして、12月末までに申込み、2020年3月までに受診した方とパート先の健診結果を送付してくれた方に3,000円の商品券を送付した。(2018年度までは被扶養者本人ではなく、被保険者に健康情報Web/PepUpのポイント1,000円分を付与していた)</li> <li>事業所にも公報資料配布して呼びかけた。</li> <li>2019年11月、未申込者707名に健保職員からご本人に直接お電話で受診勧奨を行った。</li> </ul>				
	<b>課題及び阻害要因</b>		2019年度受診率は昨年度と比較し、16.6%上昇したため、健保職員が未受診者700名程に直接電話を行う業務は負担ではあるが、次年度も継続する。				
評価	5. 100%						
<b>事業目標</b>							
健診受診率向上。当年度目標50%以上、以降段階的に向上を目指し、2022年には80%とする。							
<b>アウトプット指標</b>		健診受診案内（【現行値】100%【計画値/実績値】令和元年度：100%/100% 【達成度】100%）全被扶養者に対して健康診断案内を直接郵送。[-] 受診勧奨（【現行値】100%【計画値/実績値】令和元年度：100%/100% 【達成度】100%）年度末2か月前までに、未受診者に対してはがきと電話により受診勧奨を行う。[-]					
<b>アウトカム指標</b>		健診受診率（【現行値】44.4%【計画値/実績値】令和元年度：50%/57.7% 【達成度】100%）健診受診率50%以上。以降段階的に向上を目指し、2022年には80%とする。[-]					

3 事業名		特定保健指導							
健康課題との関連	<p>2018年度の当健保の特定健診受診率を見ると、加入者全体では、昨年度より0.3%増加し、単一健保平均より4.9%大きい。また、被保険者の受診率は健保平均より11.2%高いが、一方、被扶養者の受診率は単一健保平均より6.9%低い。</p> <p>今後、被扶養者の健診受診率を如何に上げるかが課題である。</p> <p>当健保の特定保健指導対象者割合を見ると、加入者全体ではここ数年は減少傾向にあり、2018年度は健保平均を1.2%下回った。また、被保険者の対象者割合は減少傾向にあるが、被扶養者の対象者割合も前年度より0.9%減少した。今後も引き続き、特定保健指導対象者を如何に減少させるかが課題である。</p> <p>当健保の特定保健指導実施率は、年々増加し、2018年度で81.8%となった。この結果は、全事業所と連携して実施率向上を推進した成果が表れたといえる。被扶養者については、3名が終了に至った。今後は、被扶養者健診直後に初回面談を受けられる等の環境を検討していく。</p> <p>成果として、特定保健指導対象者のうち約70%の体重が減少し、約60%の腹囲が減少した。今後はさらに特定保健指導で成果を上げ、特定保健指導対象者を減少させていく必要がある。</p>								
	<p>当健保の健康リスク者分布を見ると、他健保平均と比較して、正常群の割合が多く、一方、生活習慣病及び重症化患者の割合が少ない。他健保平均と比較して、全体的に健康側に分布している。この傾向は、被保険者についても同様である。脂質リスク者分布を見ると、正常群の割合が40%台と、血糖・血糖と比べて非常に低く、不健康な生活群が多い。今後、さらに正常群の割合を増加させていきたい。</p>								
分類									
注1)事業分類	計画	4-ア	実施主体	計画	1. 健保組合	予算科目	特定保健指導事業	新規・既存区分	既存(法定)
	実績	4-ア		実績	1. 健保組合				
事業の内容									
対象者	計画	<b>対象事業所</b> 全て <b>性別</b> 男女 <b>年齢</b> 40～74 <b>対象者分類</b> 基準該当者							
	実績	<b>対象事業所</b> 全て <b>性別</b> 男女 <b>年齢</b> 40～74 <b>対象者分類</b> 基準該当者							
注2)プロセス分類	計画	イ,ウ,エ,オ,キ,ク,ケ,シ	実施方法	健保にて対象者を抽出し、事業所と連携して実施案内を配信。なぜ特定保健指導が必要なのかを理解してもらうよう、事業所の健康推進担当を経由して経営層、管理職層への周知を行うと共に、対象者個人にも案内を配信。未回答者に対しては、事業所経由で徹底的に督促実施。				予算額	19,960千円
	実績	イ,ウ,エ,オ,キ,ク,ケ,シ		計画通り実施した。					
注3)ストラクチャー分類	計画	ア,イ,ウ,キ,ケ,コ,サ	実施体制	健保専属の保健師を中心に、各事業所の産業医、保健師、保健事業推進担当者と連携しながら特定保健指導実施率を確保する。				決算額	18,154千円
	実績	ア,イ,ウ,キ,ケ,コ,サ		計画通り実施した。					
実施計画(令和元年度)	平成30年4月～令和1年3月までの健診結果をもとに、随時特定保健指導対象者を抽出し、事業所と連携して実施スケジュールを策定。実施スケジュールは事業所により、早いところは平成30年7月から開始し、最も遅いところで令和1年4月開始、同年10月終了となる。積極的支援は、今年度からモデル実施、また動機づけ支援は3か月支援とする。大規模事業所はWeb予約方式で手間を半減する。								

振り返り	<b>実施状況・時期</b> 初回面談実施者割合（現時点では終了に至っていない人が多いため） 【動機づけ支援】 対象者数 207名 【積極的支援対象者】 対象者数 394名 【全体】 対象者 601名 対象者割合 20.7% 初回面談実施者 555名 初回面談実施率 92.3% 終了者数 支援中の為、未確定 終了者割合 支援中の為、未確定 被扶養者54名の対象者については、現在特定保健指導案内を送付中の為、未確定（2020年7月送付）。
	<b>成功・推進要因</b> 健保専属の保健師を1名配属し、特定保健指導の推進に注力させた。また、各事業所の経営トップ層、推進担当者を通じて対象者の働きかけを強化した。特に、各事業所の経営会議で人事部門責任者から特定保健指導の重要性を説明し、実施率の向上を働きかけたことが奏功した。 2019年12月から新型コロナウイルス感染症が流行した。感染が拡大した2020年3月以降の特定保健指導実施は対面面談から遠隔面談（ICT）に切り替えた。
	<b>課題及び阻害要因</b> 被扶養者の特定保健指導実施率が低いため、受診率向上を図ると共に、特定保健指導対象者を減少させることにも注力する。

評価	5. 100%
----	---------

### 事業目標

厚労省の目標に準じて、特定保健指導実施率55%以上とするが、80%以上維持を目指す。また、特定保健指導対象者の割合を段階的に減少させ、2023年に10%以下を目指す。

**アウトプット指標** 特定保健指導実施率（【現行値】57.7%【計画値/実績値】令和元年度：60%/81.8% 【達成度】100%）特定保健指導実施率55%以上を維持する。[-]

**アウトカム指標**

特定保健指導対象者の割合（【現行値】20.4%【計画値/実績値】令和元年度：18%/19.6% 【達成度】33.3%）特定保健指導の効果により、特定保健指導対象者の割合を前年度より減少させる。特定保健指導の効果により、特定保健指導対象者の割合を前年度より2%ずつ減少させ、2023年には10%以下にする。[-]

### 4 事業名 生活習慣病オプション健診（35歳以上の被保険者）

2018年度の当健保の特定健診受診率を見ると、加入者全体では、昨年度より0.3%増加し、単一健保平均より4.9%大きい。また、被保険者の受診率は健保平均より11.2%高いが、一方、被扶養者の受診率は単一健保平均より6.9%低い。

今後、被扶養者の健診受診率を如何に上げるかが課題である。

当健保の特定保健指導対象者割合を見ると、加入者全体ではここ数年は減少傾向にあり、2018年度は健保平均を1.2%下回った。また、被保険者の対象者割合は減少傾向にあるが、被扶養者の対象者割合も前年度より0.9%減少した。今後も引き続き、特定保健指導対象者を如何に減少させるかが課題である。

当健保の特定保健指導実施率は、年々増加し、2018年度で81.8%となった。この結果は、全事業所と連携して実施率向上を推進した成果が表れたといえる。被扶養者については、3名が終了に至った。今後は、被扶養者健診直後に初回面談を受けられる等の環境を検討していく。

成果として、特定保健指導対象者のうち約70%の体重が減少し、約60%の腹囲が減少した。今後はさらに特定保健指導で成果を上げ、特定保健指導対象者を減少させていく必要がある。

### 分類

注1)事業分類	計画	3-ア,3-イ,3-ウ,3-オ,4-オ,4-カ	実施主体	計画	3. 健保組合と事業主との共同事業	予算科目	疾病予防	新規・既存区分	既存
	実績	3-ア,3-イ,3-ウ,3-オ,4-オ,4-カ		実績	3. 健保組合と事業主との共同事業				
事業の内容									
対象者	計画	対象事業所 全て 性別 男女 年齢 35～74 対象者分類 被保険者,その他							
	実績	対象事業所 全て 性別 男女 年齢 35～74 対象者分類 被保険者,その他							
注2)プロセス分類	計画	イ,ウ,エ,オ,キ,ク,ケ,シ	実施方法	計画	35歳以上の被保険者に対し、特定健診法定健診項目の他に、生活習慣病リスクをより低減するためにオプション健診を実施。事業主が行う定期健診と合わせて実施。費用は安衛法対象項目を除き健保が全額負担する。	予算額	2,070千円		
	実績	イ,ウ,エ,オ,キ,ク,ケ,シ		実績	計画通り実施した。				
注3)ストラクチャー分類	計画	ア,イ,ウ,キ,コ	実施体制	計画	健保専属の保健師を中心に、各事業所の産業医、保健師、保健事業推進担当者と連携しながらオプション健診項目を決定する。	決算額	4,402千円		
	実績	ア,イ,ウ,キ,コ		実績	計画通り実施した。				
実施計画 (令和元年度)	35歳以上の被保険者に対し、特定健診法定健診項目の他に、生活習慣病リスクをより低減するために、HbA1c、クレアチニン、尿酸値、眼底検査（医師の指示があった場合）を、事業主が行う定期健診と併せて実施。事業所による一般健康診断（安衛法）と同時開催にて実施率90%以上維持。								
振り返り	<p><b>実施状況・時期</b> 【生活習慣病健診】(35～39歳)  対象者 629名  受診者 608名  受診率 96.7%</p> <p><b>成功・推進要因</b> 一般健康診断と受診できる。</p> <p><b>課題及び阻害要因</b> 現在の状況を維持。</p>								
評価	5. 100%								
事業目標									



健保と事業所とで健康課題を共有した上で、健保より各事業所に対して健診受診率向上のための要請を行い、健診実施率90%の維持を図る。

**アウトプット指標**

健診受診案内発信（【現行値】100%【計画値/実績値】令和元年度：100%/100% 【達成度】100%）各事業所に対して健診受診率向上のための要請を行う。文書による通知と健保HP等のWebによる掲示を行う。（「健康管理事業実施計画」）[-]

**アウトカム指標**

健診受診率（【現行値】96.4%【計画値/実績値】令和元年度：90%/96.7% 【達成度】100%）健診受診率90%以上を維持。[-]

5	事業名	<b>受診勧奨通知（高リスク者の重症化防止）</b>							
健康課題との関連	<p>当健保の健康リスク者分布を見ると、他健保平均と比較して、正常群の割合が多く、一方、生活習慣病及び重症化患者の割合が少ない。他健保平均と比較して、全体的に健康側に分布している。この傾向は、被保険者についても同様である。脂質リスク者分布を見ると、正常群の割合が40%台と、血糖と比べて非常に低く、不健康な生活群が多い。今後、さらに正常群の割合を増加させていきたい。</p> <p>加入者全体の年齢分布が徐々に高齢側にシフトしており、一人当たり医療費が年々増加する傾向にある。疾病別に見ると、生活習慣に起因する疾病が全体の1/4を占める。これにがんも含めると疾病全体の1/3を占める。また、35.6%を占めるその他疾患においても、生活習慣に関係するものが多い。</p>								
分類									
注1)事業分類	計画	3-ア,3-イ,3-ウ,4-オ,4-カ,5-イ,5-ウ,5-エ,5-オ,5-キ	実施主体	計画	1. 健保組合	予算科目	疾病予防	新規・既存区分	既存
	実績	3-ア, 3-イ, 3-ウ, 4-オ, 4-カ, 5-イ, 5-ウ, 5-エ, 5-オ, 5-キ		実績	1. 健保組合				
事業の内容									
対象者	計画	対象事業所 一部の事業所 性別 男女 年齢 18～74 対象者分類 基準該当者							
	実績	対象事業所 一部の事業所 性別 男女 年齢 18～74 対象者分類 基準該当者							
注2)プロセス分類	計画	イ,ウ,エ,オ,キ,ク,シ	実施方法	計画	健康診断結果を基に、健保にて定めた高リスク者の基準を超えた者でかつ未通院の者を抽出し、医師の診断を受けるよう、健保と事業所との連名で受診勧奨通知を送付する。受診するまで督促を繰り返す。基準（血糖：200mg/dl以上又はHbA1c8.0%以上、血圧：100又は160mmHg以上）	予算額	2,000千円		
	実績	イ,ウ,エ,オ,キ,ク,シ		実績	計画通り実施した。				
注3)ストラクチャー分類	計画	ア,イ,ウ,キ,コ	実施体制	計画	産業医、保健師がいる事業所は各事業所主体で受診勧奨するが、不在の場合は健保が受診勧奨通知を対象者に直接送付する。	決算額	19千円		

	実績 ア,イ,ウ,キ,コ		実績 計画通り実施した。		
実施計画 (令和元年度)	対象事業所の健診結果が得られ次第、順次基準に基づき受診勧奨対象者を抽出し、受診勧奨対象者に受診勧奨通知を送付する。その後受診するまで督促を繰り返す。				
振り返り	<b>実施状況・時期</b>	対象者 222名 受診者 143名 受診率 64.4%			
	<b>成功・推進要因</b>	健保と事業所の連名で送付したため、強制力が強く働いた。また、保健師より電話でも受診勧奨を行った。			
	<b>課題及び阻害要因</b>	保健師からの電話で受診しなければならないことを理解してもらえが、すぐに受診してもらえないこともあり、その場合は事業所による強制的措置が必要。			
評価	5. 100%				

<b>事業目標</b>	
受診勧奨通知による受診率50%以上、受診勧奨対象者の割合3%以下を維持する。	
<b>アウトプット指標</b>	
通知者の受診率（【現行値】65.0%【計画値/実績値】令和元年度：50%/64.4% 【達成度】100%）受診勧奨対象者に対して、受診勧奨通知後の受診率（治療率）を50%以上を維持する。 （血糖：200mg/dl以上又はHbA1c8.0%以上、血圧：100又は160mmHg以上） [-]	
<b>アウトカム指標</b>	
受診勧奨対象者の割合（【現行値】1.4%【計画値/実績値】令和元年度：3%/1.8% 【達成度】100%）生活習慣病の治療放置による重症化を防ぐ。全加入者における受診勧奨対象者の割合3%以下を維持する。受診勧奨対象者の基準（血糖：200mg/dl以上又はHbA1c8.0%以上、血圧：100又は160mmHg以上） [-]	

6事業名	<b>がん検診（被保険者）</b>									
健康課題との関連	当健保の健康リスク者分布を見ると、他健保平均と比較して、正常群の割合が多く、一方、生活習慣病及び重症化患者の割合が少ない。他健保平均と比較して、全体的に健康側に分布している。この傾向は、被保険者についても同様である。脂質リスク者分布を見ると、正常群の割合が40%台と、血圧・血糖と比べて非常に低く、不健康な生活群が多い。今後、さらに正常群の割合を増加させていきたい。									
分類										
注1)事業分類	計画	3-ア,3-イ,3-ウ,3-オ	実施主体	計画	1. 健保組合	予算科目	疾病予防	新規・既存区分	既存	
	実績	3-ア,3-イ,3-ウ,3-オ		実績	1. 健保組合					
<b>事業の内容</b>										
対象者	計画	<b>対象事業所</b> 全て <b>性別</b> 男女 <b>年齢</b> 18～74 <b>対象者分類</b> 被保険者								
	実績	<b>対象事業所</b> 全て <b>性別</b> 男女 <b>年齢</b> 18～74 <b>対象者分類</b> 被保険者								
注2)プロセス分類	計画	イ,ウ,エ,オ,キ,ク,ケ,サ,シ	実施方法	がん検診の実施率向上のため、被保険者のがん検診は、事業所実施の定期健診と合わせて実施。被扶養者については、特定健診と同時にオプションでがん検診も受診できる制度とする。				予算額	15,000千円	

	実績 イ,ウ,エ,オ,キ, ク,ケ,サ,シ		実績 計画通り実施した。		
注3)ストラクチャー分類	計画 ア,イ,ウ,キ,コ	実施体制	計画 健保専属の保健師を中心に、各事業所の産業医、保健師、保健事業推進担当者と連携しながらがん検診実施率を確保する。	決算額	15,773 千円
	実績 ア,イ,ウ,キ,コ		実績 計画通り実施した。		

実施計画  
(令和元年度) 事業所による一般健康診断（安衛法）と同時開催にて、胃、肺、大腸各がん検診実施率70%以上維持。

**実施状況・時期**  
胃がん検診については、ABC検診の補助を2018年度より一部の事業所、2019年度より全事業所で行った。健保専属保健師が各事業所の胃がん検診の方法の有無（胃部レントゲン、ABC検診等）を確認し、各事業所毎に胃がん検診のフォローの仕方等を助言を行った。ABC検査を行ったものは、A判定者は5年に1回無料で胃部内視鏡が受けられるよう節目健診を制定した。B～E判定は医師の指示に従うとした。また、B～D判定者には健保専属保健師から受診勧奨を行った。  
大腸がんについては従来通り実施。  
胃がん検診：69.1%  
肺がん検診：80.3%  
大腸がん検診：87.4%

**成功・推進要因**  
健康管理事業推進合同委員会でアルバック健康保険組合が推奨する胃がん検診のフローチャートを各事業所担当者にお伝えした。その説明後、胃がん検診については、健保専属保健師が各事業所毎の胃がん検診の方針（胃部レントゲン、ABC検診等）を聞き取りを行い、に胃がん検診のフォローの仕方等を助言を行った。

**課題及び阻害要因** 厚生労働省の方針が変更になり、胃がん検診の受診要件が50歳以上、2年に1回となったため、実施率の把握が簡単にできなくなった。

評価 5. 100%

### 事業目標

健保と事業所とで健康課題を共有した上で、健保より各事業所に対してがん検診受診率向上のための要請を行い、胃、肺、大腸各がん検診実施率70%の維持を図る。がんの早期発見のため、被保険者のがん検診を、事業所実施の定期健診と合わせて実施し、受診率を維持する。＊検診項目と検診間隔：胃がん検診は50歳以上でABC検診の結果に基づき実施。（A群は5年に1回）肺、大腸は毎年受診。ただし、ABC検診を実施しないものについては、2年に1回胃部内視鏡またはバリウム検査受けるものとする。

**アウトプット指標**  
がん検診受診案内発信（【現行値】1件【計画値/実績値】令和元年度：1件/1件 【達成度】100%）各事業所に対してがん検診受診率向上のための要請を行う。文書による通知と健保HP等のWebによる掲示を行う。[-]

**アウトカム指標**  
がん検診受診率（【現行値】66.2%【計画値/実績値】令和元年度：70%/69.1% 【達成度】98.7%）胃、肺、大腸の各がん検診受診率70%以上を維持。ABC健診70%以上を維持。  
H30年度実績：胃がん検診77.0%、肺がん検診100%、大腸がん検診90.2%  
＊胃がんについては、2年に1回受診していれば実施したとみなす。[-]

## 7 事業名 人間ドック

健康課題との関連

2018年度の当健保の特定健診受診率を見ると、加入者全体では、昨年度より0.3%増加し、単一健保平均より4.9%大きい。また、被保険者の受診率は健保平均より11.2%高いが、一方、被扶養者の受診率は単一健保平均より6.9%低い。  
 今後、被扶養者の健診受診率を如何に上げるかが課題である。  
 当健保の特定保健指導対象者割合を見ると、加入者全体ではここ数年は減少傾向にあり、2018年度は健保平均を1.2%下回った。また、被保険者の対象者割合は減少傾向にあるが、被扶養者の対象者割合も前年度より0.9%減少した。今後も引き続き、特定保健指導対象者を如何に減少させるかが課題である。  
 当健保の特定保健指導実施率は、年々増加し、2018年度で81.8%となった。この結果は、全事業所と連携して実施率向上を推進した成果が表れたといえる。被扶養者については、3名が終了に至った。今後は、被扶養者健診直後に初回面談を受けられる等の環境を検討していく。  
 成果として、特定保健指導対象者のうち約70%の体重が減少し、約60%の腹囲が減少した。今後はさらに特定保健指導で成果を上げ、特定保健指導対象者を減少させていく必要がある。

分類									
注1)事業分類	計画	3-イ	実施主体	計画	1. 健保組合	予算科目	疾病予防	新規・既存区分	既存
	実績	3-イ		実績	1. 健保組合				

事業の内容

対象者	計画	<b>対象事業所</b> 全て <b>性別</b> 男女 <b>年齢</b> 35～74 <b>対象者分類</b> 加入者全員							
	実績	<b>対象事業所</b> 全て <b>性別</b> 男女 <b>年齢</b> 35～74 <b>対象者分類</b> 加入者全員							

注2)プロセス分類	計画	イ,ウ,エ,オ	実施方法	計画	受診に際して健保より補助が出ることの広報を行い、受診率等をモニタリングする。	予算額	9,500千円
	実績	イ,ウ,エ,オ		実績	計画通り実施した。		
注3)ストラクチャー分類	計画	キ	実施体制	計画	健保専属保健師により、受診に際して健保より補助が出ることの広報と、モニタリングを実施。	決算額	3,785千円
	実績	キ		実績	計画通り実施した。		

実施計画 (令和元年度) 受診補助の広報を、健保HP、機関誌「健保ニュース」の一覧表で毎回掲示。実施率モニタリングは年2回実施。

振り返り	<b>実施状況・時期</b>	対象者：5,249名 受診者：161名 受診率：3.1%
	<b>成功・推進要因</b>	特になし。
	<b>課題及び阻害要因</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>受診率も低く、新規受診者も少ない。</li> <li>積極的に当健保でも広報をかけていない。</li> </ul>

評価 1. 39%以下

事業目標

受診率5%。人間ドックは高額であり、また費用に対する疾病予防効果も不明瞭であるため、受診率の数値目標はあえて高い数値は設定しない。

**アウトプット指標**

受診率（【現行値】3.2%【計画値/実績値】令和元年度：5%/3.1% 【達成度】38.4%）人間ドックは高額であり、また費用に対する疾病予防効果も不明瞭であるため、受診率の数値目標はあえて高い数値は設定しない。[-]

**アウトカム指標**

最終的な目的は疾病予防であるが、その評価は難しい。  
(アウトカムは設定されていません)

8事業名	<b>PET/CT（被保険者）</b>							
健康課題との関連	当健保の健康リスク者分布を見ると、他健保平均と比較して、正常群の割合が多く、一方、生活習慣病及び重症化患者の割合が少ない。他健保平均と比較して、全体的に健康側に分布している。この傾向は、被保険者についても同様である。脂質リスク者分布を見ると、正常群の割合が40%台と、血圧・血糖と比べて非常に低く、不健康な生活群が多い。今後、さらに正常群の割合を増加させていきたい。							
分類								
注1)事業分類	計画 3-イ	実施主体	計画 1. 健保組合	予算科目	疾病予防	新規・既存区分	既存	
	実績 3-イ		実績 1. 健保組合					
事業の内容								
対象者	計画 対象事業所 全て 性別 男女 年齢 35～74 対象者分類 被保険者							
	実績 対象事業所 全て 性別 男女 年齢 35～74 対象者分類 被保険者							
注2)プロセス分類	計画 イ,ウ,エ,オ	実施方法	計画 受診に際して健保より補助が出ることの広報を行い、受診率等をモニタリングする。	予算額	2,000千円			
	実績 イ,ウ,エ,オ		実績 計画通り実施した。					
注3)ストラクチャー分類	計画 キ	実施体制	計画 健保専属保健師により、受診に際して健保より補助が出ることの広報と、モニタリングを実施。	決算額	400千円			
	実績 キ		実績 計画通り実施した。					
実施計画 (令和元年度)	受診補助の広報を、健保HP、機関誌「健保ニュース」の一覧表で毎回掲示。実施率モニタリングは年2回実施。							
振り返り	<p><b>実施状況・時期</b> 対象者：3,609名 受診者：10名 受診率：0.3%</p> <p><b>成功・推進要因</b> 特になし。</p> <p><b>課題及び阻害要因</b> ・費用が高額であり、費用に対する予防効果も不明瞭である。現状維持で十分。</p>							

評価	3. 60%以上
事業目標	受診率0.5%。人間ドックは高額であり、また費用に対する疾病予防効果も不明瞭であるため、受診率の数値目標はあえて高い数値は設定しない。
<b>アウトプット指標</b>	
受診率（【現行値】0.5%【計画値/実績値】令和元年度：0.5%/0.3% 【達成度】33.3%）PET/CTは高額であり、また費用に対する疾病予防効果も不明瞭であるため、受診率の数値目標はあえて高い数値は設定しない。[-]	
<b>アウトカム指標</b>	最終的な目的は疾病予防であるが、その評価は難しい。 (アウトカムは設定されていません)

9 事業名	<b>ウォーキングイベント</b>								
健康課題との関連	当健保の健康リスク者分布を見ると、他健保平均と比較して、正常群の割合が多く、一方、生活習慣病及び重症化患者の割合が少ない。他健保平均と比較して、全体的に健康側に分布している。この傾向は、被保険者についても同様である。脂質リスク者分布を見ると、正常群の割合が40%台と、血糖・血糖と比べて非常に低く、不健康な生活群が多い。今後、さらに正常群の割合を増加させていきたい。								
分類									
注1)事業分類	計画	2,5-イ,5-ウ,5-エ,5-キ	実施主体	計画	3. 健保組合と事業主との共同事業	予算科目	体育奨励	新規・既存区分	既存
	実績	2,5-イ,5-ウ,5-エ,5-キ		実績	3. 健保組合と事業主との共同事業				
事業の内容									
対象者	計画	<b>対象事業所</b> 全て <b>性別</b> 男女 <b>年齢</b> 18～65 <b>対象者分類</b> 被保険者							
	実績	<b>対象事業所</b> 全て <b>性別</b> 男女 <b>年齢</b> 18～65 <b>対象者分類</b> 被保険者							
注2)プロセス分類	計画	ア,エ,キ,ケ,シ	実施方法	計画	事業所所属の産業医、保健師との協議に基づき、健保にてウォーキング・イベントを企画し、全事業所で開催。参加率を向上させるために、インセンティブポイントを付与。	予算額	8,000千円		
	実績	ア,エ,キ,ケ,シ		実績	計画通り実施した。				
注3)ストラクチャー分類	計画	ア,イ,ウ	実施体制	計画	健保にて企画立案。事業所の窓口経由で、参加者の募集を強力に行う。実施状況のモニタリング、健診結果に基づく効果検証は健保にて実施。	決算額	4,045 千円		
	実績	ア,イ,ウ		実績	計画通り実施した。				
実施計画 (令和元年度)	年2回、春秋に、それぞれ3か月間のウォーキング・イベントを開催する。今年度は個人、及びチームでの参加が可能で、チームについては、全くの自由メンバー、または同一部署メンバーなどとして興味を引き立てる工夫を盛り込む。インセンティブ付与も歩数の多い者だけでなく、歩数に関係なく付与するものも用意する。								

振り返り	<b>実施状況・時期</b>	2019年度は2回実施。累計参加率は26.2%。インセンティブポイント獲得率は、1回目77.1%、2回目86.0%となりウォーキングラリーに参加した多くの人が実際ウォーキングをしていることが確認された。
	<b>成功・推進要因</b>	インセンティブとして、また日々歩いた人にはポイントを付与したこと、Webを活用して記録に手間をかけさせずにできたことが成功要因と思われる。また、体重測定チャレンジと連動してウォーキングラリーを開催することで、健康情報Web/PepUpをアクセスする人が増え、それに応じてウォーキングラリーの歩数ランキングを確認する機会が増えたことが考えられる。
	<b>課題及び阻害要因</b>	さらなる参加率を目指し、各事業所の担当者に参加率向上のご意見をいただき、活用していく。

評価	5. 100%
----	---------

### 事業目標

ウォーキング・イベントへの参加率30%以上とし、成果としては、特定保健指導の対象者を毎年2%ずつ減少させること、及び運動習慣者の割合を毎年3%ずつ増加させることを目指す。

### アウトプット指標

参加率（【現行値】12.9%【計画値/実績値】令和元年度：30%/26.2% 【達成度】100%）できるだけ多くの人に参加してもらい、生活習慣改善の行動変容の機会にしてもらいたいため、まず第一に参加者の確保が重要。目標としては、年間参加率30%以上を目指す。[-]

### アウトカム指標

特定保健指導対象者の割合（【現行値】20.4%【計画値/実績値】令和元年度：18%/19.6% 【達成度】33.3%）ウォーキングの効果により特定保健指導対象者の割合を前年度より2%減少させ、18%を目指す。（2023年に10%まで減少させる）[-]  
 運動習慣者の割合（【現行値】36.0%【計画値/実績値】令和元年度：38.0%/39.1% 【達成度】100%）ウォーキング・イベント開催の効果により、運動習慣者の割合を増加させる。質問票、アンケート等による調査結果において、毎年3%ずつ運動習慣者の割合を増加させ、5年後に運動習慣者の割合を50%とすることを目指す。[-]

## 10 事業名 ジェネリック利用促進の通知

健康課題との関連 加入者全体の年齢分布が徐々に高齢側にシフトしており、一人当たり医療費が年々増加する傾向にある。疾病別に見ると、生活習慣に起因する疾病が全体の1/4を占める。これにがんも含めると疾病全体の1/3を占める。また、35.6%を占めるその他疾患においても、生活習慣に関係するものが多い。

### 分類

注1)事業分類	計画	7-ア,7-イ	実施主体	計画	1. 健保組合	予算科目	保健指導宣伝	新規・既存区分	既存
	実績	7-ア,7-イ		実績	1. 健保組合				

### 事業の内容

対象者	計画	対象事業所 全て	性別 男女	年齢 0～74	対象者分類 加入者全員
	実績	対象事業所 全て	性別 男女	年齢 0～74	対象者分類 加入者全員

注2)プロセス分類	計画	実施方法	計画	ジェネリック医薬品不使用による差額が一定基準発生した者に対し、年に1度ジェネリック差額通知を送付し、ジェネリック医薬品の使用促進を図る。また、3か月毎に被保険者宛てにメールにてジェネリック差額通知を送信すると共に、健康情報Webにも経年データを掲載することで、コスト意識を向上させ使用促進を図る。	予算額	750千円
	実績		実績	計画通り実施した。		
注3)ストラクチャー分類	計画	実施体制	計画	健保専属の保健師を中心に実施。ジェネリック医薬品差額通知の作成は委託先に委託し送付。通知の効果検証等は委託先と連携して実施。	決算額	595千円
	実績		実績	計画通り実施した。		
実施計画 (令和元年度)	風邪、インフルエンザが流行する直前の11月にジェネリック医薬品差額通知を送付。送付対象者は、直近のレセプトから過去1年間に、差額が300円以上発生した者とする。					
振り返り	<p><b>実施状況・時期</b> 2019年11月ジェネリック通知送付 通知対象者：2031名 (2018年7月～2019年6月の薬品購入者で差額効果が300円以上の者)</p> <p>①使用者/服用者 2020年3月末：71/222 (使用者31.9%)</p> <p>②ジェネリック使用割合 2020年3月末：81.8%</p> <p>③通知者の削減額 (2019年11月～2020年3月) 771千円 (GE使用者当たり5,356円)</p> <p><b>成功・推進要因</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>対象者の自宅宛てに直接送付。</li> <li>封筒に健保のメッセージを表示。</li> <li>保険証を発行した際に「ジェネリック希望シール」を貼ったうえでお渡しした。また、「ジェネリック希望シール」は任意ではがしていい旨を記載した説明用紙を保険証と一緒に同封した。</li> </ul> <p><b>課題及び阻害要因</b> 使用割合は順調に増加。</p>					
評価	5. 100%					
事業目標						



ジェネリック医薬品の使用促進指標として、ジェネリック医薬品使用者の割合を増やすこと、ジェネリック医薬品使用率（数量ベース）を増やすこととし、それぞれ数値目標を設定する。

#### アウトプット指標

ジェネリック医薬品使用者割合（【現行値】45.0%【計画値/実績値】令和元年度：50%/31.9% 【達成度】63.8%）ジェネリック差額通知の効果検証として、差額通知の配付者のうちジェネリック医薬品使用者の割合（ジェネリック医薬品使用者率）50%以上を維持。評価期間は、通知発行翌月から同年度3月までの全期間とする。

[-]

#### アウトカム指標

ジェネリック医薬品使用割合（【現行値】74.9%【計画値/実績値】令和元年度：80%/81.8% 【達成度】100%）年度末（3月度）におけるジェネリック医薬品使用割合（数量）80%以上[-]

11	事業名	<b>医療費通知</b>							
健康課題との関連	加入者全体の年齢分布が徐々に高齢側にシフトしており、一人当たり医療費が年々増加する傾向にある。疾病別に見ると、生活習慣に起因する疾病が全体の1/4を占める。これにがんも含めると疾病全体の1/3を占める。また、35.6%を占めるその他疾患においても、生活習慣に関係するものが多い。								
分類									
注1)事業分類	計画	2,5-キ	実施主体	計画	1. 健保組合	予算科目	保健指導宣伝	新規・既存区分	既存
	実績	2,5-キ		実績	1. 健保組合				
事業の内容									
対象者	計画	対象事業所 全て 性別 男女 年齢 0～74 対象者分類 加入者全員							
	実績	対象事業所 全て 性別 男女 年齢 0～74 対象者分類 加入者全員							
注2)プロセス分類	計画	工	実施方法	計画	健康情報Webを通じて被保険者宛に世帯ごとの医療費を通知し、医療費負担の観点から、健康意識と医療費適正化意識を向上を目指す。（Webデータはダウンロードして、e-taxからの医療費控除申請に利用可。）			予算額	350千円
	実績	工		実績	計画通り実施した。				
注3)ストラクチャー分類	計画	ケ	実施体制	計画	Web掲載、メール配信は外部委託にて行う。			決算額	0千円
	実績	ケ		実績	計画通り実施した。				

実施計画 (令和元年度)	健康情報Webに、毎月医療費通知を掲載し、そのつどメールにて掲載を知らせる。
振り返り	<b>実施状況・時期</b> 2019年度は健康情報Web/PepUpで通知とした。配信頻度は毎月1回。
	<b>成功・推進要因</b> 健康情報Web/PepUpによる配信で事業所担当者の手間を大幅に削減した。
	<b>課題及び阻害要因</b> 継続実施。
評価	5. 100%
<b>事業目標</b>	
医療費通知を毎月健康情報Webに掲載。	
<b>アウトプット指標</b>	医療費通知のWebへの掲載（【現行値】 - 【計画値/実績値】 令和元年度：100%/100% 【達成度】 100%）毎月医療費通知を健康Webに掲載 [-]
<b>アウトカム指標</b>	最終的な目的はヘルスリテラシーの向上であるが、その効果について他の事業との区別が難しい。 (アウトカムは設定されていません)

12	事業名	<b>インフルエンザ予防接種</b>							
健康課題との関連	<p>被保険者のインフルエンザ予防接種率は2018年度に1.8%増加し、インフルエンザ罹患率は2.8%減少した。この傾向は、2017年度、2018年度でみると、インフルエンザ予防接種率が増加すると罹患率が減少し、接種率が減少すると罹患率が増加するという予防接種の効果についての因果関係が見られる。</p> <p>2018年度のインフルエンザ罹患率は、加入者全体では前年度に対し2.8%減少し13.5%となったが、他健保平均と比べて3%程度高い傾向がある。被保険者の罹患率は増加傾向があるが、他健保平均よりやや低い。一方、被扶養者の罹患率は被保険者の約2倍で、他健保平均よりたかい。すなわち、被扶養者の罹患率が高いことが加入者全体の罹患率を高くしている。</p> <p>今後、被扶養者の罹患率を如何に減少させるかが課題であるが、現在、被保険者のみを対象としているインフルエンザ予防接種の補助を被扶養者へも展開すべきかの検討も進めていく。罹患予防にはうがい、手洗い等の感染予防も有効であるため、これらの啓蒙も合わせて続けていく。</p>								
<b>分類</b>									
注1)事業分類	計画	3-カ,5-キ	実施主体	計画	1. 健保組合	予算科目	疾病予防	新規・既存区分	既存
	実績	3-カ,5-キ		実績	1. 健保組合				
<b>事業の内容</b>									
対象者	計画	<b>対象事業所</b> 全て <b>性別</b> 男女 <b>年齢</b> 18～74 <b>対象者分類</b> 被保険者							
	実績	<b>対象事業所</b> 全て <b>性別</b> 男女 <b>年齢</b> 18～74 <b>対象者分類</b> 被保険者							
注2)プロセス分類	計画	イ,エ,キ,ケ,シ	実施方法	計画	事業所内にて集団で予防接種を実施。			予算額	12,000千円
	実績	イ,エ,キ,ケ,シ		実績	事業所内にて集団で予防接種を実施。				

注3)ストラクチャー分類	計画	ア,イ,ウ,キ,コ	実施体制	計画	事業所主体で実施し、健保は補助金の提供、及び効果検証を行う。	決算額	8,997 千円
	実績	ア,イ,ウ,キ,コ		実績	事業所主体で実施し、健保は補助金の提供、及び効果検証を行う。		

実施計画 (令和元年度) 11月～12月に事業所主体で予防接種を実施。健保機関誌「健保ニュース」にて、予防接種の大切さ、および健保より補助金が出ることを広報。

振り返り

**実施状況・時期** 10月～12月に実施。  
 被保険者数：4,628名  
 接種者：2,999名  
 利用率：64.8%  
 罹患率：805名  
 罹患率：8.5%

**成功・推進要因** 人数の多い事業所では勤務時間内に集団接種を実施しており、利用しやすい状況であった。

**課題及び阻害要因**  
 罹患率は5%下がっているが、新型コロナウイルス感染症の流行により感染予防行動を徹底していた方が多かったため、インフルエンザ予防接種による費用対効果ははっきりとはわからない。

評価 4. 80%以上

事業目標

目標値として接種率70%以上とする。

**アウトプット指標**

接種率（【現行値】59.1%【計画値/実績値】令和元年度：70%/64.8% 【達成度】92.5%）予防接種時のリスクに対して、疾病予防効果も不明瞭であるため、接種率の目標値を設定するのは難しいが、目安として予防接種の接種率70%以上を目標にする。[-]

**アウトカム指標** インフルエンザ罹患者の減少、インフルエンザ拡大の防止を図るのが目的であるが、予防手段として予防接種だけでは不十分なため評価は難しい。（アウトカムは設定されていません）

13 事業名 救急医薬品の送付

健康課題との関連 当健保の健康リスク者分布を見ると、他健保平均と比較して、正常群の割合が多く、一方、生活習慣病及び重症化患者の割合が少ない。他健保平均と比較して、全体的に健康側に分布している。この傾向は、被保険者についても同様である。脂質リスク者分布を見ると、正常群の割合が40%台と、血糖と比べて非常に低く、不健康な生活群が多い。今後、さらに正常群の割合を増加させていきたい。

分類

注1)事業分類	計画	2,5-キ	実施主体	計画	1. 健保組合	予算科目	疾病予防	新規・既存区分	既存
	実績	2,5-キ		実績	1. 健保組合				

事業の内容

対象者 計画 対象事業所 全て 性別 男女 年齢 18～74 対象者分類 加入者全員

	実績	対象事業所 全て 性別 男女 年齢 18～74 対象者分類 加入者全員							
注2)プロセス分類	計画	ス	実施方法	計画	新入社員等新規加入者に救急医薬品をひと箱分無償支給。		予算額	1,520千円	
	実績	ス		実績	計画通り実施した。				
注3)ストラクチャー分類	計画	ア	実施体制	計画	健保が医薬品を調達し、事業所から対象者へ配付してもらう。		決算額	2,108千円	
	実績	ア		実績	計画通り実施した。				
実施計画 (令和元年度)	5月、12月の2回、その間の新規加入者に医薬品を支給。								
振り返り	実施状況・時期		配布者：294名						
	成功・推進要因		特になし。						
	課題及び阻害要因		特になし。						
評価	5. 100%								

事業目標								
対象者に漏れなく救急医薬品を配付する。								
<b>アウトプット指標</b> 送付率（【現行値】100%【計画値/実績値】令和元年度：100%/100% 【達成度】100%）新たに健康保険の資格取得者になった者に漏れなく救急医薬品を無償で提供する。[-]								
<b>アウトカム指標</b> 目的は健康意識の向上と健保の認知であるが、本事業による単独評価は難しい。 (アウトカムは設定されていません)								

14	事業名	<b>体育奨励</b>								
健康課題との関連	当健保の健康リスク者分布を見ると、他健保平均と比較して、正常群の割合が多く、一方、生活習慣病及び重症化患者の割合が少ない。他健保平均と比較して、全体的に健康側に分布している。この傾向は、被保険者についても同様である。脂質リスク者分布を見ると、正常群の割合が40%台と、血糖と比べて非常に低く、不健康な生活群が多い。今後、さらに正常群の割合を増加させていきたい。									
分類										
注1)事業分類	計画	2,5-イ,5-エ,5-キ,8	実施主体	計画	2. 事業主が主体で保健事業の一部としても活用		予算科目	体育奨励	新規・既存区分	既存
	実績	2,5-イ,5-エ,5-キ,8		実績	2. 事業主が主体で保健事業の一部としても活用					
事業の内容										
対象者	計画	対象事業所 全て 性別 男女 年齢 18～74 対象者分類 被保険者								
	実績	対象事業所 全て 性別 男女 年齢 18～74 対象者分類 被保険者								

注2)プロセス分類	計画	ア,エ,ケ	実施方法	計画	心のリフレッシュと運動習慣のきっかけづくりとして、事業所が運動会、体力測定などを開催することに対して補助金を支給する。	予算額	3,000千円
	実績	ア,エ,ケ		実績	計画通り実施した。		
注3)ストラクチャー分類	計画	ア,イ,ウ,コ	実施体制	計画	事業所が企画し、健保が補助金を提供する。	決算額	133千円
	実績	ア,イ,ウ,コ		実績	計画通り実施した。		

実施計画 (令和元年度) 体育奨励補助の広報を、機関誌「健保ニュース」の一覧表で毎回掲示。参加率モニタリングは年2回実施。

振り返り

**実施状況・時期** 対象者：4,628名  
実施者：113名  
利用率：2.4%  
事業所主催運動会、体力測定イベントなどが開催された。

**成功・推進要因** 従業員の体力づくりだけでなく、従業員同士の交流にもなっている。こころの健康づくりにも貢献している。

**課題及び阻害要因** 運動会自体の開催が少ないため、例年利用率が低い。

評価 5. 100%

### 事業目標

事業所でのスポーツイベントへの被保険者参加率5%以上

**アウトプット指標** 参加者の割合（【現行値】10.5%【計画値/実績値】令和元年度：5%/2.4% 【達成度】48%）参加率を毎年5.0%以上維持。[-]

**アウトカム指標** 年に1回程度のイベント参加で運動習慣等の定着にはなりにくい。むしろ、他の事業で評価する。（アウトカムは設定されていません）

## 15 事業名 保養所利用補助

健康課題との関連 当健保の健康リスク者分布を見ると、他健保平均と比較して、正常群の割合が多く、一方、生活習慣病及び重症化患者の割合が少ない。他健保平均と比較して、全体的に健康側に分布している。この傾向は、被保険者についても同様である。脂質リスク者分布を見ると、正常群の割合が40%台と、血糖と比べて非常に低く、不健康な生活群が多い。今後、さらに正常群の割合を増加させていきたい。

### 分類

注1)事業分類	計画	2,5-イ,5-エ,8	実施主体	計画	1. 健保組合	予算科目	直営保養所	新規・既存区分	既存
	実績	2,5-イ,5-エ,8		実績	1. 健保組合				

### 事業の内容

対象者 計画 **対象事業所** 全て **性別** 男女 **年齢** 6～74 **対象者分類** 加入者全員

	実績	対象事業所 全て 性別 男女 年齢 6～74 対象者分類 加入者全員					
注2)プロセス分類	計画	ア,エ,ケ	実施方法	計画	被保険者が心身のリフレッシュのために旅行したとき、その宿泊費に対して家族を含めた人数分一定額の補助金を支給する。	予算額	4,200千円
	実績	ア,エ,ケ		実績	計画通り実施した。		
注3)ストラクチャー分類	計画	ス	実施体制	計画	被保険者に宿泊費補助の申請をしてもらい、健保より補助金を支給。	決算額	4,422千円
	実績	ス		実績	計画通り実施した。		

実施計画 (令和元年度)	宿泊費補助の広報を、機関誌「健保ニュース」の一覧表で毎回掲示。利用率モニタリングは年2回実施。						
振り返り	実施状況・時期	対象者：9,898名 利用者：1,268名 利用率：12.8%					
	成功・推進要因	全国すべての宿泊施設が対象となる。事業所の担当者から広報があった影響で利用率が増えた。					
	課題及び阻害要因	補助金が支給されることを知らない人がいるため、周知のために、継続的に健保だよりの保険事業一覧に掲載する必要がある。					
評価	5. 100%						

事業目標							
利用者の割合年10%以上							
アウトプット指標							
利用者の割合（【現行値】12.4%【計画値/実績値】令和元年度：10%/12.8% 【達成度】100%）全加入者に対する利用者の割合を毎年一定数確保し、心身のリフレッシュを図ってもらう。毎年10.0%以上維持。[-]							
アウトカム指標 目的は、加入者の心身のリフレッシュであるが、本事業による単独評価は難しい。 (アウトカムは設定されていません)							

16	事業名	電話健康相談							
健康課題との関連	当健保の健康リスク者分布を見ると、他健保平均と比較して、正常群の割合が多く、一方、生活習慣病及び重症化患者の割合が少ない。他健保平均と比較して、全体的に健康側に分布している。この傾向は、被保険者についても同様である。脂質リスク者分布を見ると、正常群の割合が40%台と、血糖と比べて非常に低く、不健康な生活群が多い。今後、さらに正常群の割合を増加させていきたい。								
分類									
注1)事業分類	計画	4-カ,5-エ,5-キ,6	実施主体	計画	1. 健保組合	予算科目	疾病予防	新規・既存区分	既存
	実績	4-カ,5-エ,5-キ,6		実績	1. 健保組合				
事業の内容									

対象者	計画	対象事業所 全て 性別 男女 年齢 0～74 対象者分類 加入者全員					
	実績	対象事業所 全て 性別 男女 年齢 0～74 対象者分類 加入者全員					
注2)プロセス分類	計画	エ,キ,ケ	実施方法	計画	心身に関わる相談窓口を設置し、加入者は誰でも、電話を利用して専門の相談員に心身に係る相談をすることができる。	予算額	1,500千円
	実績	エ,キ,ケ		実績	計画通り実施した。		
注3)ストラクチャー分類	計画	イ	実施体制	計画	電話相談業務は外部に委託して行い、実施状況については健保が委託先から定期的に報告を受ける。	決算額	1,136千円
	実績	イ		実績	計画通り実施した。		

実施計画 (令和元年度) 電話相談業務は外部に委託し、常時利用可能な環境とする。広く利用してもらうため、電話相談に関する広報を行う。①健保HPに常時掲載②機関誌「健保ニュース」の一覧表で毎回掲示③新規加入者に保険証と一緒にパンフレット、相談電話番号カードを送付

振り返り	<b>実施状況・時期</b>	からだの相談件数：121件 こころの相談件数：73件
	<b>成功・推進要因</b>	健保だよりやホームページ等で相談窓口の広報をした。
	<b>課題及び阻害要因</b>	健保だよりに保険事業一覧表を掲載し、他の保険事業と合わせて周知を図った。

評価 5. 100%

事業目標 電話健康相談を有効に活用してもらうため、健保HP・健保ニュース等で定期的に広報する。①健保HPへは常時掲載②機関誌「健保ニュース」の一覧表で毎回掲示③新規加入者に保険証と一緒に相談電話番号カードを送付

<b>アウトプット指標</b>	健保HP・健保だより広報（【現行値】4件【計画値/実績値】令和元年度：4件/4件 【達成度】100%）電話健康相談を有効に活用してもらうため、健保HP・健保だより等で定期的に広報する。①健保HPへは常時掲載②機関誌「けんぽだより」の一覧表で毎回掲示③新規加入者に保険証と一緒に相談電話番号カードを送付[-]
<b>アウトカム指標</b>	最終的な目的は疾病の防止にであるが、電話相談の直接的な目的は健康上の問題に対して適切な助言を受けてもらうことにあり、その効果について他の事業との区別が難しい。（アウトカムは設定されていません）

17	事業名	<b>禁煙推進</b>								
健康課題との関連	当健保の健康リスク者分布を見ると、他健保平均と比較して、正常群の割合が多く、一方、生活習慣病及び重症化患者の割合が少ない。他健保平均と比較して、全体的に健康側に分布している。この傾向は、被保険者についても同様である。脂質リスク者分布を見ると、正常群の割合が40%台と、血圧・血糖と比べて非常に低く、不健康な生活群が多い。今後、さらに正常群の割合を増加させていきたい。									
分類	注1)事業分類	計画	3-ア,3-イ,4-オ,4-カ,5-オ	実施主体	計画	1. 健保組合	予算科目	疾病予防	新規・既存区分	新規

	実績	3-ア, 3-イ, 4-オ, 4-カ, 5-オ		実績	1. 健保組合			
事業の内容								
対象者	計画	対象事業所 全て 性別 男女 年齢 40～74 対象者分類 基準該当者						
	実績	対象事業所 全て 性別 男女 年齢 40～74 対象者分類 基準該当者						
注2)プロセス分類	計画	エ,オ,キ,ク,サ	実施方法	計画	健保にて特定保健指導対象者を抽出し、そのうち喫煙習慣のある対象者に対して、特定保健指導初回面談時に禁煙に関するパンフレットを渡し、禁煙を指導する。	予算額	-	千円
	実績	エ,オ,キ,ク,サ		実績				
注3)ストラクチャー分類	計画	ケ	実施体制	計画	健保専属の保健師を中心に、特定保健指導委託会社と連携して特定保健指導の場で相談員から禁煙の指導を行う。	決算額	0	千円
	実績	ケ		実績				
実施計画 (令和元年度)	禁煙推進のため、特定保健指導対象者のうち、喫煙習慣のある者に対して、特定保健指導初回面談時に禁煙に関するパンフレットを渡し、禁煙を指導することで喫煙習慣者を減少させる。							
振り返り	実施状況・時期		2019年度特定保健指導において、初回面談時に禁煙に関するパンフレットを渡し、禁煙を指導した。 特定保健指導のうち禁煙者：250名 上記のうち面談実施者：237名（94.8%）					
	成功・推進要因		健康リスクの高い特定保健指導対象者のうち喫煙者に的を絞って実施。					
	課題及び阻害要因		禁煙に至ったかどうかは次回健診時の問診票により評価する。					
評価	5. 100%							
事業目標								



特定保健指導対象者のうち、喫煙習慣のある者に対し、喫煙習慣をやめさせる。目標：喫煙習慣者10%減少させ30%とする。

#### アウトプット指標

禁煙指導実施率（【現行値】 - 【計画値/実績値】令和元年度：80%/94.8% 【達成度】100%）特定保健指導対象者のうち、喫煙習慣のある者に対し、禁煙パンフレットを渡し禁煙指導実施。禁煙指導実施率＝禁煙指導実施者／徳地保健指導対象者で喫煙習慣のある者[-]

#### アウトカム指標

喫煙習慣者減少率（【現行値】 - 【計画値/実績値】令和元年度：30%/37.8% 【達成度】90%）特定保健指導対象者のうち、喫煙習慣のある者に対し、喫煙習慣をやめさせる。目標：特定保健指導対象者のうち、喫煙習慣者を30%減少させる。喫煙習慣者減少率＝〔（当該年度特定保健指導対象者のうち喫煙習慣者の人数）－（昨年度特定保健指導対象者のうち喫煙習慣者の人数）〕／（昨年度特定保健指導対象者のうち喫煙習慣者の人数）[-]

注1) 1. 職場環境の整備 2. 加入者への意識づけ 3. 健康診査 4. 保健指導・受診勧奨 5. 健康教育 6. 健康相談 7. 後発医薬品の使用促進 8. その他の事業

注2) ア. 加入者等へのインセンティブを付与 イ. 受診状況の確認（要医療者・要精密検査者の医療機関受診状況） ウ. 受診状況の確認（がん検診・歯科健診の受診状況） エ. ICTの活用（情報作成又は情報提供でのICT活用など）  
オ. 専門職による対面での健診結果の説明 カ. 他の保険者と共同で集計データを持ち寄って分析を実施 キ. 定量的な効果検証の実施 ク. 対象者の抽出（優先順位づけ、事業所の選定など）  
ケ. 参加の促進（選択制、事業主の協力、参加状況のモニタリング、環境整備） コ. 健診当日の面談実施・健診受診の動線活用 サ. 保険者以外が実施したがん検診のデータを活用 シ. 事業主と健康課題を共有 ス. その他

注3) ア. 事業主との連携体制の構築 イ. 産業医または産業保健師との連携体制の構築 ウ. 専門職との連携体制の構築（産業医・産業保健師を除く） エ. 他の保険者との共同事業 オ. 他の保険者との健診データの連携体制の構築 カ. 自治体との連携体制の構築  
キ. 医療機関・健診機関との連携体制の構築 ク. 保険者協議会との連携体制の構築 ケ. その他の団体との連携体制の構築 コ. 就業時間内も実施可（事業主と合意） サ. 運営マニュアルの整備（業務フローの整理）  
シ. 人材確保・教育（ケースカンファレンス／ライブラリーの設置） ス. その他